Fujitsu Software
Interstage List Creator

よくあるご質問（FAQ）

【共通】

Q: 「Interstage List Creator デザイナ 無制限ライセンス」について教えてください。
Q: Interstage List Creator にはどんな機能がありますか？

【購入相談】

Q: 「Excel ファイル出力」を利用する場合、どの製品を購入すればよいですか？
Q: クラスタ運用を行う場合、通常動作していない待機系のノード分もライセンスの購入は必要ですか？
Q: Navigator 連携に必要な製品について教えてください。
Q: 帳票開発は、ノンプログラミングでできますか？

【設計／開発】

Q: Excel ファイル出力時、Excel ファイル内に関数を埋め込むことはできますか？
Q: バーコードの出力方向は指定できますか？
Q: EIAJ バーコード（様式 C-3 および D ラベル）を出力することはできますか？
Q: バーコードの文字印刷部分のフォント指定をすることはできますか？
Q: EAN-128 バーコードの定義において、アプリケーション識別子・FNC1 の指定方法やスタートコード・ストップコード、入力データの指定方法および注意事項などについて教えてください。
Q: CODE128 のバーコード項目や入力データの指定方法がわかりません。スタートコード（CODE-A、CODE-B、CODE-C）、および コードセット（CODE-A、CODE-B、CODE-C）はどのように指定すればよいのか教えてください。
Q: 定期刊行物コード（新雑誌コード）を出力することはできますか？
Q: QR コードの分割はどのような場合に設定すればよいですか？
Q: QR コードの分割機能を使用した時、扱えるデータの量はどのように変わりますか？
Q: 分割機能を用いて QR コードを小型にした場合、どのようなメリットがありますか？
Q: QR コード（モデル 1・モデル 2）のサイズを設定したいのですが、何を基準にして設定すればよいのかわかりません。基準となる計算式などがあれば教えてください。
Q: Java のサーブレットから Interstage List Creator Enterprise Edition を使用して、帳票を PDF 化することができますか？
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 変換する際にオーバレイを除いてデータ部だけを変換することはできますか？
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 生成時の出力可能な文字範囲について教えてください。
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、非エンベッドで PDF を生成することはできますか？
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 生成時に、MS 明朝／MS ゴシックでエンベッドできますか？
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF にファイルを添付することができますか？
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF にファイルを添付する際、注意事項はありますか？
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、ページの拡大・縮小（Adobe Reader の『印刷』メニューから指定できる処理）を PDF 生成時にあらかじめ設定することはできますか？
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF を開いたとき、表示するときの拡大・縮小倍率をあらかじめ設定することはできますか？
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、帳票を PDF ファイル出力する場合、バーコードのサイズ（幅）を自在に設定する方法はありますか？
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイル出力時、バーコード項目のプロパティで文字印刷指定しても文字印刷されなかったりエラーになったりする場合があります。文字印刷できないバーコード種について教えてください。
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、QR コードつきの帳票を PDF 出力したとき、デザイナで設計したサイズやプレビューしたサイズより小さく PDF 化（面積比で約 1/2）されてしまいました。原因と対処方法を教えてください。
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF フォント登録機能と Interstage Charset Manager 連携という 2 つの方法で PDF 生成時に外字を出力できるとありますが、この 2 つの違いについて教えてください。
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、生成した PDF ファイルの暗号化はできますか？
Q: 帳票定義体の作成、更新を行ったコンピュータの確認方法について教えてください。
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF/A-1a（レベル A ISO 19005-1 完全準拠）の PDF を作成

することはできますか。

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF リモート印刷機能はネットワークプリンタを設定することができますか？

Q: 帳票の出力方法にはどのようなものがありますか？

Q: Interstage List Creator デザイナでどのような帳票を設計できますか？

Q: 帳票出力に使用できるインターフェースにはどのようなものがありますか？

Q: Interstage List Creator で使用できる入力データ形式にはどのような種類がありますか？

Q: Interstage List Creator の帳票内に使用できる画像には、どのようなものがありますか？

Q: 新しいバージョンで作成した帳票を、旧バージョンで読み込むことはできますか？

Q: 旧バージョンで作成した帳票を、新しいバージョンで読み込むことはできますか？

Q: 帳票への 1 つの入力データを同じタイプ・同じ桁数の複数の項目へ出力することはできますか？

Q: 帳票への 1 つの入力データを、異なるタイプの複数の項目へ出力することはできますか？

【構築（導入／移行）】

Q: Interstage List Creator V9 以前の、各製品の機能の違いについて教えてください。

Q: 拠点にプリンターだけを設置した環境（WAN 経由）での印刷はできますか？

Q: Interstage List Creator V10 以降の、各製品の機能の違いについて教えてください。

【運用／保守】

Q: Web プラグインを利用した環境で、プレビューでは正常に表示される外字が印刷すると文字化けしてしまいます。原因と対処方法を教えてください。

Q: Excel ファイル出力では、Microsoft Excel 2007 の標準の出力形式で出力されますが、この形式のファイルを Microsoft Excel 2000、Microsoft Excel 2002、および Microsoft Excel 2003 で使用することができますか？

Q: バーコード項目の項目長よりも長い桁のバーコードのデータが渡ってきた場合、どのような動作になるのか教えてください。

Q: バーコードを出力する時、データがすべて空白の場合のバーコードは出力できますか？

Q: 印刷する端末、印刷方法（Web 手元印刷、サーバ上での印刷など）、プリンタの種類によってバーコードの横幅が違うのはなぜですか？

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルに保存する場合、帳票設計時に定義した情報については、すべて表現することができますか？

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、クライアントの Web ブラウザからの要求を受け、サーバにおいてデータをもとに PDF を作成し、それをクライアントの Web ブラウザに表示させることはできますか？

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 出力する場合、PDF ファイルにファイルを開くパスワードなどのセキュリティを設定することができますか？

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、Server2000 ホスト連携プレミアムと連携して PDF 出力する場合、何か必要な製品はありますか？

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 生成時に使用できる TrueType フォントの種類を教えてください。

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 生成時にエンベッドする場合、ファイルサイズへの影響はありますか？

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、帳票の PDF 変換時に、PDF フォント登録処理を行っているにもかかわらずエンベッドしない場合の動作について教えてください。

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF フォント登録機能を使用して外字フォントを使用することはできますか？

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、prprint コマンドなどで帳票出力を行う場合、フォント登録の有無にかかわらず以下のようにマッピングして出力されてしまいます。正しく出力する方法を教えてください。

MS 明朝 ⇒ FUJ 明朝

MS ゴシック ⇒ FUJ ゴシック

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF に添付したファイルを抽出することができますか？

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF を開くと、“この文書には JavaScripts が含まれています。以後 JavaScripts を有効にしますか? JavaScripts が無効になっていると、文書が正しく動作しない場合があります。”（Acrobat 6.0 の場合）というメッセージが表示されます。メッセージの意味を教えてください。

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、フルスクリーン表示時の注意事項があれば教えてください。

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF をフルスクリーンで表示させたところタイトルバーが表示されません。この場合に PDF を閉じる方法について教えてください。

Q: Web ブラウザで生成した PDF を参照するか、または PDF 手元非表示印刷をした場合、同一ファイル名で PDF を生成すると内容の違う PDF であったとしても最初に生成した PDF が表示・出力されてしまいます。原因と対処方法を教えてください。

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition で生成した PDF ファイルをプリンタで印刷するとスプールに時間がかかってしまうのですが、これを短縮する方法はありませんか？

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信機能の送信時に必要な設定ファイルを教えてく

ださい。

- Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信機能で使用する PDF 電子メール環境設定ファイルの設定について教えてください。
- Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信機能で使用する PDF ファイルメール配信情報ファイルの設定について教えてください。
- Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信を行いたいのですが、送信時に必要な設定ファイルを教えてください。
- Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信を行うとき、オプションや設定ファイルで同一の設定ができる場合にどの設定が有効になるのかわかりません。これらの優先順位について教えてください。
- Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信を行った場合、PDF ファイルが届いたかを確認する方法はありますか？
- Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、暗号化、署名をするのに必要な設定について教えてください。
- Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信時に BCC（Blind Carbon Copy）にてメールを送信することはできますか？
- Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信時に Subject を設定することはできますか？
- Q: コマンドラインでコマンドを実行する場合、同じコマンドオプションを 2 つ付けた場合の動作を教えてください。
- Q: コマンドオプション自体にダブルクォーテーション（"）で囲った場合の動作を教えてください
- Q: 製品のバージョンを調べる方法について教えてください。
- Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF リモート印刷機能を使用する場合、クライアントの対応 OS を教えてください。
- Q: 同一帳票において、バーコードの表示／非表示を切替えることはできますか？
- Q: VSP プリンタに対して印刷したところ、指定した用紙長が切り上げられて印刷されてしまいます。原因と対処方法を教えてください。
- Q: 文書情報ファイルにはどのようなものがありますか？
- Q: 新しいバージョンで作成した帳票を、旧バージョンで出力することはできますか？
- Q: 旧バージョンで作成した帳票を、新しいバージョンで出力できますか？
- Q: 最新版への移行時の作業内容にはどのようなものがありますか？
- Q: アンインストールおよび上書きインストール時の注意事項について教えてください。
- Q: Interstage List Creator がインストールされているアプリケーションサーバにアクセスし、Interstage List Creator が作成した PDF ファイルの一覧を Web 上に表示することはできますか？
- Q: 帳票のプレビュー画面に、独自のカスタマイズを行うことはできますか？
- Q: 分散出力環境を構築する際のサーバ間転送の組合せを教えてください。
- Q: 帳票設定時の JPEG 圧縮時の品質について詳しく教えてください。
- Q: PDF 文書情報ファイルのキーワード、PDF-JPEGMODE と PDF-JPEGQUALITY の違いを教えてください。

【技術サポート】

- Q: 帳票を設計したり出力したりできますか？
- Q: 他の Interstage 帳票ソリューション製品と連携できますか？
- Q: PDF ファイルを出力する場合、PDF ファイルにおいてセキュリティを設定することができますか？
- Q: .NET アプリケーションから Interstage List Creator が使用できますか？
- Q: バーコードに対応していますか？
- Q: 帳票のテキスト文字を 90 度回転させて出力することができますか？
- Q: プログラムやスクリプトを記述して帳票生成や表示制御などができますか？
- Q: Unicode に対応していますか？
- Q: 「SystemWalker ListCREATOR」から後継製品にバージョンアップする場合、帳票定義や WEB アプリケーション（Java インターフェース使用）を変更する必要がありますか？
- Q: 「Interstage List Creator デザイナ」と「Interstage List Creator Workstation」を 1 台のパソコンで使用できますか？
- Q: 既存の COBOL アプリケーション資産を利用して、Interstage List Creator で帳票の出力ができますか？
- Q: COBOL アプリケーション連携が動作するプラットフォームを教えてください。
- Q: Interstage List Works 以外のソフトウェアと連携して、帳票の電子保存を行うことができますか？
- Q: クラスタ運用したいのですが、クラスタに対応していますか？
- Q: OpenType フォントを使うことはできますか？
- Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、SMTP サーバがダウンしているときにメール配信した場合の動作について教えてください。
- Q: オーバレイとは何ですか？
- Q: Interstage List Creator で使用するファイルの拡張子は、それぞれ何を表していますか？
- Q: マルチフォーム出力機能利用時、入力データを 1 レコードとすることはできますか？
- Q: アプリケーションサーバから帳票サーバへ帳票を出力するとき、入力データと帳票定義体の重ね合わせはどのサーバで行われますか？
- Q: データベースのデータを帳票への入力データとして扱うことはできますか？
- Q: PDF ファイル結合機能は、Interstage List Creator 以外で生成した既存の PDF を利用できますか？

Q: 生成した PDF／Excel ファイルを Web ブラウザから印刷・表示できますか？
Q: 印刷が正常に終了したことを保証できますか？
Q: 帳票を CSV 形式で出力することはできますか？
Q: アプリケーションサーバと帳票サーバが分かれている場合、アプリケーションサーバに Interstage List Creator Connector を導入しなくてもよい運用方法はありますか？
Q: 奇数ページにだけバーコードを出力することはできますか？
Q: 帳票開発時に、帳票にページ番号や、総ページ数を表示することはできますか？
Q: Excel で作成した帳票で使用している Office フォントを Interstage ListCreator で PDF 出力する場合、Interstage ListCreator サーバーに Office をインストールする必要はありますか？
Q: JIS2004 対応しているか教えてください。
Q: 帳票定義体の情報をまとめて変更することはできますか？
例：帳票定義体に指定されているフォントを一括で変更
Q: 帳票定義体の用紙指定時、「連帳」を選択して任意の用紙サイズを設定する場合、用紙サイズは用紙端のピンホールの部分も含むか教えてください。
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 出力する場合、作成された帳票の枚数を知る方法はありますか？
Q: Excel 形式に出力する場合、作成された帳票の枚数を知る方法はありませんか？
Q: Java インターフェースを用いた場合、使用する作業用ディレクトリにて、帳票を作成するとテンプファイルが残ります。原因と対処方法を教えてください。
Q: 「項目長」と「領域長」とは何か教えてください。
Q: 環境設定の「出力時の動作」タブにて「出力する字体の指定」の設定項目がありますが、どのようなとき設定すればよいのか教えてください。
Q: 帳票 Web サービスの環境設定時の「MAXSIZE_RET_DATA_BY_MEM」というパラメタは、どのような場合に設定を行えばよいか教えてください。
Q: Interstage List Works の帳票データ転送アダプタとデータ転送コネクタの違いを教えてください。
Q: CAD データを入力して、帳票を出力することはできますか？
Q: CAD データを gif や tif などの画像形式に変換した場合、PDF 出力はできますか？
Q: 条件によって種類の異なる明細を切り替えて出力することはできますか？
Q: 数字項目で扱える桁数の上限を教えてください。
Q: 帳票印刷時に両面印刷できません。原因と対処方法を教えてください。
Q: 帳票定義情報とは何か教えてください。
Q: 帳票様式情報とは何か教えてください。
Q: 帳票業務情報とは何か教えてください。
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 出力時に利用できる暗号化の種類について教えてください。
Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、URI 閲覧制限機能を利用する場合、URI のパスの中に半角空白を指定することはできますか？
Q: Interstage List Creator で帳票を作成すると、どんなファイルが作成されますか？
Q: 帳票資源の参照先、および帳票出力先（ファイル格納先）に、UNC 指定（¥¥コンピュータ名¥共有名¥ディレクトリ名）することができますか？
Q: サポートしている用紙サイズを教えてください。
Q: サポートしている罫線種を教えてください。
Q: 網がけや丸めのある枠／図形をサポートしていますか？
Q: サポートしている画像データ（イメージデータ）を教えてください。
Q: 帳票形式の種類と、各帳票形式の特徴を教えてください。また、帳票形式を決めるときの選択基準を教えてください。
Q: すでに作成した帳票の形式を、別の形式に変換することはできますか？
Q: 帳票の新規作成時、ウィザード機能はありますか？
Q: Excel や Word で作成した帳票を Interstage List Creator の帳票に変換できますか？
Q: 紙の帳票やプレプリント用紙に合わせて帳票を設計することができますか？
Q: 帳票設計時のグリッド間隔の単位を教えてください。
Q: 帳票様式定義画面に定義できる最大項目数を教えてください。
Q: 明細の件数に応じて明細行の枠や罫線を自動的に出力することができますか？
Q: オーバレイ罫線／枠と、パーティション罫線／枠の違いを教えてください。
Q: 帳票様式定義画面で、オーバレイの罫線／枠とパーティション罫線／枠を区別する方法を教えてください。
Q: データの演算結果だけを出力したいのですが、実現方法（帳票の設計方法）を教えてください。
Q: 連帳用紙に印刷する方法を教えてください。
Q: 複数の帳票を 1 つの帳票として出力する方法（帳票の設計方法）を教えてください。
Q: 「往復はがき」のように、両面でレイアウトが異なる帳票を出力する方法（帳票の設計方法）を教えてください。
Q: 入力データの上限値を教えてください。
Q: Interstage List Creator デザイナで kol5 オーバレイを作成できますか？
Q: 他システムで作成した kol5 オーバレイを kol6 オーバレイに変換できますか？
Q: 帳票様式定義画面で項目を重ねて配置する場合、表示の優先順位を指定できますか？

Q: 帳票設計時に項目を重ねて配置した場合、出力結果では項目はどのような順序で出力されますか？
Q: 帳票の出力時に、入力データ以外で、ある項目に対して出力するデータを指定する方法を教えてください。
Q: データ項目「宛名」のうしろに、余白を空けずに文字列「様」や「御中」を付けて出力する方法（帳票の設計方法）を教えてください。
Q: 入力データの値によって、ある文字列に取り消し線を引く方法（帳票の設計方法）を教えてください。
Q: 帳票の出力イメージを確認する方法はありますか？
Q: 帳票様式情報の仕様（帳票レイアウト情報、入力データ情報など）の定義情報を一覧形式で出力できますか？
Q: 複数ページにわたる帳票を出力する場合、出力範囲（出力するページ）を指定できますか？
Q: データベースと連携して帳票出力できますか？
Q: 外字（利用者定義文字）を出力できますか？（帳票出力サーバが Solaris、または Linux の場合）
Q: 帳票出力コマンドを複数実行した場合、実行した順番で帳票出力されますか？
Q: 帳票に写真などのイメージデータを出力する方法（帳票の設計方法）を教えてください。
Q: 帳票出力コマンド実行時、正常に出力されたか否かを判断する方法はありますか？
Q: OS のシステム日付や時刻を変更した場合、Interstage List Creator の運用に何か影響はありますか？
Q: 入力データ中に NULL 値（0x00）を指定できますか？
Q: 帳票出力時、帳票の用紙方向「縦」、「横」を指定することはできますか？
Q: 帳票出力結果において、パーティションの間に隙間ができるのですが、原因と対処方法を教えてください。
Q: Interstage List Creator が出力するメッセージのファシリティレベル、および、プライオリティを教えてください。
Q: 半角カタカナは、日本語フォントと英文フォントのどちらのフォントで出力されますか？
Q: Interstage List Creator で使用できるプリンタを教えてください。（帳票出力サーバが Windows の場合）
Q: Interstage List Creator で使用できるプリンタを教えてください。（帳票出力サーバが Solaris の場合）
Q: Interstage List Creator で使用できるプリンタを教えてください。（帳票出力サーバが Linux の場合）
Q: オーバレイを重畳せずに出力することはできますか？
Q: Interstage Print Manager と連携して帳票出力する場合、Interstage Print Manager の印刷属性情報を指定できますか？
Q: 段組みの帳票を出力する方法を教えてください。
Q: 用紙サイズ「A1」や「A2」の帳票を出力できますか？
Q: 帳票出力時、用紙交換メッセージを通知することはできますか？
Q: 帳票出力時、印刷プリンタにリモートプリンタを指定できますか？
Q: プリンタの出力方法によって、出力結果の解像度は異なりますか？（帳票出力サーバが Solaris の場合）
Q: プリンタの出力方法によって、出力結果の解像度は異なりますか？（帳票出力サーバが Linux の場合）
Q: ユーザー定義用紙（単票）に印刷する方法を教えてください。
Q: Interstage List Works と連携して電子保存する場合、1 ページあたりの行数に制限はありますか？
Q: ECM 連携機能使用時、出力した帳票や ECM 連携ファイルなどを移動、または削除する機能はありますか？
Q: ECM 連携機能使用時、帳票の出力先（PDF ファイルの納先、または Excel ファイルの格納先）フォルダに、出力するファイル名と同一名のファイルがすでに存在する場合、上書きされますか？
Q: ECM 連携機能を使用して帳票出力した場合、ECM 連携ファイルの出力先（格納先）を教えてください。
Q: 1 回の帳票出力（ユーザーアプリケーション）の実行で、同じ帳票を複数の出力先に出力できますか？
Q: リモート帳票出力時、データを圧縮して転送できますか？
Q: リモート帳票出力時、またはコネクタ連携時、帳票出力ごとにプリンタを切り替えて出力することはできますか？
Q: 帳票を出力したアプリケーションとは別のアプリケーションで、帳票の出力結果を取得することができますか？
Q: リモート帳票出力コマンド実行時、帳票資源の参照先、および帳票出力先（ファイル格納先）に UNC 指定（¥¥コンピュータ名¥共有名¥ディレクトリ名）することができますか？
Q: リモート帳票出力機能で使用する TCP/IP ポート番号を教えてください。
Q: コネクタ連携型の導入メリットや特長を教えてください。
Q: コネクタ連携時の同時に受信可能な接続数（最大同時接続許可数）を教えてください。
Q: コネクタ連携時、帳票出力サーバ側で出力される帳票（PDF ファイル／OWF ファイル／Excel ファイル）のアクセス権を教えてください。
Q: コネクタ連携時の接続タイムアウト時間を教えてください。
Q: コネクタ連携機能のサービスの起動および停止する場合の root ユーザーのログインシェルを教えてください。
Q: シェルからコマンドを実行する場合の注意事項を教えてください。
Q: コネクタ連携時、アプリケーションサーバ、および帳票出力サーバ以外の第 3 のコンピュータに、PDF ファイル形式や Excel ファイル形式の帳票を出力できますか？
Q: コネクタ連携時、通信対象の帳票出力サーバのコンピュータ名に仮想 IP アドレスを指定できますか？
Q: データ到着監視機能は何秒ごとにディレクトリの変化を検索しますか？
Q: データ到着監視時、複数のデータファイルが到着していた場合、帳票出力を並列で処理する最大数を教えてください。
Q: データ到着監視時、帳票出力が異常終了した場合のデータファイルの扱いを教えてください。
Q: データ到着監視時、監視フォルダに複数のデータファイルが到着した場合、どのような出力順序で出力されますか？
Q: データ到着監視時、帳票が正常に出力されたか否かを判断する方法はありますか？
Q: データ到着監視時、推奨しているファイル転送ソフトはありますか？
Q: データ到着監視時、使用できるプリンタを教えてください。
Q: Interstage List Creator の環境設定画面で、［作業用ディレクトリ］と［監視ディレクトリ］に、同じディレクトリを指定してもよい

ですか？
Q: データ到着監視時の帳票を出力するユーザーを教えてください。
Q: データ到着監視時、監視ディレクトリにネットワークドライブを指定することはできますか？
Q: 帳票の出力時に、いつ、だれが、どの帳票を、どのように出力したかなど、帳票出力に関する情報を知る方法はありますか？
Q: 監査証跡ログに出力される情報を教えてください。
Q: Web ブラウザ上で帳票出力できますか？
Q: Web 手元印刷機能使用時、Web クライアント側で使用できる Web ブラウザを教えてください。
Q: Web 手元印刷機能使用時、Web クライアント側でサポートしている出力方法を教えてください。
Q: Web アプリケーション連携機能使用時、Web プラグインのインストール方法を教えてください。
Q: Web アプリケーション連携機能使用時、Web プラグインのアンインストール方法を教えてください。
Q: Web アプリケーション連携機能使用時、ダウンロードした OWF ファイルは、Web ブラウザの一時ファイル（キャッシュ）に蓄積されますか？
Q: Web アプリケーション連携機能使用時、Web クライアントから連続印刷した場合、印刷実行の順番で帳票出力されますか？
Q: Web アプリケーション連携機能使用時、ユーザアプリケーションが OWF ファイルの総ページ数を取得する方法はありますか？
Q: Web アプリケーション連携機能使用時、帳票出力サーバ（Interstage List Creator）と Web クライアント（Interstage List Creator Web プラグイン）のバージョンを揃える必要はありますか？
Q: Java インターフェースを使用したサンプルプログラムはありませんか？
Q: 帳票出力時、スプール完了後も、帳票の出力完了、またはスプールドキュメント削除／保留などの状態になるまでコマンドの終了を待ち合わせることはできますか？
Q: Interstage List Creator をインストールしているコンピュータの IP アドレス、コンピュータ名を変更した場合、何か対処する必要がありますか？（Windows の場合）
Q: Interstage List Creator をインストールしているコンピュータの IP アドレス、コンピュータ名を変更した場合、何か対処する必要がありますか？（Solaris、Linux の場合）
Q: 1 つのコンピュータに、帳票出力サーバ製品（Interstage List Creator Enterprise Edition、または Interstage List Creator Standard Edition）と、Web クライアント製品（Interstage List Creator Web プラグイン）をインストール（同梱）できますか？
Q: COBOL アプリケーション連携機能で使用できる帳票（帳票定義情報）を教えてください。
Q: サイレントインストールできますか？
Q: Windows 版 Interstage List Creator のインストール方法を教えてください。
Q: Solaris 版 Interstage List Creator のインストール方法を教えてください。
Q: Linux 版 Interstage List Creator のインストール方法を教えてください。
Q: 製品媒体からのインストールではなく、インストール済みのコンピュータからドライブごとコピーした環境で運用することはできますか？
Q: トレースログの格納ディレクトリを変更できますか？
Q: 帳票出力時、作成される一時ファイル、または不要ファイル（エラー時に残るファイル）を教えてください。（Windows 版）
Q: アプリケーションサーバ側で出力されるログファイルごとのサイズの詳細を教えてください。（Windows 版）
Q: 帳票出力時の入力データを退避する機能を使用した場合、退避した入力データを二次活用できますか？
Q: Windows 版 Interstage List Creator のサービス、および Windows 版 Interstage List Creator が動作する上で必要な OS のサービスを教えてください。
Q: Interstage List Creator は、Java 暗号化拡張機能（JCE：Java Cryptography Extension）を使用していますか？
Q: アプリケーションサーバ側で出力されるログファイルごとのサイズの詳細を教えてください。（Solaris 版／Linux 版）
Q: 帳票出力サーバ側で出力されるログファイルごとのサイズの詳細を教えてください。（Windows 版）
Q: 帳票出力サーバ側で出力されるログファイルごとのサイズの詳細を教えてください。（Solaris 版／Linux 版）
Q: サンプル帳票はありますか？
Q: 画面（GUI）から帳票出力できますか？
Q: 帳票出力ユーティリティのサポート範囲を教えてください。
Q: 帳票出力ユーティリティ画面の指定内容を保存できますか？
Q: 監査証跡ログを確認するために必要な権限を教えてください。
Q: 監査証跡ログファイルの文字コードを教えてください。
Q: 帳票様式定義で定義した項目と入力データの関連付けや、関数などの演算はどこで指定できますか？
Q: 帳票に出力時の属性（プロパティ）や動作などを定義できますか？
Q: Interstage Navigator Server 連携機能で使用する TCP/IP ポート番号を教えてください。
Q: コネクタ連携機能で使用する TCP/IP ポート番号を教えてください。
Q: 帳票出力ユーティリティのサポート範囲を教えてください。

【共通】

Q:「Interstage List Creator デザイナ 無制限ライセンス」について教えてください。

A: Interstage List Creator デザイナのライセンスが無制限に何人でも利用できる商品です。
Interstage List Creator デザイナ 無制限ライセンスを 1 本購入することで、インストールするマシン台数にかかわらず、無制限に利用できるため、非常にお得な商品です。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9

【共通】

Q: Interstage List Creator にはどんな機能がありますか？

A: Interstage List Creator には、帳票設計や保守機能を持つ、帳票設計機能と、帳票生成機能（アプリケーションサーバ機能）や帳票出力機能を持つ、帳票運用機能があります。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【購入相談】

Q:「Excel ファイル出力」を利用する場合、どの製品を購入すればよいですか？

A:「Interstage List Creator Enterprise Edition V9.0.0」以降のバージョン／レベルの製品を購入してください。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9

【購入相談】

Q: クラスタ運用を行う場合、通常動作していない待機系のノード分もライセンスの購入は必要ですか？

A: 待機系のノード分のライセンス購入は必要ありません。
クラスタシステム上で Interstage List Creator を使用する場合は、運用系のノード数分購入してください。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【購入相談】

Q: Navigator 連携に必要な製品について教えてください。

A: Navigator 連携に必要な製品は以下の 5 製品です。

- Interstage List Creator Standard Edition ／ Enterprise Edition
- Interstage List Creator デザイナ
- Interstage Navigator Server
- Navigator Windows クライアント（Interstage Navigator Server に同梱）
- データベース（Symfoware、Oracle、SQL Server）

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8

【購入相談】

Q: 帳票開発は、ノンプログラミングでできますか？

A: できます。

帳票レイアウトの設計や、帳票レイアウト内での各種演算／自動改ページといった制御の定義は、List Creator デザイナという GUI ツール内で行うことができますので、ノンプログラミングでの開発が可能です。帳票の出力は、Interstage List Creator が提供する帳票出力用インターフェースを使用して行うことになりますので、アプリケーションによる実行（または bat などでの実行）が必要となります。提供している帳票出力用インターフェースの種類は、以下のとおりです。

- コマンド
- Java インターフェース
- .NET インターフェース
- カスタムコントロール（OCX）
- COBOL インターフェース
- CFX インターフェース ColdFusion MX
- 帳票 Web サービスインターフェース

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: Excel ファイル出力時、Excel ファイル内に関数を埋め込むことはできますか？

A: できません。

List Creator では、入力データに 関数（計算式）を指定しても文字列として処理されます。このため、例えばテキスト項目や数字項目の場合は以下のような動作となります。

＜テキスト項目の場合＞
関数（計算式）が文字列としてそのままセルに表示されます。

＜数字項目の場合＞
以下のエラーになります。
「数字項目 ＜項目名＞ として読み込んだデータが不当であるため処理できません。処理を打ち切ります。」

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9

【設計／開発】

Q: バーコードの出力方向は指定できますか？

A: できます。

ただし、バーコード種別と出力方法によって指定できる値が異なります。

＜カスタマバーコード以外＞
バーコードの方向に 0、90、180、270 度を指定することができます。
出力方法による制限はありません。

＜カスタマバーコード＞

- 出力方法：電子保存
  0 または 270 度が指定可能です。それ以外の値（90、180）を指定した場合はバーコードが出力されません。
- 出力方法：電子保存以外
  0、90、180、270 度が指定可能です。ただし、180 は 0、270 は 90 が指定されたものとして扱われます。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: EIAJ バーコード（様式 C-3 および D ラベル）を出力することはできますか？

A: できます。
バーコード種別に「Code 3 of 9(EIAJ 準拠)」を指定することで出力できます。出力できる様式は、様式 C-3 ラベル、様式 D ラベル、標準納品書、および標準返品伝票の 1 段表記です。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: バーコードの文字印刷部分のフォント指定をすることはできますか？

A: できません。
バーコードの文字印刷部分のフォントは、Interstage List Creator 側でイメージとして生成されますので、このフォントを変更することはできません。バーコードの文字印刷部分のフォントを変更する場合、バーコード項目ではバーだけを出力し（バーコード項目のプロパティで「文字印刷」を OFF にし）、その下にテキスト項目を別途定義し、そのテキスト項目についてフォント指定した上で出力することで、任意のフォントで出力することができます。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: EAN-128 バーコードの定義において、アプリケーション識別子・FNC1 の指定方法やスタートコード・ストップコード、入力データの指定方法および注意事項などについて教えてください。

A: 以下の手順で定義します。

＜帳票の定義方法＞

1. EAN-128 を定義した帳票の様式定義画面の［プロパティ］を開き、［バーコード］タブの中の［バーコード情報を指定する］をチェックします。

2. 2.1.において、FNC1 の指定は、デフォルト［FB］になっていますが、これは指定し直す必要があります。指定できる文字の範囲は、2 桁の 16 進数で、01～FF（0A、0D、1A、1F、20 を除く）の範囲内で指定します。
   ※1：入力データにはその文字コードに割り当てられている文字を指定します。
   ※2：EAN-128（コンビニエンスストア向け）については、FNC1 のプロパティ上の指定や入力データでの指定は不要です。

3. バーコード項目の項目長の設定をしてください。項目長には、スタートコード・ストップコード・チェックデジットは加算しないでください。アプリケーション識別子の桁数とそれに続くデータ、および FNC1 の桁数を加算し、加算結果ぴったりの数値を設定してください（アプリケーション識別子はカッコ付きですが、カッコの分は桁数に含めないでください）。
   ※3：加算結果より大きい値で項目長を設定した場合（入力データが項目長に満たない場合）は、その分バーコードの最後に空白が挿入されます。

＜入力データの指定方法＞
スタートコード、ストップコード、チェックデジットは、製品側で自動付加しますので、入力データに含める必要はありません。入力データに指定するのは、上記以外の文字列です。

入力データ設定例 ： FNC1 に『A5』を指定した場合
「A5」は、文字にすると「・」（半角中点）ですので、この場合は入力データに「・」を指定します。
FNC1 の指定に関しては、EAN128 であることを示す意味で先頭に指定し、以降は可変長データとアプリケーション識別子の間にデータの区切りを示すために指定してください。

＜アプリケーション識別子に関する注意事項＞
アプリケーション識別子に指定できる数値は、国際 EAN 協会が出展した「UCC/EAN Application Identifier Standard 1996 年 7 月版」に掲載されている数値だけです。

プラットフォーム　: Windows

バージョン　　：V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: CODE128 のバーコード項目や入力データの指定方法がわかりません。スタートコード（CODE-A、CODE-B、CODE-C）、および コードセット（CODE-A、CODE-B、CODE-C）はどのように指定すればよいのか教えてください。

A: Interstage List Creator で CODE128 を出力する場合、入力データにはデータ部だけ指定します。スタートコード（CODE-A、CODE-B、CODE-C）、ストップコード、チェックキャラクタ、およびコードセット（CODE-A、CODE-B、CODE-C）を指定する必要はありません。帳票設計時もバーコード項目の項目長にはデータ部分の長さを指定します。
（ただし、FNC1 を指定する場合は、FNC1 を入力データに含める必要があります。）
指定方法は以下の FAQ を参照してください。
「EAN-128 バーコードの定義において、アプリケーション識別子・FNC1 の指定方法やスタートコード・ストップコード、入力データの指定方法および注意事項などについて教えてください。」

スタートコード、ストップコード、チェックキャラクタ、コードセットは帳票出力時に List Creator が自動的に付加します。
List Creator で出力する CODE128 のコードセットは List Creator が入力データの内容より自動判別して付加します。判別方法として、コードセットは「バーコードの桁数が最も小さくなるように」使い分けます。そのためバーコードの途中でコードセットを切替える場合もあります。なお、ストップコードには常に固定のパターンを出力します。

プラットフォーム　：Windows
バージョン　　：V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: 定期刊行物コード（新雑誌コード）を出力することはできますか？

A: できます。
ただし、完全に定期刊行物コードの規約通りの出力はできません。また、Windows 上でしかできません。
以下の設定を行ってください。

＜Interstage List Creator デザイナでのバーコード定義方法＞

- バーコード種に『EAN-13』を選択後、『アドオンデータ』のチェックをオンにし、項目長を 5 に設定する
- 『文字印刷』、『フラグキャラクタを下に印刷』のチェックはオフにする
- 帳票様式定義画面のプロパティの『バーコード』タブは、デフォルトのままにしておく
  （細太エレメント比 1:3、クワイエットゾーンを項目内に描画）
- PDF 出力の場合は、帳票のプロパティの『ファイル』タブの『文書情報』にて、『バーコードを項目のサイズに収まるように出力する』のチェックをオンにする
- バーコード項目の右横に OCR-B 項目を 2 段（13 桁と 5 桁）に分けて定義する

＜バーコード項目の横幅の設定について＞

● 印刷の場合
Interstage List Creator は、プリンタの解像度にあわせて出力しますので、解像度ごとに以下のバーコード項目の横幅の設定を行ってください。

- 300dpi：6.0cm（実寸：5.15cm）
- 400dpi：5.5cm（実寸：4.85cm）
- 600dpi：5.5cm（実寸：4.85cm）
- 1200dpi：6.0cm（実寸：5.10cm）

● PDF 出力の場合
PDF 出力の場合はプリンタの解像度を意識しないので、解像度にかかわらず以下のバーコード項目の横幅の設定を行ってください。

- 5.5cm（実寸：4.80cm）

（PDF 出力後に印刷する場合は、解像度 600dpi 以上のプリンタをご使用ください。）
※実寸は、クワイエットゾーンを含まないバーコードの実際の出力幅です。

上記の設定により、読み取り可能な定期刊行物コードは出力できますが、バーコード項目と OCR-B 項目の両方に入力データを指定する必要があります。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: QR コードの分割はどのような場合に設定すればよいですか？

A: 以下の場合に、QR コードの分割を行います。

- 大量のデータを扱う場合
- 出力される QR コードを小さくしたい場合

QR コードを分割した際に扱えるデータの量については、下記 FAQ を参照してください。
「QR コードの分割機能を使用した時、扱えるデータの量はどのように変わりますか？」

QR コードを分割して、一つ一つの QR コードを小型にした場合のメリットについては、下記 FAQ を参照してください。
「分割機能を用いて QR コードを小型にした場合、どのようなメリットがありますか？」

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: QR コードの分割機能を使用した時、扱えるデータの量はどのように変わりますか？

A: QR コードの分割を行うと、1 つあたりの QR コードのサイズを大きくすることなく、大量のデータを扱えるようになります。
例：QR コード（モデル 1）、誤り訂正比率が 7%、データが数値だけの場合
非分割時： 最大 1167 文字が出力可能
分割数 2： 最大 2334 文字（分割したバーコードそれぞれに最大 1167 文字）が出力可能

ただし、Interstage List Creator における入力データ長の MAX は 9999 となっています。そのため、上記の例で分割数を最大の 16 に設定した場合は 625 文字ずつ 16 に分割されることになります（1167×16 文字を出力できるわけではありません）。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: 分割機能を用いて QR コードを小型にした場合、どのようなメリットがありますか？

A: QR コードの分割を行い、1 つ 1 つの QR コードを小型にすれば、細長いエリアなどへの出力が可能となります。
また、QR コードを大きくすると、その分だけ読み取り時にバーコードとリーダを離す必要があります。これは、操作性および読み取り率低下の原因となります。
QR コードの分割の指定は、Interstage List Creator デザイナのバーコード項目設定時に行います。QR Code 詳細設定で分割数と分割方向の設定ができます。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: QR コード（モデル 1･モデル 2）のサイズを設定したいのですが、何を基準にして設定すればよいのか

わかりません。基準となる計算式などがあれば教えてください。

A: サイズの求め方は以下の通りです。

1. **バーコード要素決定**
   QR コードのサイズに影響を与える以下の I.～III.の要素を決定してください。

   1. 項目長
      入力可能なデータの長さです。
   2. データ種
      以下の 4 種類があります。

数字のみ （圧縮率）	高
英数字のみ	↑
バイトデータ	↓
漢字	低

   3. 誤り訂正比率
      以下の 4 パターンがあります。詳細は、JIS 規格などを参照してください。

誤り訂正比率	復元能力%
L	7
M	15 （←List Creator デフォルトレベル）
Q	25
H	30

2. **型番を決める**
   型番決定の際は、JIS 規格書「JIS X 0510 二次元コードシンボル－QR コード－基本仕様」を参照してください。各型番、データ種、誤り 訂正レベル別に格納可能なデータ数が表にまとめられています（表 7～表 10）。

   例： 誤り訂正レベルを M で、英数字のみで 256 文字を格納したい場合、型番 8 が 221 文字、型番 9 が 262 文字なので、型番 9 ならば収まる。

3. **型番に対するモジュール数を求める**
   型番が決まったら、同じく JIS 規格書にある「表 1 QR コードの全型番のデータ容量」を参照してください。型番に対する一辺のモジュール数が記載されています。

4. **モジュール数とセルサイズをかけてバーコード一辺のサイズを求める**
   3.で求めたモジュール数にセルサイズを掛け合わせると、QR コードの一辺の長さが求められます。セルサイズ（基本モジュール幅）は、印字するセルの大きさをプリンタの解像度、バーコードリーダの読み取り精度を考慮し、決定するものです。

   ★出力方法が印刷の場合
   低解像度のプリンタ（200dpi 相当）を想定したサイズを記載します。

   ※下記で求めたバーコード項目一辺のサイズは、低解像度の場合のサイズですので、その値を MAX 値とお考えいただければよいです。実際の描画においては、List Creator 側でプリンタ解像度に合わせて出力処理を行いますので指定したサイズより小さく出力される場合があります。

   <クワイエットゾーンをバーコード項目の範囲内に描画する場合（デフォルト）>
   クワイエットゾーンは、セルサイズの 4 倍（この幅が左右（または上下）それぞれに必要）になります。
   バーコード一辺のサイズ方法は以下の通り。

   l = （m＋8）× x ・・・ 式（A）
   l： バーコード一辺のサイズ
   m： モジュール数
   x： セルサイズ（プリンタ解像度が 200dpi 相当では、0.375）

   例：256 文字の英数字のみのデータで、誤り訂正比率が 30%の場合
   型番は 13 と決定でき、型番 13 に対応したモジュール数は 69 なので

   （69 ＋8） × （0.375） = 28.875（mm）

   <クワイエットゾーンをバーコード項目の範囲内に描画しない場合>
   クワイエットゾーンを含めない場合は、上記式（A）中の"＋8"が不要となります。

l = m × x
l： バーコード一辺のサイズ
m： モジュール数
x： セルサイズ（プリンタ解像度が 200dpi 相当では、0.375）

★出力方法が PDF の場合
PDF 出力の場合、解像度という概念がありませんので、解像度によってセルサイズの値が変わることはありません。
PDF 出力の場合、セルサイズは 0.264mm 以上を推奨値とし、以下の計算式によってバーコード項目の一辺のサイズを割り出します。

※0.264mm 未満の値を入れて計算してバーコード項目の一辺のサイズを設定しますと、読み取りできない可能性が高くなりますので、ご注意ください。

＜クワイエットゾーンをバーコード項目の範囲内に描画する場合（デフォルト）＞
クワイエットゾーンは、セルサイズの 2 倍（この幅が左右（または上下）それぞれに必要）になります。

l = （m＋4） × x　　・・・ 式（B）
l： バーコード一辺のサイズ
m： モジュール数
x： セルサイズ（0.264mm 以上推奨）

＜クワイエットゾーンをバーコード項目の範囲内に描画しない場合＞
クワイエットゾーンを含めない場合は、上記式（B）中の"＋4"が不要となります。

l = m × x
l： バーコード一辺のサイズ
m： モジュール数
x： セルサイズ（0.264mm 以上推奨）

- 補足

上記は新 JIS 規格にて推奨シンボル形式とされているモデル 2 の JIS 規格書の表を基に実例をあげて説明しています。モデル 1 の場合は、モデル 1 用の表にて型番を特定し、計算方法は上記の通り行ってバーコード項目のサイズを求めてください。

プラットフォーム　：Windows
バージョン　：V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: Java のサーブレットから Interstage List Creator Enterprise Edition を使用して、帳票を PDF 化することができますか？

A: できます。
Interstage List Creator の帳票を出力するための Java 言語用インターフェースとして Java クラスライブラリを提供しています。

プラットフォーム　：Windows　Solaris　Linux
バージョン　：V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 変換する際にオーバレイを除いてデータ部だけを変換することはできますか？

A: できます。
プレプリント用紙に出力する場合など、帳票出力時にオーバレイを出力（印刷）しないように設定できます。
設定手順は以下のとおりです。

＝ 設定手順 ＝

1. Interstage List Creator デザイナで帳票の様式定義画面の［プロパティ］を開きます。
2. ［オーバレイ］タブの中の［オーバレイを印刷する］のチェックを外します。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 生成時の出力可能な文字範囲について教えてください。

A: PDF 変換機能で使用できるフォントは、JIS 第一水準／第二水準です。外字を使用する場合は、Interstage Charset Manager V6.0 以降が必要です。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、非エンベッドで PDF を生成することはできますか？

A: できます。
ただし、非エンベッドで出力する場合は、外字が正しく表示されません。
また、アプリケーションサーバにフォントが存在しない場合には別のフォントに代替されて表示されます。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 生成時に、MS 明朝／MS ゴシックでエンベッドできますか？

A: 以下の方法で実現できます。

1. 帳票様式定義画面にて全項目を選択し、共通の書式画面でフォントの設定を行う
   日本語フォント ：MS Gothic
   英文フォント ：MS Gothic

2. 帳票定義一覧画面のプロパティで置換フォントの設定を行う
   MS Gothic ⇒ ＭＳ ゴシック
   ※置換先の「ＭＳ」は全角英数、（空白）は半角空白、「ゴシック」は全角カナ

3. PDF フォント登録にて MS Gothic を登録する

4. 全文字エンベッドにて PDF を出力する

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF にファイルを添付することができますか？

A: できます。

List Creator デザイナの「帳票業務情報」の定義を行うことでできます。
また、添付の際に注意事項があります。
以下の FAQ を参照してください。
「Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF にファイルを添付する際、注意事項はありますか？」

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF にファイルを添付する際、注意事項はありますか？

A: あります。
ファイルを添付した PDF には、セキュリティの付加や暗号化を行わないでください。添付したファイルが抽出できなくなる可能性があります。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、ページの拡大・縮小（Adobe Reader の『印刷』メニューから指定できる処理）を PDF 生成時にあらかじめ設定することはできますか？

A: できません。
これ以外にも、PDF ファイルを印刷する時に Adobe Reader の『印刷』メニューから設定する「印刷範囲の指定」、「部数」、「自動回転と中央配置」等の設定も行えません。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF を開いたとき、表示するときの拡大・縮小倍率をあらかじめ設定することはできますか？

A: できます。
PDF 文書情報ファイルの「PDF-INITZOOM」キーを設定することで設定された倍率で表示することができます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、帳票を PDF ファイル出力する場合、バーコードのサイズ（幅）を自在に設定する方法はありますか？

A: あります。
バーコード項目のプロパティ画面でバーコードのサイズを指定し、帳票のプロパティ－「ファイル」タブ－「文書情報」画面で「バーコードを項目のサイズに収まるように出力する」をチェックしてください。ただし、コンビニエンスストア向けバーコードやカスタマバーコードにおいては、チェックしても無効となります。また、Code 3 of 9（EIAJ 準拠）バーコードにおいては、『EIAJ 詳細設定』画面の設定が有効となり、チェックしても無効となります。
上記設定を行わずに PDF ファイル出力した場合は、バーコードは JIS 規格に従ったサイズに出力されます。また、文字印刷部分はバーコードのサイズに比例して拡大／縮小されます。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイル出力時、バーコード項目のプロパティで文字印刷指定しても文字印刷されなかったりエラーになったりする場合があります。文字印刷できないバーコード種について教えてください。

A: PDF ファイル出力する場合、文字印刷できないバーコード種は、以下のとおりです。

- カスタマバーコード
- U.S. POSTNET

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、QR コードつきの帳票を PDF 出力したとき、デザイナで設計したサイズやプレビューしたサイズより小さく PDF 化（面積比で約 1/2）されてしまいました。原因と対処方法を教えてください。

A: **［原因］**

PDF 変換には解像度という概念がないため発生する事象です。

［対処方法］

プレビューでのサイズと印刷したときのサイズを一致させることは困難ですが、QR コードを定義時のバーコード定義枠に収める機能があり、以下の指定で印刷と PDF のサイズ差を縮めることが可能です。

- PDF 文書情報ファイルを用意する

```
------ここから------
[MF-PDF]
PDF-BARBOX=ON
------ここまで------
```

- 上記ファイルを各帳票出力インターフェースで指定する。例えば、prprint コマンドの-in5 オプションで指定する。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF フォント登録機能と Interstage Charset Manager 連携という 2 つの方法で PDF 生成時に外字を出力できるとありますが、この 2 つの違いについて教えてください。

A: 外字を登録する対象のフォントと、用意する資源が違います。

PDF フォント登録機能の外字登録対象となるフォントは、PDF 変換機能で使用できるものです。登録対象のフォントファイルと、外字フォントデータ（**.TTE）が PDF を出力する環境に入っていなければなりません。また、正しく外字を出力するために帳票定義一覧画面のプロパティで置換フォントの設定を行わなければならない場合もあります。

Interstage Charset Manager 連携の外字登録対象となるフォントは、FUJ 明朝／FUJ ゴシックの 2 つだけとなります。外字フォントデータ（**.TTE）は Interstage Charset Manager の環境に入れる必要があります。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、生成した PDF ファイルの暗号化はできますか？

A: できます。

Interstage List Creator は、PDF を生成するときに暗号化します。暗号化には、40bit 暗号化と 128bit 暗号化を選択することができ、128bit 暗号化では細かなセキュリティオプションを設定することができます。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: 帳票定義体の作成、更新を行ったコンピュータの確認方法について教えてください。

A:

- **V9.3.1 以前**

帳票定義体の作成、更新を行ったコンピュータは、以下の 1.と 2.の情報を確認することで、判断できます。

ただし、同じシリアル番号を使用して複数のコンピュータにデザイナをインストールした場合には、作成、更新を行ったコンピュータを確認できません。

1. デザイナがインストールされているコンピュータの情報の確認方法
   任意の帳票を開き、帳票様式定義画面の［ヘルプ］メニュー－［シリアル番号］を選択し、シリアル番号を確認します。
2. 帳票定義体に保存されている、作成、更新したコンピュータの情報の確認方法確認したい帳票を開き、帳票様式定義画面の［ファイル］メニュー－［帳票のプロパティ］を選択し、［帳票定義体］タブでシリアル番号を確認します。

- **V10.0.0 以降**

シリアル番号はデザイナインストール時、以下の値に自動設定されます。
[1101]-[1021]-[0389]-[7001]-[0000]
自動設定されたシリアル番号は、以下の手順で任意に変更することができます。

1. Administrators グループに属するユーザでログインします。
2. (インストールフォルダ)¥PrSetSerialNumber.exe を起動します。
3. シリアル番号入力画面が表示されます。画面にはインストール時のシリアル番号か、前回設定したシリアル番号が表示されます。
4. 任意のシリアル番号を設定し、OK ボタンをクリックします。シリアル番号は 0～9 の数字を入力します。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF/A-1a（レベル A ISO 19005-1 完全準拠）の PDF を作成することはできますか。

A: できません。

現在の Interstage List Crator の PDF 出力では、カラーの再現性を保障、タグ付き PDF で論理構造を埋め込むことができません。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF リモート印刷機能はネットワークプリンタを設定することができますか？

A: できません。PDF リモート印刷機能はローカルプリンタだけの機能です。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: 帳票の出力方法にはどのようなものがありますか？

A: 帳票の出力方法には以下の種類があります。

- 印刷
  OS に定義したプリンタに帳票を出力します。
- 電子保存
  Interstage List Works と連携して帳票を電子化し、電子帳票として保存します。
- FAX 送信
  Interstage Print Manager、および FAX 出力連携製品と連携して、帳票を FAX 送信します。
- PDF ファイル保存
  帳票を PDF ファイルに変換し、ハードディスクなどの指定された格納先に保存します。
- OWF ファイル生成
  帳票を OWF ファイルとして出力します。OWF ファイルは、帳票のプレビューや印刷時に必要なすべての情報がカプセル化されたファイルです。Web 手元印刷型の運用で使用します。
- Excel ファイル出力
  帳票を Excel ファイルに出力します。
- TIFF 出力
  帳票を TIFF ファイルとして出力します。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator デザイナでどのような帳票を設計できますか？

A: Interstage List Creator の帳票は、帳票のタイプや機能別に分類できます。
これを「帳票形式」といい、以下の種類があります。

- フリーフレーム形式
  1 ページ内に複数の明細を出力したり、明細を段組みで出力したりできる形式です。
- カード形式
  明細などを含まない、社員証や社員カードなどに適した形式です。
- 伝票形式
  合計を自動計算して出力できる、売上伝票や請求書などに適した形式です。
  行の段組数／折返し数が設定できるので、横方向に折り返すことができます。
- 集計表形式
  複数のパーティションで構成される形式です。データによって、出力する明細が増減したり、演算や改ページのタイミング、出力位置を細かく指定できます。例えば、月が変わるタイミングで小計を、年が変わるタイミングで合計を計算する集計表などに適しています。
- 矩形繰返し形式
  矩形を繰り返す形式で、分類のための見出しを付けることができます。名刺一覧などに適した形式です。
- タックシール形式
  矩形を繰り返す、各種ラベルや宛名シールなどに適した形式です。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: 帳票出力に使用できるインターフェースにはどのようなものがありますか？

A: 以下のインターフェースが使用できます。

- 帳票出力コマンド
  ・Java インターフェース

Servlet や一般の Java アプリケーションから、Interstage List Creator の帳票を出力するためのインターフェースです。JAR（Java Archiver）形式で提供しています。

- .NET インターフェース
  Interstage List Creator が提供する帳票出力用のインターフェースで、Microsoft の.NET 開発環境から利用し、帳票出力を行うユーザーアプリケーションを作成することができます。
- COM インターフェース
  ASP（Active Server Pages）および ASP.NET から Web サーバ上で Interstage List Creator の帳票を出力するためのインターフェース（PrComPrt コンポーネント）です。
- カスタムコントロール
  Visual Basic で作成したアプリケーションから Interstage List Creator の帳票を出力するためのインターフェースです。
- COBOL インターフェース
  COBOL 言語で作成されたアプリケーションから Interstage List Creator の帳票出力コマンドを呼び出すためのインターフェースです。
- CFX カスタムタグインターフェース
  ColdFusion の Web アプリケーションから、Interstage List Creator の帳票を出力するためのインターフェースです。
- 帳票 Web サービスインタフェース
  Web サービスから、Interstage List Creator の帳票を出力するためのインタフェースです。
  V10.2.0 以降では、WS-I Basic Profile に準拠した帳票出力インタフェースを提供しています。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator で使用できる入力データ形式にはどのような種類がありますか？

A: 入力データ形式には以下の種類があります。

- 可変長
  各データの長さを可変長として扱います。
- 固定長
  各データの長さを固定として扱います。
  設定された長さよりも実際のデータが短い場合は、設定された長さに満たない部分に半角空白を挿入してデータを作成します。
- CSV 形式
  CSV 形式のデータを扱います。各データの長さは可変です。
- XML 形式
  XML 形式のデータを扱います。各データをデータルートの子要素として指定します。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: Interstage List Creator の帳票内に使用できる画像には、どのようなものがありますか？

A: 帳票内には、以下の画像を使用できます

- ビットマップデータ
- JPEG データ
- TIFF データ
- OLE2 オブジェクト
- PNG データ

これらの画像を帳票内で使用する方法については、下記 FAQ を参照してください。
「帳票に写真などのイメージデータを出力する方法（帳票の設計方法）を教えてください。」

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【設計／開発】

Q: 新しいバージョンで作成した帳票を、旧バージョンで読み込むことはできますか？

A: 旧バージョンの機能範囲で作成された帳票はできます。
ただし、旧バージョンにはない機能を指定した帳票はできません。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: 旧バージョンで作成した帳票を、新しいバージョンで読み込むことはできますか？

A: できます。
旧バージョンで作成した帳票については、新しいバージョンでそのまま使用できます。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: 帳票への 1 つの入力データを同じタイプ・同じ桁数の複数の項目へ出力することはできますか？

A: できます。
帳票にレコード域共用項目を定義することで実現できます。
レコード域共用項目が定義できる項目は、以下のとおりです。

- 数字項目
- テキスト項目
- 矩形テキスト項目
- OCR-B 項目

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【設計／開発】

Q: 帳票への 1 つの入力データを、異なるタイプの複数の項目へ出力することはできますか？

A: できます。
SET 演算子を使用して、項目間でデータをコピーすることにより実現できます。
例外として、数字項目とテキスト項目はできません。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【構築（導入／移行）】

Q: Interstage List Creator V9 以前の、各製品の機能の違いについて教えてください。

A: Interstage List Creator V9 以前の、各製品の主な機能・用途の違いは以下のとおりです

帳票設計機能

- **Interstage List Creator デザイナ**
    - 帳票レイアウト設計（簡単帳票作成ツール）

帳票運用機能

- **Interstage List Creator Connector**
    - 分散印刷環境（コネクタ連携の送信側）

- **Interstage List Creator Workstation**
    - スタンドアロン印刷環境

- 分散印刷環境（リモート帳票印刷の受信側）

- **Interstage List Creator Standard Edition**
  Interstage List Creator Workstation/Interstage List Creator Connector の用途に加えて、
  - 分散印刷環境（コネクタ連携の受信側/リモート帳票出力の送信側）
  - 電子保存（List Works 連携）
  - FAX 送信

- **Interstage List Creator Enterprise Edition**
  Interstage List Creator Standard Edition の用途に加えて、
  - PDF 変換／PDF メール配信
  - Web 環境での帳票運用（OWF ファイル生成）
  - Excel ファイル出力

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V9　V8　V7

【構築（導入／移行）】

Q: 拠点にプリンターだけを設置した環境（WAN 経由）での印刷はできますか？

A: できます。
ただし、帯域の狭い WAN 環境でも、極力プリンタの印字性能を出すための構成として、拠点側にもプリントサーバを用意する「分散印刷」の構成をお勧めしています。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【構築（導入／移行）】

Q: Interstage List Creator V10 以降の、各製品の機能の違いについて教えてください。

A: Interstage List Creator V10 以降の、各製品の主な機能・用途の違いは以下のとおりです。

帳票設計機能

- Interstage List Creator デザイナ
  - 帳票レイアウト設計（簡単帳票作成ツール）

帳票運用機能

- Interstage List Creator Connector
  - 分散出力環境（コネクタ連携の送信側）
- Interstage List Creator Standard Edition
  Interstage List Creator Connector の用途に加えて、
  - 分散出力環境（コネクタ連携の受信側/リモート帳票出力の送信、受信側）
  - スタンドアロン出力環境
  - 印刷
  - 電子保存（List Works 連携）
  - FAX 送信
- Interstage List Creator Enterprise Edition
  Interstage List Creator Standard Edition の用途に加えて、
  - PDF 変換／PDF メール配信
  - Web 環境での帳票運用（OWF ファイル生成）
  - Excel ファイル出力
  - TIFF 出力（V10.4.0 以降）

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10

【運用／保守】

Q: Web プラグインを利用した環境で、プレビューでは正常に表示される外字が印刷すると文字化けしてしまいます。原因と対処方法を教えてください。

A: **［原因］**

以下のような条件で発生する場合、WindowsXP で強化された多言語文書のサポートにより自動的に適切な代替フォントが表示されている可能性があります（フォントの Fallback 機能）。

- プリンタ機種によらず発生する
- ローカルの印刷アプリで印刷すると正常に印刷可能（クライアント上に外字は存在する）
- 単体で外字を印刷すると発生せず、前後に文字を挿入すると発生する
- EMF、RAW のどちらで印刷しても同様の結果となる

［対処方法］

以下のレジストリキー配下に設定されている値を削除することにより本現象を回避することができます。

HKLM¥SOFTWARE¥Microsoft¥WindowsNT¥CurrentVersion¥LanguagePack

［注意事項］

※回避方法の妥当性と影響範囲について

上記のレジストリ値を削除すると Uniscribe 機能が無効となります。
すなわち、複数の言語が混在した多言語文書を扱うことができなくなります。
そのため、多言語文書を扱う予定がなく意図したフォント以外の代替フォントが表示されるのを抑制したい場合に限り、上記の回避方法を適用してください。

※レジストリエディタの使用について（重要）

レジストリエディタの誤った使用は、システム全般に渡る重大な問題を引き起こす可能性があります。 こうした問題を解決するためには、Windows をインストールしなおさなければいけません。 Microsoft では、レジストリエディタを使用することによって引き起こされた障害の解決については、一切保証していません。 レジストリエディタを使用する場合には、お客様の責任において使用してください。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8

【運用／保守】

Q: Excel ファイル出力では、Microsoft Excel 2007 の標準の出力形式で出力されますが、この形式のファイルを Microsoft Excel 2000、Microsoft Excel 2002、および Microsoft Excel 2003 で使用することができますか？

A: できます。

"Word/Excel/PowerPoint 2007 ファイル形式用 Microsoft Office 互換機能パック"をインストールすることで使用できます。
なお、Excel ファイル出力では、Microsoft Excel2003 で表示できる機能の範囲で Microsoft Excel2007 形式で出力しています。このため、Microsoft Excel2003 形式で保存しても機能レベルには問題ないと思われますが、Microsoft Excel の仕様に依存する部分ですので、List Creator として動作を保障するものではありません。
Microsoft Excel で旧形式で保存した場合の動作については、マイクロソフト社サポート窓口（マイクロソフト サポート オンライン）などでご確認ください。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V9

【運用／保守】

Q: バーコード項目の項目長よりも長い桁のバーコードのデータが渡ってきた場合、どのような動作になるのか教えてください。

A: すべてのバーコード項目において、入力データが定義したバーコードの項目長を超えていてもエラーとはならず、桁溢れが発生します。桁溢れについては、バーコード種によって動作が変わります。
入力データが「AAAABBBBCCCC」、項目長 8 の場合を例にすると、以下のように桁溢れします。

＜UPC-A、UPC-E、EAN-13 以外のバーコード種＞
AAAABBBB パターンがバーコードとして出力されます。

＜UPC-A、UPC-E、EAN-13 の場合＞
UPC-A、UPC-E、EAN-13 のバーコード体系は、『本体コード』+『アドオンコード』により構成されています。
（アドオンコードなしのバーコードの出力もできます。）
これらのバーコードは以下のように桁溢れします。

本体コード：AAAABBBB パターン
アドオンコード（数字項目）：BBBBCCCC パターン
アドオンコード（テキスト項目）：AAAABBBB パターン

※UPC-A、UPC-E、EAN-13 のアドオンコードは、数字だけ指定できますので、テキスト項目を選択した場合でも数字を指定することになります。

プラットフォーム　：Windows　Solaris　Linux
バージョン　：V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: バーコードを出力する時、データがすべて空白の場合のバーコードは出力できますか？

A: できません。
バーコードを出力する時、データがすべて空白の場合のバーコードを出力することはできません。
データ部に空白を指定可能なバーコード種の場合、バーコードの規約上、空白だけのバーコードの出力はできることになりますが、Interstage List Creator では、空白だけのバーコードの出力は運用上ほとんどないと判断し、バーコード項目の表示・非表示の切替えることができるようにするためにこのような仕様にしています。

プラットフォーム　：Windows　Solaris　Linux
バージョン　：V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: 印刷する端末、印刷方法（Web 手元印刷、サーバ上での印刷など）、プリンタの種類によってバーコードの横幅が違うのはなぜですか？

A: Interstage List Creator のバーコード印刷は、プリンタのハード機能ではなく、Interstage List Creator が描画しています。
バーコード印刷は、用紙、リーダ、出力装置であるプリンタの解像度などの設定・状態により精度が変わってきます。プリンタドライバによっても処理が異なる場合もあります。
バーコード印刷を行う場合には、実際の運用を行う前に、実運用環境でテストし、バーコードを出力し、読み込めることを確認してから使用してください。

プラットフォーム　：Windows　Solaris　Linux
バージョン　：V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルに保存する場合、帳票設計時に定義した情報については、すべて表現することができますか？

A: すべてではありません。
特に、組込みメディア項目には、以下の制限事項があります。

- OLE2 オブジェクトの組込みは行えません。

また、PDF 出力時はバーコードに関して以下のような注意事項があります。

- カスタマバーコード、U.S. POSTNET には、バーコードの文字印刷を指定することはできません。
- QR コードの分割は無効になります。
- 以下のバーコードの場合、「バーコードを項目のサイズに収まるように出力する」の指定は無効となります。

- Code 3 of 9（EIAJ 準拠）
- カスタマバーコード
- EAN-128（コンビニエンスストア向け）
- U.S. POSTNET（Delivery Point Code）、U.S. POSTNET（ZIP+4 Code）、U.S. POSTNET（5-Digit ZIP Code）
- FIM A（U.S. Postal FIM）、FIM B（U.S. Postal FIM）、FIM C（U.S. Postal FIM）

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、クライアントの Web ブラウザからの要求を受け、サーバにおいてデータをもとに PDF を作成し、それをクライアントの Web ブラウザに表示させることはできますか？

A: できます。
クライアントの Web ブラウザからの要求を受け、サーバにおいてデータをもとに PDF を作成するためには、Web ブラウザからの要求を CGI などの Web アプリにて、サーバ側の Interstage List Creator の帳票出力コマンド（出力方法にファイル（PDF 出力）を指定）を実行する、または Java インターフェースで処理することで対応できます。
また、生成された PDF ファイルを Web ブラウザで見られるようにするためには、以下の設定が必要です。（特に、Interstage List Creator に限った説明ではありません。）

1. PDF の生成先をブラウザで見られるようにサーバ側で仮想ディレクトリを設定します。
2. Interstage List Creator の PDF 出力処理を実行する際に、PDF の格納先に 1.で設定したディレクトリを指定します。
3. Web ブラウザから、1.で設定した URL/PDF ファイル名を設定すると、Web ブラウザに表示させることができます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 出力する場合、PDF ファイルにファイルを開くパスワードなどのセキュリティを設定することができますか？

A: できます。
Interstage List Creator が生成した PDF ファイルには、以下のセキュリティが設定ができます。

- コピー＆ペースト
- 抑止機能印刷抑止機能
- パスワード設定

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、Server2000 ホスト連携プレミアムと連携して PDF 出力する場合、何か必要な製品はありますか？

A: あります。
ホスト-サーバ間の通信プロトコル（TCP/IP、FNA）などによって必要なソフトウェアが異なります。

（Windows 版）

- FNA を使用する場合
  APS/NPVTAM-G

- TCP/IP を使用する場合
  Linkexpress
  APS/NPDTS

- Server2000 ホスト連携プレミアムのホスト帳票データを利用する場合
  FNA または TCP/IP を使用する場合に必要なソフトウェアに加えて、以下のソフトウェアが必要

  Server2000 ホスト連携プレミアム V1.1L30 以降
  HOSTPRINT V6.5L10 以降
  List Works Enterprise Edition 帳票仕分け管理
  Systemwalker/PrintASSORT

（Solaris 版）

- FNA を使用する場合
  APS/NPVTAM-G

- TCP/IP を使用する場合
  Linkexpress
  APS/NPDTS

- Server2000 ホスト連携プレミアムのホスト帳票データを利用する場合
  FNA または TCP/IP を使用する場合に必要なソフトウェアに加えて、以下のソフトウェアが必要
  Server2000 ホスト連携プレミアム 1.1 以降
  List Works Enterprise Edition 帳票仕分け管理
  Systemwalker/PrintASSORT

プラットフォーム : Windows Solaris
バージョン : V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 生成時に使用できる TrueType フォントの種類を教えてください。

A: Interstage List Creator Enterprise Edition で使用できる TrueType フォントは以下の 3 種類があります。

- **.ttf
  True Type Font 形式のファイルです。
- **.ttc
  True Type Collection 形式のファイルです。
- **.tte
  True Type 標準外字形式のファイルです。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 生成時にエンベッドする場合、ファイルサイズへの影響はありますか？

A: あります。
エンベッドを行うと使用された文字のアウトラインデータを添付しますので、ファイルサイズが大きくなります。フォントのデザインなどサイズはお使いのフォントに依存します。なお、添付するフォントデータは和文の場合使用した文字だけですが、欧文はすべてのデータを添付しますので、文字数の影響はないことがあります。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、帳票の PDF 変換時に、PDF フォント登録処理を行っているにもかかわらずエンベッドしない場合の動作について教えてください。

A: PDF フォント登録処理を行って、一般のフォントを使用した PDF ファイルがフォントを非エンベッドとした場合、クライアントに同一のフォントが存在しているときには、同一書体が使用される場合があります（Acrobat の動作となり一概に保証することができません。フォントの種類や環境によっては代替書体となる可能性があります）が、存在していないときには、Acrobat の動作環境に応じた代替書体が使用されます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF フォント登録機能を使用して外字フォントを使用することはできますか？

A: できます。
外字フォントデータ（**.tte）を使用することができます。Windows の外字エディタなどで外字を作成し、**.tte ファイルを作成してください。その後、再度 PDF フォント登録処理を行ってください。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、prprint コマンドなどで帳票出力を行う場合、フォント登録の有無にかかわらず以下のようにマッピングして出力されてしまいます。正しく出力する方法を教えてください。

MS 明朝　⇒ FUJ 明朝
MS ゴシック　⇒ FUJ ゴシック

A: 以下の方法で実現できます。

1. 帳票様式定義画面にて全項目を選択し、共通の書式画面でフォントの設定を行う
   日本語フォント　：MS Gothic
   英文フォント　：MS Gothic

2. 帳票定義一覧画面のプロパティで置換フォントの設定を行う
   MS Gothic ⇒ ＭＳ ゴシック
   ※置換先の「ＭＳ」は全角英数、（空白）は半角空白、「ゴシック」は全角カナ

3. PDF フォント登録にて MS Gothic を登録する

4. 全文字エンベッドにて PDF を出力する

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF に添付したファイルを抽出することができますか？

A: できます。
PDF 上に添付したファイルは、Acrobat 5.0 以降を使用して抽出します。Acrobat 4.0 や Acrobat Reader 4.0、Acrobat Reader 5.0 では、抽出は行えませんのでご注意ください。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF を開くと、“この文書には JavaScripts が含まれています。以後 JavaScripts を有効にしますか? JavaScripts が無効になっていると、文書が正しく動作しない場合があります。”（Acrobat 6.0 の場合）というメッセージが表示されます。メッセージの意味を教えてください。

A: 自動印刷機能を指定して作成した PDF を開いたときに表示されることがあります。
これは、Acrobat の環境設定で JavaScript が有効になっていないためです。メッセージダイアログ上にてその都度［はい］を押すか、Acrobat のメニューの『編集』－『環境設定』－『JavaScript』（Acrobat 6.0 の場合）で“Acrobat JavaScript を使用”にチェックしてください。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、フルスクリーン表示時の注意事項があれば教えてください。

A: フルスクリーン表示機能を設定した場合、ツールバー非表示機能および、メニューバー非表示機能の設定にかかわらず、ツールバー、メニューバーとも表示されません。
また、フルスクリーン表示機能を使用した PDF を表示中に別の PDF を開くと、フルスクリーン表示機能を使っていなくても、フルスクリーン表示されます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF をフルスクリーンで表示させたところタイトルバーが表示されません。この場合に PDF を閉じる方法について教えてください。

A: Acrobat の環境設定にて『編集』－『環境設定』－『一般』－『全画面表示』で“Esc キーで取り消し”になっていれば、ESC キーを入力するとタイトルバーが表示されます。この機能が有効になっていなければ Ctl+L（Macintosh では Command+L）で全画面表示を解除することができます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Web ブラウザで生成した PDF を参照するか、または PDF 手元非表示印刷をした場合、同一ファイル名で PDF を生成すると内容の違う PDF であったとしても最初に生成した PDF が表示・出力されてしまいます。原因と対処方法を教えてください。

A: **［原因］**
Internet Explorer などの Web ブラウザから PDF を開く際に、Web ブラウザではキャッシュとして一時ファイルを保存します。このため、同一ファイル名の PDF を続けて参照するか、または非表示印刷する時にキャッシュに保存された古い PDF ファイルが表示・出力されてしまうことがあります。

［対処方法］

一時ファイルを常に最新の情報になるようブラウザの設定をするか、または一時ファイルを削除した上で再度 PDF ファイルへアクセスしてください。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition で生成した PDF ファイルをプリンタで印刷するとスプールに時間がかかってしまうのですが、これを短縮する方法はありませんか？

A: あります。
各ページで多くの組み込みメディア項目やバーコード項目を使用したり、ページ数の多い帳票を PDF 生成した場合、PDF ファイル印刷時にスプールに時間がかかる場合があります。この場合、以下の方法で回避できます。

- **回避策 1**
  ページ数を減らし、分割する
- **回避策 2**
  毎ページ同じイメージを出力する場合は、組み込みメディア項目ではなくオーバレイイメージを使用する
- **回避策 3**
  PDF 文書情報ファイルにキーワード［PDF-RESOURCEPERPAGE］を指定する
  （このキーワードを指定することで PDF ファイルで使用される組み込みメディアやバーコードの情報が Resource 辞書にページごとに格納されるため PDF ファイルの表示・印刷の性能が向上します。※ただし、PDF ファイルのサイズが 1 ページあたり 100～200 バイト増加します。）

  ＜PDF 文書情報ファイルの記述例＞

```
-------------------------------------------
[MF_PDF]
PDF-RESOURCEPERPAGE =ON
-------------------------------------------
```

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信機能の送信時に必要な設定ファイルを教えてください。

A: PDF ファイルメール配信で使用するファイルは、用途に応じて以下の 3 種類があります。

- PDF 電子メール環境設定ファイル（必須）
  PDF ファイルメール配信を行うために、SMTP サーバーアドレスの設定などの環境設定を行うファイルです。
- PDF ファイルメール配信情報ファイル
  PDF ファイルメール配信を行うごとに変化する情報を設定するファイルです。
- PDF 電子メールテンプレートファイル（任意）
  PDF ファイルメール配信時、メールの本文や Subject などを記述する際に、文章のテンプレートとして設定するファイルです。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信機能で使用する PDF 電子メール環境設定ファイルの設定について教えてください。

A: PDF ファイルメール配信を行うために、SMTP サーバーアドレスの設定などの環境設定を行うファイルです（必須）。
以下のファイルを管理者権限にて修正を行ってください。

［Windows の場合］
List Creator インストールディレクトリ¥swmailenv.ini

［Solaris/Linux の場合］
/etc/opt/FJSVedoc/swmailenv.dat

使用する SMTP サーバーアドレスとメール送信元アドレスを設定してください。
（SMTP サーバーアドレスを設定するキーワードは「MLF_SMTPServerAddress」、メール送信元アドレスを設定するキーワードは「MLF_EnvelopeFromAddress」です。）

上記設定は、一般的な設定例を挙げておりますが、運用に応じた設定方法や各ファイルに記述するフォーマットの詳細などはオンラインマニュアルを参照してください。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信機能で使用する PDF ファイルメール配信情報ファイルの設定について教えてください。

A: PDF ファイルメール配信を行うごとに変化する情報を設定するファイルです。
例えばメールの送信先アドレスや PDF 電子メールテンプレートファイルに対する可変な文字列の指定を行います。
メールの送信先アドレスを設定してください（メールの送信先アドレスを設定するキーワードは「MLF_ToAddress」です）。
上記設定は、一般的な設定例を挙げていますが、運用に応じた設定方法や各ファイルに記述するフォーマットの詳細などはオンラインマニュアルを参照してください。

プラットフォーム　: Windows　Solaris
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信を行いたいのですが、送信時に必要な設定ファイルを教えてください。

A: PDF ファイルメール配信を行う際に、メールの本文や Subject などを記述する際に、文章のテンプレートとして設定するファイルです（任意）。
メール本文の記述や Subject の記述が必要な場合に設定してください。
PDF 電子メールテンプレートファイルは、
［Windows の場合］
ListCreator インストールディレクトリ¥mail_template.txt

［Solaris/Linux の場合］
/etc/opt/FJSVedoc/mail_template.txt

を管理者権限で修正を行うか、PDF ファイルメール配信情報ファイルのキーワード「MLF_TextTemplate」に直接 PDF 電子メールテンプレートファイルパスを指定することができます。

上記設定は、一般的な設定例を挙げていますが、運用に応じた設定方法や各ファイルに記述するフォーマットの詳細などはオンラインマニュアルを参照してください。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信を行うとき、オプションや設定ファイルで同一の設定ができる場合にどの設定が有効になるのかわかりません。これらの優先順位について教えてください。

A: 以下の順序で設定が有効になります。

1. 帳票出力コマンドのオプション指定
2. PDF ファイルメール配信情報ファイルの設定内容
3. PDF 電子メール環境設定ファイルの設定内容

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信を行った場合、PDF ファイルが届いたかを確認する方法はありますか？

A: あります。

PDF ファイルが届いたことを確認する手段として、SecurePackage を用いる方法があります。 SecurePackage を使用することにより、PDF ファイルを安全に送信できます。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、暗号化、署名をするのに必要な設定について教えてください。

A: あらかじめ証明書を発行しておく必要があります。用途に応じて以下の証明書を用意してください。

暗号化：メール受信者の公開鍵
署名 ：送信者の秘密鍵

証明書は、Systemwalker PkiMGR を用いて発行してください。詳細は、オンラインマニュアル「Systemwalker PkiMGR 説明書 CA 編」を参照してください。 証明書が発行されたあとは、証明書を証明書管理環境に登録します。登録手順は、以下のとおりです。

1. 証明書管理環境を lcsetenv コマンドにより作成します。
2. 証明書を証明書管理環境に lcaddcert コマンドにより登録します（一度登録した証明書は継続して保存されます）。
3. メール配信時にニックネームを指定します。

ニックネームの指定は、帳票出力コマンドや PDF 電子メール環境設定ファイルで設定します。

- 暗号化：帳票出力コマンド発行時の送信先メールアドレス指定において、ニックネームを含めて指定します。
  【指定方法】：-gpdfmailtoaddr メールアドレス <ニックネーム>
- 署名：メール送信元のニックネームを指定します。
  【指定方法】：PDF 電子メール環境設定ファイルにおいて、MLF_FromNickname に指定

※暗号化・署名機能は、Linux 版では使用できません。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信時に BCC（Blind Carbon Copy）にてメールを送信することはできますか？

A: できます。

PDF ファイルメール配信情報ファイルに、キーワード「MLF_BCCAddress」を設定することで、送信することができます。
<PDF ファイルメール配信情報ファイルの記述例>

```
-------------------------------------------
[MLF_Mail]
MLF_BCCAddress=aa@bb.cc.dd,ee@ff.gg.hh
```

---
prprint コマンドの場合、-gpdfmailconffile オプションを使用して、PDF ファイルメール配信情報ファイルを指定してください。Java インターフェースの場合、PrintProperities クラスの setProperty メソッドを使用して、ID_EXECBUFFER キーで PDF ファイルメール配信情報ファイルを指定してください。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF ファイルメール配信時に Subject を設定することはできますか？

A: できます。PDF 電子メールテンプレートファイルを使用して、Subject の内容を固定文字列で送信する形態と、電子メールを配信するごとに可変文字列として送信することができます。

- **固定文字列で送信する場合**
  PDF ファイル電子メール配信を行うメールに Subject を設定するためには、PDF 電子メールテンプレートファイルに、Subject に記述する文章を直接記述してください。

  ＜PDF 電子メールテンプレートファイルの記述例（固定文字列の場合）＞
  ```
  ----------------------------------------
  <HEAD>
  Subject:固定文字列サンプルメールです
  <BODY>
  ----------------------------------------
  ```
- **可変文字列として送信する場合**
  PDF 電子メールテンプレートファイルに、Subject を記述する際に、$で囲んだ変数を設定します。この変数に対して、PDF ファイルメール配信情報ファイルでパラメタを設定することで、送信ごとに Subject の文字列を変えることができます。

  ＜PDF 電子メールテンプレートファイルの記述例（可変文字列の場合）＞
  ```
  ----------------------------------------
  <HEAD>
  Subject:$subject-msg$
  <BODY>
  ----------------------------------------
  ```

  PDF ファイルメール配信情報ファイルで可変文字列の設定方法は以下のとおりです。

  ```
  ----------------------------------------
  [MLF_Mail]
  [MLF_Message]
  subject-msg=可変文字列サンプルメールです。
  ----------------------------------------
  ```

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: コマンドラインでコマンドを実行する場合、同じコマンドオプションを 2 つ付けた場合の動作を教えてください。

A: 同じオプションが指定された場合、うしろのオプション値が有効になります。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: コマンドオプション自体にダブルクォーテーション（"）で囲った場合の動作を教えてください

A: コマンドオプション自体にダブルクォーテーション（”）で囲った場合、そのオプションは無視されます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: 製品のバージョンを調べる方法について教えてください。

A: Interstage List Creator の製品媒体に入っている Readme.txt を参照してください。また、製品付属のマニュアルにも記載されています。
その他にも、Interstage List Creator デザイナをインストールしている場合、「帳票定義一覧」-「ヘルプ」-「バージョン情報」で、確認することができます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF リモート印刷機能を使用する場合、クライアントの対応 OS を教えてください。

A: 以下の OS に対応しています。

- V10.3.0 以降
  - Windows 8.1
  - Windows 7
  - Windows Server 2012 R2
  - Windows Server 2012
- V10.1.0 以降
  - Windows 7
  - Windows Server 2012
- V9.1.0 以降
  - Windows 7

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9

【運用／保守】

Q: 同一帳票において、バーコードの表示／非表示を切替えることはできますか？

A: できます。
バーコード項目に対して半角空白だけのデータを指定することで非表示にすることができます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: VSP プリンタに対して印刷したところ、指定した用紙長が切り上げられて印刷されてしまいます。原因と対処方法を教えてください。

A: **[原因]**
VSP シリーズのプリンタ装置は、プリンタ装置の仕様上、0.5 インチ単位に切り上げたページ長になります。

例）縦 3.25 インチ・横 7.5 インチに設定して印刷 ⇒ 縦 3.5 インチ・横 7.5 インチとして出力される。

［対処方法］
プリンタ装置の仕様のため、List Creator 側では回避方法がありません。
詳細についてはプリンタ装置側にお問合せください。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: 文書情報ファイルにはどのようなものがありますか？

A: 文書情報ファイルには以下のものがあります。必要に応じて設定を行ってください。

- 置換フォント情報ファイル
  帳票に定義されているフォントを別のフォントに置き換えて出力する場合に設定するファイルです。
- バーコード補正情報ファイル
  バーコードの読み取り率が低い場合に、バーコードを正しく読み取れるように補正して出力するための情報を記述するファイルです。
- 電子帳票情報ファイル
  帳票を電子保存するときに使用するファイルです。電子保存時の動作、電子保存する帳票のプロパティ、電子保存後の印刷や FAX 送信時の情報などを指定できます。
- FAX 受信者情報ファイル
  Interstage List Creator デザイナで設計した帳票を FAX 送信するときに使用するファイルで、FAX 受信者に関する情報を定義することができます。
- PDF 文書情報ファイル
  帳票を PDF ファイル保存するときに使用するファイルです。PDF ファイルの描画オブジェクトに関係しない、コメント、タイトル、作成者、および作成日付といったテキスト情報、パスワードキーや各種初期設定、メール配信情報を、それぞれキーワードとして PDF 文書情報ファイルに定義することができます。
- PDF メール配信情報ファイル
  PDF 文書情報ファイルで設定するセクションのうち、PDF メール配信に関する［MLF_Mail］、および［MLF_Message］セクションだけを記述したファイルです。PDF メール配信時に使用します。
- Excel 文書情報ファイル
  帳票を Excel ファイル出力する場合の文書情報をまとめて指定できるファイルです。
- ECM 情報ファイル
  ECM 連携ファイルのファイル名や文字コード系など、ECM 連携機能に関する情報を指定するファイルです。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V9 V8 V7 V6

【運用／保守】

Q: 新しいバージョンで作成した帳票を、旧バージョンで出力することはできますか？

A: 旧バージョンの機能範囲で作成された帳票は出力できます。
ただし、旧バージョンにはない機能を指定した帳票は出力できません。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: 旧バージョンで作成した帳票を、新しいバージョンで出力できますか？

A: できます。
旧バージョンで作成した帳票については、新しいバージョンでそのまま出力できます。
ただし、仕様の変更などがあるため、出力結果を確認してください。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux

バージョン　　: V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: 最新版への移行時の作業内容にはどのようなものがありますか？

A: 旧版で作成した帳票資源は、新版の Interstage List Creator でそのまま使用できます。
そのため、旧サーバ上の帳票資源を、新サーバ上にファイル転送（バイナリ）することで使用できます。
なお、同一サーバ上に最新版を上書きインストールする場合には注意事項があります。
下記 FAQ を参照してください。
「バーコードの文字印刷部分のフォント指定をすることはできますか？」

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　　: V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: アンインストールおよび上書きインストール時の注意事項について教えてください。

A: アンインストールおよび上書きインストールの際は、List Creator インストールディレクトリのサブディレクトリ配下の帳票資源を退避してください。
自動での退避は行われません。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　　: V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: Interstage List Creator がインストールされているアプリケーションサーバにアクセスし、Interstage List Creator が作成した PDF ファイルの一覧を Web 上に表示することはできますか？

A: できません。
Interstage List Creator が作成した PDF ファイルの一覧を取得する機能はありません。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　　: V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: 帳票のプレビュー画面に、独自のカスタマイズを行うことはできますか？

A: できます。
帳票出力用の API として VisualBasic 用のカスタムコントロールを提供しています。自作したボタンを配置したプレビュー画面を作成することができます。
その他に、帳票出力の実行や総ページ数のカウントなどができます。

プラットフォーム　: Windows　Solaris
バージョン　　: V10　V9　V8　V7

【運用／保守】

Q: 分散出力環境を構築する際のサーバ間転送の組合せを教えてください。

A: サーバ間転送の組合せについては、以下のとおりです。

- Windows Server の場合
  Windows、Solaris(*1)、Linux(*1)

(*1)リモート帳票出力は未サポートです。
- Solaris の場合
  Windows、Solaris、Linux
- Linux の場合
  Windows、Solaris、Linux

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: 帳票設定時の JPEG 圧縮時の品質について詳しく教えてください。

A: JPEG 圧縮時の品質は、以下のとおりです。
- HIGH： 高画質ですが圧縮率は低くなります。
- MID： HIGH と LOW の中間の設定となります。
- LOW： 画質の劣化は大きくなりますが、圧縮率は高くなります。
- NONE： 画質劣化のない標準の圧縮方式となります。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【運用／保守】

Q: PDF 文書情報ファイルのキーワード、PDF-JPEGMODE と PDF-JPEGQUALITY の違いを教えてください。

A: PDF-JPEGMODE は JPEG データの変換方法を設定します。
PDF-JPEGQUALITY は JPEG 圧縮時の品質を設定します。
PDF-JPEGMODE を設定することで、JPEG データを内部変換しない場合や、プログレッシブ JPEG データを非プログレッシブ JPEG データに変換することができます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票を設計したり出力したりできますか？

A: Interstage List Creator は、帳票の設計製品（デザイナ）と運用製品（帳票出力）で構成されており、帳票設計、 帳票印刷、 PDF ファイル出力（Enterprise Edition だけ）などを行うことができます。Interstage List Creator V9 からは、 Excel ファイル出力（Enterprise Edition だけ）を行うこともできます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 他の Interstage 帳票ソリューション製品と連携できますか？

A: Interstage Print Manager と連携して、帳票の印刷エラー監視・リカバリ、再印刷などの高信頼印刷を実現します。
Interstage List Works と連携して、電子帳票として管理・運用できます。
なお、Interstage Print Manager は、Windows 版（x86）、および、Solaris 版だけ連携できます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: PDF ファイルを出力する場合、PDF ファイルにおいてセキュリティを設定することができますか？

A: 機密漏洩を防止するために、PDF ファイル出力時に暗号化できます。
取引伝票などの帳票の改ざん防止のため、コピー&ペースト抑止機能、印刷抑止機能、およびパスワードによるファイルのセキュリティ設定が行えます。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: .NET アプリケーションから Interstage List Creator が使用できますか？

A: .NET アプリケーションから Interstage List Creator が使用できます。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8

【技術サポート】

Q: バーコードに対応していますか？

A: 33 種類のバーコードに対応しています。
JAN 標準、JAN 短縮、Code 3 of 9、EIAJ バーコード、NW-7、カスタマバーコード、CODE128、GS1-128（旧称 UCC/EAN-128）、EAN-13、QR Code（モデル 1）、QR Code（モデル 2）などのバーコードに対応しています。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 帳票のテキスト文字を 90 度回転させて出力することができますか？

A: Interstage List Creator では、テキスト項目や固定リテラルで項目属性の文字方向指定ができます。左右に 90 度、もしくは 180 度回転させて帳票出力ができます。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: プログラムやスクリプトを記述して帳票生成や表示制御などができますか？

A: Interstage List Creator では、帳票出力用のコマンドおよび各種 API を提供しています。それらにより出力制御ができます。
また、入力データを条件とした頭書／脚書および明細表示の制御、各種関数による演算、NULL を入力データとした帳票出力（空打ち）、特定の出力データの強調表示などもできます。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Unicode に対応していますか？

A: Unicode に対応しています。Unicode の CSV データや DB データから帳票作成ができます。

JIS2004 で追加された文字（サロゲートペア）および Unicode IVS にも対応しています。
文字コードについての詳細は、以下のオンラインマニュアルを参照してください。

Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編 V10
第 4 部 文字と文字コード
第 17 章 扱える文字コード系
第 18 章 出力できる文字（【UNIX 系 OS 版】の場合）
第 19 章 Unicode IVS の対応

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10

【技術サポート】

Q: 「SystemWalker ListCREATOR」から後継製品にバージョンアップする場合、帳票定義や WEB アプリケーション（Java インターフェース使用）を変更する必要がありますか？

A: Interstage List Creator では、SystemWalker ListCREATOR で作成した帳票定義ファイルや、SystemWalker ListCREATOR で使用していた Java アプリケーションがそのまま使用できます。
なお、OS の非互換や製品のバージョンアップの機能向上の影響で、一部非互換が発生する場合がありますので、出力結果に関しては確認してください。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 「Interstage List Creator デザイナ」と「Interstage List Creator Workstation」を 1 台のパソコンで使用できますか？

A: 「Interstage List Creator デザイナ」と「Interstage List Creator Workstation」を 1 台のパソコンに共存させて利用できます。
そのときに、インストールの順番はどちらが先でも問題ありませんが、同一バージョンの製品を利用してください。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 既存の COBOL アプリケーション資産を利用して、Interstage List Creator で帳票の出力ができますか？

A: できます。
NetCOBOL または FORM で作成した既存の COBOL アプリケーション資産を利用して、Interstage List Creator で帳票を出力できます。これを「COBOL アプリケーション連携」と呼びます。
Interstage List Creator を導入するだけで、既存システムの COBOL アプリケーション資産を利用し、プログラム変更なしで短期間で簡単に分散印刷環境へ移行することができます。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9

【技術サポート】

Q: COBOL アプリケーション連携が動作するプラットフォームを教えてください。

A: COBOL アプリケーション連携にはアプリケーションサーバと帳票出力サーバがあります。

アプリケーションサーバ
既存の COBOL アプリケーション資産を各アプリケーションサーバに配置して利用できます。
動作プラットフォームは、Windows(x86)、Windows(x64)、Windows(Itanium)、Solaris、Linux(Intel64)、Linux(Itanium)です。
なお、アプリケーションサーバのプラットフォームによって対象製品が異なります。

- **Windows(x86)、Windows(x64)、Solaris、Linux(Intel64)**
  - Interstage List Creator Enterprise Edition
  - Interstage List Creator Standard Edition
  - Interstage List Creator Connector
- **Windows(Itanium)**
  - Interstage List Creator Connector
- **Linux(Itanium)**
  - Interstage List Creator Enterprise Edition
  - Interstage List Creator Connector

帳票出力サーバ
帳票出力サーバの動作プラットフォームは Windows(x86)、Windows(x64)、Solaris、Linux(Intel64)です。
対象製品は Interstage List Creator Enterprise Edition になります。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9

【技術サポート】

Q: Interstage List Works 以外のソフトウェアと連携して、帳票の電子保存を行うことができますか？

A: できません。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: クラスタ運用したいのですが、クラスタに対応していますか？

A: OS で提供されているクラスタサービスや、SafeCLUSTER/PRIMECLUSTER などのクラスタソフトがインストールされている環境でのクラスタ運用はできますが、フェールオーバなどには対応していません（List Creator はクラスタソフトに連動した動作はできません）。このため、以下のような動作となります。

- 帳票出力処理中の動作については保障されません。例えば prprint コマンド実行中にフェールオーバが発生した場合、該当の印刷データは保障されません。このため、prprint コマンド処理中だったか否かは呼び出し元で判断していただき、処理中のものは切替え先（従系）で再度コマンドを起動し直してください。
- 帳票資源は、クラスタシステムが提供する共有フォルダに配置してください。配置できない場合は、主系、従系それぞれのローカルフォルダに同じ構成で同じ帳票資源を配置してください。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: OpenType フォントを使うことはできますか？

A: 使用できません。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、SMTP サーバがダウンしているときにメール配信した場合の動作について教えてください。

A: エラーとはならず、メール配信が成功するまで配信処理をリトライし続けます。リトライする間隔は 30 秒です。
リトライ回数は、以下のようにバージョンによって異なります。また、リトライ回数の上限を変更することはできません。

（V9.0.1 以前）
リトライ回数に上限は無く、配信に成功するまで無制限に再送を行います。

（V9.1.0 以降）
リトライ回数の上限は 60 回となっています。60 回以内に再送できなかった場合、メール送信キューは削除されます。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: オーバレイとは何ですか？

A: 帳票様式情報に定義する表の枠などの図形や固定位置に出力する文字列のことです。オーバレイとして定義した図形や文字は、帳票様式情報に定義した位置に出力されます。また、プレプリント用紙を使用して印刷する場合は、オーバレイの出力抑止を行うことができます。
また、Interstage List Creator には、下敷きイメージから、枠（罫線）、網がけ、文字などの情報をオーバレイに変換して取り込む機能があります。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator で使用するファイルの拡張子は、それぞれ何を表していますか？

A: （帳票定義情報ファイル作成時に作成されるファイル）

- bip
  帳票様式情報と入力データを関連付けるファイルです。
- pmd
  帳票ファイルです。
- psf
  補助ファイルで、帳票様式情報の編集時に必要なファイルです。
- ovd
  オーバレイファイルです。
- dse
  XBRL データ対応機能および Navigator 連携機能を使用する場合に必要なファイルです。

（その他）

- dbr ファイル
  クエリ機能で使用する、各処理を実行するための指定条件を保存したファイルです。
- owf ファイル
  帳票のプレビューや印刷時に必要なすべての情報がカプセル化された Interstage List Creator 独自フォーマットのファイルです。Web 手元印刷型の運用で使用します。
- owd ファイル
  Web プラグインの動作情報を記述したファイルです。Web 手元印刷型の運用で使用します。
- pmd
  PowerFORM で作成された帳票定義体です。
- smd ファイル
  FORM で作成された帳票定義体です。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: マルチフォーム出力機能利用時、入力データを 1 レコードとすることはできますか？

A: できません。
マルチフォーム出力機能を使用する場合、List Creator の入力となる CSV／テキストデータの 1 レコードで複数の帳票を切り替えて出力することはできません。
レコードは切り替えて出力する帳票数分必要です。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: アプリケーションサーバから帳票サーバへ帳票を出力するとき、入力データと帳票定義体の重ね合わせはどのサーバで行われますか？

A: 帳票生成処理は帳票サーバ側で行われます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: データベースのデータを帳票への入力データとして扱うことはできますか？

A: Interstage List Creator 単体ではできません。
Interstage List Creator は CSV／テキストデータを入力データとして帳票を生成する製品です。
DB からのデータ抽出は、別途利用者アプリ側で実現していただくか、以下の連携製品との連携が必要となります。

- **Interstage Navigator Server との連携**
  DB からのデータ抽出は Interstage Navigator Server の機能により行い、その延長で Interstage List Creator での帳票出力が可能です。
  また、Interstage Navigator Server で定義した DB からのデータ抽出条件定義に使用した DB 項目名を、Interstage List Creator デザイナに直接取り込んで帳票レイアウト定義を行うといった Interstage List Creator デザイナとの密連携も行っています。

- **Interstage Information Integrator（データ収集・統合ソフトウェア）との連携**
  Interstage Information Integrator の帳票連携アダプターにより、Interstage List Creatorと連携して、帳票が出力できます。
  帳票出力結果も確認できます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: PDF ファイル結合機能は、Interstage List Creator 以外で生成した既存の PDF を利用できますか？

A: できません。
Interstage List Creator が提供する PDF ファイルの結合機能は、Interstage List Creator で生成した PDF だけが対象となります。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9

【技術サポート】

Q: 生成した PDF／Excel ファイルを Web ブラウザから印刷・表示できますか？

A: Interstage List Creator 単体ではできません。
Interstage List Creator での機能提供は、PDF／Excel ファイルの生成までです。それを Web ブラウザで表示、印刷する部分は、AdobeReader や Excel の機能での実現となります。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 印刷が正常に終了したことを保証できますか？

A: 以下の製品と連携する事で、印刷が正常に終了したかを確認できます。

- **Interstage Print Manager**
  基幹業務からオフィス業務まで、オープン環境において、印刷エラー監視、リカバリ対処、印刷ログ分析、印刷原本の保存、印刷セキュリティ対策、環境対策など、高性能・高信頼な印刷管理機能を提供するソフトウェアです。

- **Interstage List Works**
  様々なプラットフォームから出力された帳票を電子化して一元管理し、帳票の有効活用と帳票の印刷配信を実現するソフトウェアです。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票を CSV 形式で出力することはできますか？

A: できません。
Interstage List Creator には該当する機能は存在しません。
Interstage List Works では、帳票を CSV に変換することができます。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: アプリケーションサーバと帳票サーバが分かれている場合、アプリケーションサーバに Interstage List Creator Connector を導入しなくてもよい運用方法はありますか？

A: あります。
Interstage List Creator には、Web サービスに対応した帳票出力インターフェースが存在しますので適用してください。
ただし、Web サービスはセッションのタイムアウトなどの影響を受けるため、大量データの通信に向きません。帳票資源、入力データサイズ、出力される帳票ファイルのサイズが大きくなる場合、分割して出力するなどの対策が必要となります。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8

【技術サポート】

Q: 奇数ページにだけバーコードを出力することはできますか？

A: できます。
バーコードに対するデータがない（NULL）場合はバーコードが表示されないため、奇数ページのバーコードに対するデータをデータなし（NULL）にすることで実現できます。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 帳票開発時に、帳票にページ番号や、総ページ数を表示することはできますか？

A: できます。
操作手順は以下のとおりです。

- ページ番号
  1. 帳票様式定義画面で、7 桁以内の数字項目として「ページ番号」を定義します。
  2. データ定義画面の［データ定義］タブで、「ページ番号」のオペランドに「PAGE」を指定します。

- 総ページ番号
  1. 帳票様式定義画面で、7 桁以内の数字項目として「ページ番号」を定義します。
  2. データ定義画面の［データ定義］タブで、「ページ番号」のオペランドに「TPAGE」を指定します。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Excel で作成した帳票で使用している Office フォントを Interstage ListCreator で PDF 出力する場合、Interstage ListCreator サーバーに Office をインストールする必要はありますか？

A: 必要ありません。
PDF 出力に使用するフォントが、帳票出力サーバ上に登録されていれば、PDF 出力はできます。
ただし、Windows で標準提供されているフォント以外のフォントを使用する場合は、フォントのライセンスは必要になります。
また、Interstage List Creator の PDF 出力で使用できるフォントは「TrueType フォント」になります。
なお、Interstage List Creator デザイナの機能で、Excel から Interstage List Creator のオーバレイに変換する機能はありますが、Excel で使用しているフォントがそのまま反映されるわけではありません。出力フォントの指定は、Interstage List Creator デザイナの画面上で、改めて設定する必要があります。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: JIS2004 対応しているか教えてください。

A: Interstage List Creator V9.3.0 以降では、JIS X 0213:2004(JIS2004)で追加された文字を帳票に出力できます。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9

【技術サポート】

Q: 帳票定義体の情報をまとめて変更することはできますか？
例：帳票定義体に指定されているフォントを一括で変更

A: できません。
複数の帳票定義体の情報を一括で変更する方法はありません。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 帳票定義体の用紙指定時、「連帳」を選択して任意の用紙サイズを設定する場合、用紙サイズは用紙端のピンホールの部分も含むか教えてください。

A: 用紙端のピンホールの部分は含まないサイズです。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 出力する場合、作成された帳票の枚数を知る方法はありますか？

A: あります。
Interstage List CreatorV9.0.1 以降、「PDF ファイル編集機能」（PDF 操作コマンド）を使用することにより、生成した PDF ファイルの枚数を取得することができます。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9

【技術サポート】

Q: Excel 形式に出力する場合、作成された帳票の枚数を知る方法はありませんか？

A: ありません。
Excel 出力の場合、該当機能はありません。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Java インターフェースを用いた場合、使用する作業用ディレクトリにて、帳票を作成するとテンプファイルが残ります。原因と対処方法を教えてください。

A: **［原因］**
資源解放のための「cleanup メソッド」を呼び出していないためです。

［対処方法］
資源解放のための「cleanup メソッド」を呼び出す処理をアプリケーションに追記してください。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 「項目長」と「領域長」とは何か教えてください。

A: 項目長／領域長は、どちらも帳票レイアウト定義で、各種項目のプロパティ画面上で指定する「項目長」「領域長」を指しています。

- 項目長
  入力データの長さを表します。
- 領域長
  表示する項目によって必要とする帳票上の領域の長さを表します。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 環境設定の「出力時の動作」タブにて「出力する字体の指定」の設定項目がありますが、どのようなとき設定すればよいのか教えてください。

A: Windows Server2012 / Windows 7 の環境で、帳票を「印刷」する際に、JIS90 規格の字体で文字を出力したい場合に出力する字体の指定を設定します。
なお、使用するフォントが「字体の切り替え」に対応していることが前提となります。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 帳票 Web サービスの環境設定時の「MAXSIZE_RET_DATA_BY_MEM」というパラメタは、どのような場合に設定を行えばよいか教えてください。

A: 「MAXSIZE_RET_DATA_BY_MEM」は、帳票 Web サービス機能を使用する場合、PDF を帳票サーバで作成し、依頼元に PDF データをメモリ返却する時の PDF の最大サイズを指定するパラメタです。

プラットフォーム　: Windows　Solaris
バージョン　: V10　V9

【技術サポート】

Q: Interstage List Works の帳票データ転送アダプタとデータ転送コネクタの違いを教えてください。

A: 帳票データ転送アダプタ：
Net COBOL／MeFt 帳票、Interstage List Creator 帳票および IBM ビジネスサーバ帳票を、Interstage List Works に登録します。
Interstage List Works のサーバ機能を構成するコンポーネントの 1 つです。

データ転送コネクタ：
Net COBOL／MeFt 帳票および Interstage List Creator 帳票を Interstage List Works で電子化、登録する時に使用する電子保存装置の 1 つです。
Windows サーバ(x64)に帳票を登録する場合は、必ず使用します。
また、Windows サーバ(x86)に帳票を登録する場合に使用することもできます。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: CAD データを入力して、帳票を出力することはできますか？

A: できません。
CAD データには対応しておりません。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: CAD データを gif や tif などの画像形式に変換した場合、PDF 出力はできますか？

A: Interstage List Creator では、tif／jpeg／ビットマップ／png 形式での帳票出力は可能です。
gif 形式には対応しておりません。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 条件によって種類の異なる明細を切り替えて出力することはできますか？

A: できます。
帳票に明細を 2 種類作成し、条件によって出力する明細を切り替えることができます。
手順は以下のとおりです。

1. 集計表形式、またはフリーフレーム形式で帳票を作成します。
2. 明細パーティションを 2 つ作成します。
3. データ定義画面の拡張定義タブで DETAIL 段落を 2 つ定義し、明細を出力するための条件を指定します。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 数字項目で扱える桁数の上限を教えてください。

A: 数字項目の桁数は、小数部桁数含め、1～18 桁です。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 帳票印刷時に両面印刷できません。原因と対処方法を教えてください。

A: **［原因］**
両面印刷指定が正しく行われていない可能性があります。

［対処方法］
以下の点について確認してください。
- 帳票様式定義のプロパティで用紙の種別が「単票」になっている。
- 帳票出力インターフェースの両面指定または帳票業務情報の両面印刷指定で両面印刷を行う指定になっている。
- 帳票業務情報の両面印刷が「プリンタ装置の指定にしたがう」のとき、プリンタの設定画面で両面印刷を行う指定になっている。

ただし、オプション装置を指定しないと両面指定ができないプリンタもあります。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 帳票定義情報とは何か教えてください。

A: 帳票定義情報とは、帳票のレイアウトや帳票を出力するときの動作に関する定義情報です。帳票様式情報と帳票業務情報から構成されています。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 帳票様式情報とは何か教えてください。

A: 帳票様式情報とは、帳票のレイアウトや帳票レイアウトと入力データの関連について定義した情報です。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票業務情報とは何か教えてください。

A: 帳票業務情報とは、帳票の出力方法、出力時の動作、および出力後の動作に関する情報です。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、PDF 出力時に利用できる暗号化の種類について教えてください。

A: PDF 出力時の暗号化は、40bit 暗号化と強度の強い 128bit 暗号化を選択することができます。
128bit 暗号化では、細かなセキュリティオプションを設定することができます。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator Enterprise Edition において、URI 閲覧制限機能を利用する場合、URI のパスの中に半角空白を指定することはできますか？

A: できます。
ただし、半角空白を使用する場合は、半角空白の値を「%20」と指定することで使用できます。
以下に半角空白の使用例を示します。
PDF-LIMITURI=http://www.xxx.yyy.zzz/xxxx dir/ と指定する場合

PDF-LIMITURI=http://www.xxx.yyy.zzz/xxxx%20dir/

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator で帳票を作成すると、どんなファイルが作成されますか？

A: 帳票定義情報を作成すると、自動的に次のファイルが作成されます。

- 帳票名.bip
  帳票様式情報と入力データを関連付けるファイルです。
- 帳票名.pmd
  帳票ファイルです。
- 帳票名.psf
  補助ファイルで、帳票様式情報の編集時に必要なファイルです。

- 帳票名.ovd
  オーバレイファイルです。
- 帳票名.dse
  XBRL データ対応機能および Navigator 連携機能を使用する場合に必要なファイルです。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票資源の参照先、および帳票出力先（ファイル格納先）に、UNC 指定（¥¥コンピュータ名¥共有名¥ディレクトリ名）することができますか？

A: 以下のコマンド、インターフェースで指定する帳票資源の参照先、および帳票出力先（ファイル格納先）に UNC 指定（¥¥コンピュータ名¥共有名¥ディレクトリ名）することができます。

- コマンド
  - 帳票出力コマンド（prprint）
  - リモート帳票出力コマンド（prputprt）
    ※アプリケーションサーバからの参照
  - コネクタ連携コマンド（prputex）
  - プレビューコマンド（prview）
  - テストコマンド（prtest）
- Java インターフェース
- .NET インターフェース

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9

【技術サポート】

Q: サポートしている用紙サイズを教えてください。

A: A3、A4、A5、A6、B4、B5、はがき、Letter、Legal、任意の用紙サイズをサポートしています。
いずれも、単票紙、連帳紙に出力することができます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: サポートしている罫線種を教えてください。

A: 実線、点線、破線、一点鎖線、長破線、長鎖線、長二点鎖線、任意線、二重線、波線（波線 1、波線 2）の罫線をサポートしています。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 網がけや丸めのある枠／図形をサポートしていますか？

A: サポートしています。
網がけや丸めのある枠／図形以外にも、円や楕円もサポートしています。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: サポートしている画像データ（イメージデータ）を教えてください。

A: ビットマップ、JPEG、OLE2 オブジェクト、TIFF、PNG をサポートしています。 ただし、OLE2 オブジェクトは、出力サーバが Windows 版で、印刷、または、FAX 送信、または、OWF ファイル生成する場合にだけサポートしています。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票形式の種類と、各帳票形式の特徴を教えてください。また、帳票形式を決めるときの選択基準を教えてください。

A: 帳票形式には、フリーフレーム形式、カード形式、伝票形式、矩形繰返し形式、タックシール形式、集計表形式があります。
各帳票形式の特徴、および選択基準は、以下のとおりです。

- フリーフレーム形式
  - ほかの 5 つの形式を包含した高機能な形式です。
  - 明細を段組みで出力できます。
  - 明細を横方向に出力できます。
  - 1 ページに複数の明細を組み込むことができます。
    <帳票例>
    請求書
- 集計表形式
  - 明細表を組み込むことができます。
  - 明細の件数に応じて、明細行の数や合計行の出力位置が変わります。
  - 「小計」「中計」「合計」といった種類の違う合計を自動計算して出力できます。
    <帳票例>
    御見積書、個人就業実績
- 伝票形式
  - 明細表を組み込むことができます。
  - 毎ページ同じフォーマットで出力されます（固定のレイアウトで出力されます）。
  - 1 種類の合計を自動計算して出力できます。
    <帳票例>
    売上伝票
- カード形式
  - 自由な位置に項目を配置できます。
  - 明細や矩形の繰り返しを持たない帳票に適しています。
    <帳票例>
    社員カード、社員証
- 矩形繰返し形式
  - タックシール形式を包含した形式です。
  - ヘッダとフッタを追加した形式です。
    <帳票例>
    名刺一覧
- タックシール形式
  - 矩形の繰り返しだけで構成された帳票です。
  - 固定の位置に出力されます。
    <帳票例>
    宛名シール

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: すでに作成した帳票の形式を、別の形式に変換することはできますか？

A: できます。

帳票形式の変換機能を使用します。
変換できるのは、以下の帳票形式です。

- 集計表形式 → フリーフレーム形式
- 伝票形式 → フリーフレーム形式
- カード形式 → フリーフレーム形式
- フリーフレーム形式 → 集計表形式
- フリーフレーム形式 → 伝票形式
- フリーフレーム形式 → カード形式

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票の新規作成時、ウィザード機能はありますか？

A: あります。

新規に帳票を作成する場合、帳票様式定義ウィザード（ウィザード選択画面）を使用すると簡単に作成できます。
帳票様式定義ウィザードでは、作成する帳票に適した帳票の形式（フリーフレーム形式、カード形式、伝票形式、矩形繰返し形式、タックシール形式、集計表形式）を選択できます。また、実際に帳票出力時に使用する XML ファイルや、XML ファイル（文書）の型を定義した DTD ファイルを取り込めるため、効率よく帳票レイアウトを設計できます。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Excel や Word で作成した帳票を Interstage List Creator の帳票に変換できますか？

A: できます。

オーバレイユーティリティ機能を利用して、Excel や Word などの使い慣れたソフトなどから印刷を行うだけでオーバレイ、および帳票を作成できます。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 紙の帳票やプレプリント用紙に合わせて帳票を設計することができますか？

A: できます。

紙の帳票などをスキャナでイメージファイルにし、そのイメージファイルから帳票のレイアウトに関する情報を取り込んで、帳票レイアウト情報を作成することができます。
取り込んだイメージファイルは、作成する帳票レイアウト情報の下敷きとして表示されるため、その下敷きに合わせて項目やオーバレイを定義できます。
また、オーバレイ変換機能を利用して、下敷きイメージの罫線、網がけ、文字をオーバレイに変換することもできます。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票設計時のグリッド間隔の単位を教えてください。

A: グリッド間隔の単位には、インチ、ミリメートル、ドットがあります。

グリッド間隔、およびグリッド間隔の単位は、［グリッドの設定］画面で指定することができます。

= 操作手順 =
1. ［帳票様式定義］画面を表示します。
2. ［表示］－［グリッド］－［設定］ を選択します。
   ⇒［グリッドの設定］画面が表示されます。

帳票設計時の操作の単位は、単位設定で指定することができます。

= 操作手順 =
1. ［帳票様式定義］画面を表示します。
2. ［表示］－［単位設定］で、「インチ」、「ミリメートル」、「ドット」から単位を選択します。
   ⇒単位が変更されます。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票様式定義画面に定義できる最大項目数を教えてください。

A: 帳票様式定義画面に定義できる項目数の最大数は 2000 です。ただし、保存できるファイルサイズに制限があるため、項目数が 2000 個以内であっても帳票レイアウト情報が保存できない場合があります。
なお、項目数を減らさずにファイルサイズを小さくするには、項目名、タグ名、およびラジオボタン項目／チェックボックス項目の選択時情報などの文字列を短くしてください。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 明細の件数に応じて明細行の枠や罫線を自動的に出力することができますか？

A: できます。
明細の件数に応じて明細行の枠や罫線を自動的に出力する場合は、パーティション罫線／枠を指定します。
= 操作手順 =
1. ［帳票様式定義］画面を表示します。
2. ［挿入］－［パーティション罫線］を選択します。
   ⇒［罫線］または［枠］を選択します。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: オーバレイ罫線／枠と、パーティション罫線／枠の違いを教えてください。

A: 以下にオーバレイ罫線／枠と、パーティション罫線／枠の違いを説明します。

- オーバレイ罫線／枠
  オーバレイ罫線／枠は、定義した位置（固定位置）に出力されます。
  すべての帳票形式に定義できます。
- パーティション罫線／枠
  パーティションイ罫線／枠は、パーティション出力時に、各パーティションの一部として帳票上に出力されます。帳票形式が集計表形式、またはフリーフレーム形式の場合に定義できます。
  オーバレイ罫線／枠とは異なり、パーティションが出力されない場合は、パーティション罫線／枠も出力されません。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票様式定義画面で、オーバレイの罫線／枠とパーティション罫線／枠を区別する方法を教えてください。

A: 帳票様式定義画面で、オーバレイの罫線／枠とパーティション罫線／枠の表示・非表示を切り替えることができます。

= 操作手順 =

- オーバレイの罫線／枠の表示と非表示を切り替える場合
  1. ［帳票様式定義］画面を表示します。
  2. ［表示］－［オーバレイ表示］を選択します。

- パーティションの罫線／枠の表示と非表示を切り替える場合
  1. ［帳票様式定義］画面を表示します。
  2. ［表示］－［パーティション罫線表示］を選択します。

また、指定したオブジェクト（オーバレイ、パーティションなど）だけを編集領域で編集することができます。

= 操作手順 =

1. ［帳票様式定義］画面を表示します。
2. ［編集モード］－［編集オブジェクトの選択］を選択します。
   ⇒［編集オブジェクトの選択］画面が表示されます。
   編集したいオブジェクトをチェックします。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: データの演算結果だけを出力したいのですが、実現方法（帳票の設計方法）を教えてください。

A: 出力しない項目は、帳票様式定義画面で、非出力項目（レコードのみ項目）として定義します。
数量と単価から金額を計算して、金額だけ出力する方法を例に説明します（数量と単価は出力しません）。

= 操作手順 =

1. 帳票様式定義画面で非出力項目（レコードのみ項目）（項目形式（レコード項目形式）は数字項目）として「数量」と「単価」を定義します。
2. 帳票様式定義画面で数字項目として「金額」を定義します。
3. データ定義画面の［データ定義］タブで、「金額」のオペランドに「MUL（数量,単価）」を指定します。
4. 帳票形式が集計表形式、またはフリーフレーム形式（フレームが定義されている）の場合、データ定義画面の［拡張定義］タブで、「金額」の計算を行う COMPUTE 文を指定します。

= 備考 =
「数量」と「単価」に対する入力データを用意します。「金額」はプログラムが自動計算して出力するので、入力データは必要ありません。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 連帳用紙に印刷する方法を教えてください。

A: **＜帳票出力サーバが Windows の場合＞**
連帳用紙に帳票を印刷するには、次の定義を行います。

= 操作手順 =
以下の手順で、プリンタサーバのプロパティ画面で用紙を作成します。

Windows Vista の場合を例に説明します。

1. スタートメニューからプリンタフォルダ、またはプリンタと FAX フォルダを表示します。
   ［スタート］－［コントロールパネル］を選択します。
   ⇒表示されたコントロールパネル画面から、プリンタフォルダを表示します。
2. プリンタのプロパティ画面を表示します。
   プリンタフォルダの画面から、［ファイル］－［サーバのプロパティ］を選択します。
   ⇒プリントサーバのプロパティ画面の［用紙］タブで、用紙を作成します。
3. 帳票様式定義画面の帳票のプロパティ画面で、［帳票定義体］タブの「用紙種別」に「連帳」を、「用紙サイズ」に「任意」を指定し、「用紙名」に 1）で作成した用紙名を指定して帳票を設計します。

＜帳票出力サーバが Solaris の場合＞
VSP シリーズのレーザ連帳プリンタに帳票を FM 出力するには、次の定義を行います。

＝ 操作手順 ＝
帳票様式定義画面の帳票のプロパティ画面で、［帳票定義体］タブの「用紙種別」に「連帳」を、「用紙サイズ」に「任意」を指定し、「用紙名」を空白にし、「任意用紙サイズ」の［設定］ボタンをクリックして表示される画面で用紙サイズを指定します。

＝ 備考 ＝
プリンタに PostScript 出力する場合、PostRaster で設定した用紙サイズで出力されます。
詳細については、PostRaster のマニュアルを参照してください。

プラットフォーム　：Windows
バージョン　：V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 複数の帳票を 1 つの帳票として出力する方法（帳票の設計方法）を教えてください。

A: マルチフォーム出力機能を使用して、複数の帳票を 1 つの帳票として出力することができます。
prprint コマンドを使用してマルチフォーム出力する方法を例に説明します。

＝ 操作手順 ＝
1. 「帳票 A」と「帳票 B」を作成します。
2. データファイル「Data1.dat」を作成します。マルチフォーム出力するために、各行の先頭に帳票名を記述します。帳票名とデータを、［データ定義］画面の入力データ形式と区切り文字の指定に従って記述します。
3. 帳票の出力時に、prprint コマンドの-grpdelim オプション（必要に応じて-grpbytes オプション）を指定します。
   例） prprint -grpdelimit "|" -f "C:¥Data¥Data1.dat"

プラットフォーム　：Windows　Solaris　Linux
バージョン　：V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q:「往復はがき」のように、両面でレイアウトが異なる帳票を出力する方法（帳票の設計方法）を教えてください。

A: マルチフォーム出力機能を使用し、表面の帳票と裏面の帳票を用意することで出力できます。また、入力データには、複数帳票分の入力データを 1 つのデータファイルにまとめて、各行の先頭に、帳票名を記載したものを用意します。
prprint コマンドを使用して往復はがきを印刷する方法を例に説明します。

＝ 操作手順 ＝

1. 帳票「表面」と帳票「裏面」を作成します。
   ⇒帳票形式にカード形式を選択します。
2. 帳票「表面」の［帳票様式定義］画面で、帳票定義体のプロパティで用紙サイズに、任意を指定し、用紙名を例えば、往復はがき、用紙方向に縦を設定します。
3. 帳票「表面」の［帳票様式定義］画面で、帳票レイアウトを設計します。

⇒往信用の宛名を左側に、返信用の裏面にあたる部分を右側に設計します。
4. 帳票「裏面」の［帳票様式定義］画面で、帳票レイアウトを設計します。
5. データファイル「Data1.dat」を作成します。マルチフォーム出力するために、各行の先頭に帳票名を記述します。帳票名とデータを、［データ定義］画面の入力データ形式と区切り文字の指定に従って記述します。
6. 帳票「表面」の［帳票業務情報のプロパティ］画面の［印刷］タブで、［印刷プリンタ名］に両面印刷可能なプリンタを指定し、［両面印刷］に「する」を指定します。
7. 帳票の出力時に、prprint コマンドの-grpdelimit オプション（必要に応じて-grpbytes オプション）を指定します。
   例） prprint -grpdelimit "|" -f "C:¥Data¥Data1.dat"

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 入力データの上限値を教えてください。

A: 入力データの上限値は、アプリケーションサーバ／帳票出力サーバのオペレーティングシステムによって以下のようになります。

- Windows の場合： 4G バイト
- Solaris の場合： 8G バイト
- Linux の場合： 2G バイト未満

帳票出力時に、入力データの上限値を超えると、エラーになる場合があります。
また、1 レコード（行）あたり、32K バイト以内で指定してください。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator デザイナで kol5 オーバレイを作成できますか？

A: できます。
帳票の作成の流れは以下のとおりです。

1. 環境設定
   帳票を作成する Windows 上で List Creator の EDITUTIL コマンドを実行します。
   EDITUTIL コマンドを実行すると、UNIX 形式（KOL5）と Windows 形式（KOL6）の両方の形式のオーバレイが作成できるようになります。
2. 帳票の新規作成
   帳票を新規に作成します。
   帳票様式定義ウィザードで「KOL5 形式でオーバレイを作成する」チェックボックスをチェックし、帳票を作成します。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V9 V8 V7 V6

【技術サポート】

Q: 他システムで作成した kol5 オーバレイを kol6 オーバレイに変換できますか？

A: できます。
操作手順は以下のとおりです。

= 操作手順 =

1. ［帳票様式定義］画面を表示します。
2. ［ファイル］－［オーバレイの追加］を選択します。
   ⇒［ファイル選択］画面が表示されます。
3. 他システムで作成した kol5 オーバレイファイルを選択します。
   なお、Intarstage List Creator で作成した kol5 オーバレイは変換できません。

プラットフォーム　: Windows

バージョン　　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票様式定義画面で項目を重ねて配置する場合、表示の優先順位を指定できますか？

A: オーバレイ（図形、文字）だけ、表示の優先順位を指定できます。
オーバレイ以外のオブジェクト、および項目は表示の優先順位を指定できません。
オーバレイの表示の優先順位の指定方法は以下のとおりです。

= 操作手順 =
1. どのような優先順位で出力するかを決定します。
2. 1 番上にしたい項目を選択し、［最前面へ移動］を選択します。
3. 優先順位が 2 番目の項目を選択し、［最背面へ移動］を選択します。
4. 優先順位が 3 番目の項目を選択し、［最背面へ移動］を選択します。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票設計時に項目を重ねて配置した場合、出力結果では項目はどのような順序で出力されますか？

A: 帳票様式定義画面で指定したパーティションリストの順序で前面に出力されます。
なお、組み込みメディア項目とその他の項目が重なっている場合、以下の順序で前面に出力されます。
1. 組み込みメディア以外の項目
2. 組み込みメディア項目

また、オーバレイで定義した項目とオーバレイ以外の項目が重なっている場合、以下の順序で前面に出力されます。
1. オーバレイ以外の項目
2. オーバレイで定義した項目

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票の出力時に、入力データ以外で、ある項目に対して出力するデータを指定する方法を教えてください。

A: 帳票の出力時に、入力データ以外で、ある項目に対して出力するデータを指定するには、帳票の該当する項目に変数を定義し、帳票の出力時に出力したいデータを SET 文の置換文字列に指定します。
以下に、帳票の該当する項目に変数を定義し、prprint コマンドを使用して帳票の出力時に出力したいデータを SET 文の置換文字列で指定する例を示します。

= 操作手順 =
1. ［帳票様式定義］画面で、「項目 A 」を定義します。
2. ［データ定義］画面の［データ定義］タブで、「項目 A 」のオペランドに「SET(%)」を指定します。
3. 帳票の出力時に、prprint コマンドの-s オプションで出力したいデータを指定します。
例） prprint -s "123" -f "C:¥Data¥Data1.dat" "帳票 1"

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: データ項目「宛名」のうしろに、余白を空けずに文字列「様」や「御中」を付けて出力する方法（帳票の

設計方法）を教えてください。

A: データ項目に対する入力データのうしろに、余白を空けずにある文字列を付加したい場合は、［データ定義］画面で、文字列を付加したいデータ項目のオペランドに TAILSTR 演算子を指定します。
データ項目「宛名」のうしろに、文字列「様」を付加する方法を例に説明します。

= 操作手順 =
1. ［帳票様式定義］画面でテキスト項目として「宛名」を定義します。
2. ［データ定義］画面の［データ定義］タブで、「宛名」のオペランドに「TAILSTR（"様"）」を指定します。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 入力データの値によって、ある文字列に取り消し線を引く方法（帳票の設計方法）を教えてください。

A: 招待状のはがきで、出欠の「○」または「×」のデータによって「出席」または「欠席」の文字列に取り消し線を引く方法を例に説明します。
データによって文字列に取り消し線を引くには、以下の方法があります。
- CASE 演算子を使用する方法
- 条件指定を使用する方法

● CASE 演算子を使用する方法
= 操作手順 =
1. ［帳票様式定義］画面で、固定リテラル項目として文字列「出席」と「欠席」を定義します。
2. ［帳票様式定義］画面で、2 桁の非出力項目（レコードのみ項目）（項目形式（レコード項目形式）はテキスト項目）として「出欠」を定義します。
3. ［帳票様式定義］画面で、4 桁のテキスト項目として「取り消し線 1」と「取り消し線 2」を「出席」と「欠席」に重なるように定義します。
   ⇒取り消し線を引く文字列と同じ「項目長」を指定してください。
4. 「取り消し線 1」と「取り消し線 2」のプロパティ画面で、［フォント］タブの「ピッチ」チェックボックスをチェックし、値を指定します。
   ⇒取り消し線（罫線）の間に空白が入る場合があります。出力結果を確認し、必要に応じて文字ピッチを調節してください。
5. データ定義画面の［データ定義］タブで、「取り消し線 1」のオペランドに「CASE(出欠 = "×", "――") DEFAULT(_NULL_)」を指定します。
   ⇒入力データ内の「出欠」の値が「×」の場合、帳票出力時に文字列「出席」の上に取り消し線を表示します。
6. データ定義画面の［データ定義］タブで、「取り消し線 2」のオペランドに「CASE(出欠 = "○", "――") DEFAULT(_NULL_)」を指定します。
   ⇒入力データ内の「出欠」の値が「○」の場合、帳票出力時に文字列「欠席」の上に取り消し線を表示します。

● 条件指定を使用する方法
= 操作手順 =
1. ［帳票様式定義］画面で、テキスト項目を 2 つ（「出席」と「欠席」）定義します。
2. ［帳票様式定義］画面で、2 桁の非出力項目（レコードのみ項目）（項目形式（レコード項目形式）はテキスト項目）として「出欠」を定義します。
3. ［データ定義］画面の［データ定義］タブで「出席」のオペランドに「SET("出席")」を設定し、「欠席」のオペランドに「SET("欠席")」を指定します。
4. 「出席」の［プロパティ］画面の［条件指定］タブで、出力条件を指定します。
5. 条件式に、「出欠="×"」を指定します。
6. 属性に、「抹消線」チェックボックスをチェックし、「一重抹消線」を選択します。
   ⇒入力データ内の「出欠」の値が「×」の場合、帳票出力時に文字列「出席」の上に取り消し線を表示します。
7. 「欠席」のプロパティ画面の［条件指定］タブで、出力条件を指定します。
8. 条件式に、「出欠="○"」を指定します。
9. 属性に、「抹消線」チェックボックスをチェックし、「一重抹消線」を選択します。
   ⇒入力データ内の「出欠」の値が「○」の場合、帳票出力時に文字列「欠席」の上に取り消し線を表示します。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票の出力イメージを確認する方法はありますか？

A: プレビュー機能を使用して、帳票設計途中の帳票レイアウト情報の出力イメージを確認することができます。
プレビューで表示する方法には、以下の方法があります。

- 帳票設計時にプレビューする方法
  帳票設計途中で、帳票出力イメージを確認するときに使用すると便利です。実際の入力データを使用して表示することも、入力データの雛形を使用して表示することもできます。
  この方法では、印刷イメージ、PDF ファイル形式、Excel ファイル形式、TIFF ファイル形式での出力イメージを確認できます。
- ユーティリティ（プレビューア）でプレビューする方法
  作成した帳票様式情報と実際の入力データを使用して、帳票印刷イメージを確認するときに使用すると便利です。

なお、Interstage List Creator デザイナ V10.3.0 以前をご使用の場合、TIFF ファイル形式の出力イメージを確認することはできません。
また、Interstage List Creator デザイナ V9.0.1 以前をご使用の場合、PDF ファイル形式、Excel ファイル形式の出力イメージを確認することはできません。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票様式情報の仕様（帳票レイアウト情報、入力データ情報など）の定義情報を一覧形式で出力できますか？

A: できます。
Interstage List Creator では、帳票様式情報の仕様（定義情報）を一覧形式で印刷、PDF ファイル、または Excel ファイルに出力することができます。
帳票様式情報の仕様印刷では、以下の情報を出力できます。

- 帳票イメージ
  帳票の出力イメージを出力します。
- 帳票仕様
  帳票レイアウト全体に関する情報を出力します。
- 項目仕様
  帳票レイアウトに情報定義されている項目に関する情報を出力します。出力形式には、通常形式と一覧形式の 2 通りがあります。出力対象とする項目は、固定リテラルを含めた全項目か固定リテラル（日付項目、時刻項目を含む）を除く項目のどちらかを選択できます。
- パーティション仕様
  パーティションに関する情報を出力します。パーティション仕様は、フリーフレーム形式および集計表形式の帳票だけ出力できます。フリーフレーム形式の帳票の場合、フレーム単位でパーティション情報が出力されます。
- 入力データ仕様
  入力データ形式が「可変長」、「固定長」、または「CSV 形式」の場合に、入力データを設計するときに必要な情報を出力します。

なお、Interstage List Creator デザイナ V9.0.1 以前をご使用の場合、以下の出力はできませんのでご注意ください。

- PDF ファイル形式、Excel ファイル形式では出力できません。
- 帳票イメージは出力できません。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 複数ページにわたる帳票を出力する場合、出力範囲（出力するページ）を指定できますか？

A: できます。
Interstage List Creator では、帳票出力時に、出力を開始する「開始ページ番号」、出力を終了する「終了ページ番号」を指定することができます。prprint コマンドを使用して帳票の出力時に、出力範囲を 3 ページから 8 ページに指定する例を示します。
例） prprint - r 3 -e 8 "帳票 1"

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: データベースと連携して帳票出力できますか？

A: できます。
Interstage List Creator では、データベースに保存されたデータを入力データとして使用し、帳票出力することができます。
データベースと連携する機能は、以下のとおりです。

- Interstage Navigator Server 連携機能
  Interstage Navigator Server と連携して、データの抽出条件に従ってデータベースに問い合わせを行い、その結果を帳票の入力データとして使用できます。
- SQL Server Integration Services（SSIS）連携機能
  SQL Server Integration Services（SSIS）は、データウェアハウジング対応の ETL（抽出、変換、読み込み）パッケージを含む、高いパフォーマンスデータ統合ソリューションを構築するためのプラットフォームです。
  SSIS 連携機能が提供する List Creator データ変換先を使用することで、プログラミングせずにデータベースからデータを抽出でき、その結果を入力データとして帳票出力することができます。
- Interstage Information Integrator との連携
  Interstage Information Integrator では、「帳票連携アダプター」を提供しています。これにより、Interstage Information Integrator 上のデータを入力データとして、帳票を出力することができます。

プラットフォーム　: Windows Solaris
バージョン　: V10 V9 V8

【技術サポート】

Q: 外字（利用者定義文字）を出力できますか？（帳票出力サーバが Solaris、または Linux の場合）

A: できます。
外字（利用者定義文字）を出力する場合は、帳票出力サーバに外字（利用者定義文字）の登録が必要です。
また、外字（利用者定義文字）を出力する場合は、Interstage Charset Manager が必要になります。
なお、PostScript 出力時は、外字（利用者定義文字）は出力できませんので、ご注意ください。

プラットフォーム　: Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票出力コマンドを複数実行した場合、実行した順番で帳票出力されますか？

A: 実行した順番で帳票出力されるとは限りません。帳票出力サーバ側で出力処理が完了した順番で出力されます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票に写真などのイメージデータを出力する方法（帳票の設計方法）を教えてください。

A: 帳票に写真などのイメージデータを出力する場合は、帳票様式定義画面で、組込みメディア項目として定義し、入力データにはメディアデータ（イメージデータ）のファイル名を指定します。
ビットマップデータを出力する方法を例に説明します。

= 操作手順 =

1. ［帳票様式定義］画面で、「項目 A 」を組込みメディア項目として定義します。
2. ［データ定義］画面の［データ定義］タブで、「項目 A 」のオペランドに「MEDIA-B」を指定します。
3. 入力データにビットマップデータのファイル名を指定します。

4. 帳票出力時、メディアデータ格納ディレクトリの指定にビットマップデータの格納ディレクトリを指定します。

なお、メディアデータには次の種類があります。
- ビットマップデータ（MEDIA-B）
- JPEG データ（MEDIA-J）
- TIFF データ（MEDIA-T）
- OLE2 オブジェクト（MEDIA-O）
- PNG データ（MEDIA-P）

いつも同じビットマップデータを出力するのであれば、ビットマップデータをオーバレイイメージとしてあらかじめ帳票に取り込んでおくこともできます。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票出力コマンド実行時、正常に出力されたか否かを判断する方法はありますか？

A: Interstage List Creator では、帳票出力コマンド実行時の復帰値から、帳票の出力が正常に終了したか否かを判断することができます。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: OS のシステム日付や時刻を変更した場合、Interstage List Creator の運用に何か影響はありますか？

A: OS のシステム日付や時刻を変更した場合、以下の影響があります。
- リモート帳票出力時、意図しない（違う）帳票が出力される、または、エラーになる場合があります。
  リモート帳票出力時、アプリケーションサーバの帳票が更新されている（新しい）場合だけ帳票定義情報を転送し、帳票を出力する運用を行うことができます。この場合、帳票の出力時に、ユーザーアプリケーションなどで指定したアプリケーションサーバ側にある帳票と、以前出力した帳票出力サーバ側にキャッシュされている帳票を比較し、新しい方の帳票を利用して帳票出力されます

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 入力データ中に NULL 値（0x00）を指定できますか？

A: 指定できません。
なお、データベースなどからデータ抽出する場合は NULL 値を含む場合があります。
このような場合、NULL 値を削除する、別の文字に置き換えるなどの対処を行ってください。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票出力時、帳票の用紙方向「縦」、「横」を指定することはできますか？

A: できません。
帳票設計時に指定した用紙方向で出力されます。
以下の手順で帳票の用紙方向「縦」、「横」を指定してください。

= 操作手順 =

1. ［帳票様式定義］画面を表示します。
2. ［ファイル］－［帳票のプロパティ］を選択します。
   ⇒［帳票のプロパティ］画面が表示されます。
3. ［帳票定義］タブの ［用紙方向］ に、［縦］、または、［横］ を指定します。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票出力結果において、パーティションの間に隙間ができるのですが、原因と対処方法を教えてください。

A:

［原因］

集計表形式またはフリーフレーム形式で出力する場合に、パーティションの縦幅に行ピッチ（1 行の高さ）よりも小さい値が指定されている可能性があります。
パーティションの縦幅が行ピッチ（1 行の高さ）よりも小さい場合、パーティション間に、行ピッチ（1 行の高さ）からパーティションの縦幅を引いた分の隙間ができることがあります。

［対処方法］

縦幅の小さいパーティションを出力したい場合は、行ピッチ（1 行の高さ）にパーティションの縦幅以下の値を指定してください。

＝ 操作手順 ＝

1. 帳票様式定義画面で、［ファイル］－［帳票のプロパティ］を選択します。
   ⇒プロパティ画面が表示されます。
2. ［帳票定義体］タブで、「行ピッチ」に、パーティションの縦幅以下の値を指定します。

［ご参考］

パーティションの印刷前改行数、パーティションの縦幅、行ピッチの関係・動作は、以下のとおりです。

＜印刷前改行数 1 の場合＞

- パーティションの縦幅＞行ピッチの場合
  ⇒パーティションの縦幅で改行します。
- パーティションの縦幅＜行ピッチの場合
  ⇒行ピッチの値で改行します。
- パーティションの縦幅＝行ピッチの場合
  ⇒パーティションの縦幅＝行ピッチ値で改行します。

＜印刷前改行数 n（2 以上）の場合＞

- n-1 回分の改行は、行ピッチの値で改行します。
- 最後 1 行分は、上記の 1.1、1.2、1.3 に従います。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator が出力するメッセージのファシリティレベル、および、プライオリティを教えてください。

A:

Interstage List Creator では、以下のファシリティおよびプライオリティで出力を行っています。

- user.info
- user.warning
- user.error
- local0.error

プラットフォーム　: Solaris
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 半角カタカナは、日本語フォントと英文フォントのどちらのフォントで出力されますか？

A: 「オーバレイ文字」の場合は、日本語フォントに指定したフォントで出力されます。「オーバレイ文字」以外の場合は、英文フォントに指定したフォントで出力されます。

<オーバレイ文字の場合>
日本語フォント： マルチバイトコード文字、および半角カタカナ
英文フォント： 1 バイトコード文字

<オーバレイ文字以外の場合>
日本語フォント： マルチバイトコード文字
英文フォント： 1 バイトコード文字、および半角カタカナ

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator で使用できるプリンタを教えてください。（帳票出力サーバが Windows の場合）

A: 使用するプリンタに制限はありません。すべてのプリンタに出力できます。
また、Interstage List Creator では、Interstage Print Manager と連携し、Interstage List Creator のアプリケーションから印刷時のエラー監視・通知、区切りページの出力、印刷ドキュメントの保留などに関する指定を行うことができます。（高信頼印刷機能）
なお、高信頼印刷時は、以下の種類のプリンタを使用できます。

- 高信頼プリンタ（推奨）
- 高信頼リモートプリンタ

高信頼印刷や高信頼プリンタの詳細については、Interstage Print Manager のオンラインマニュアルを参照してください。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator で使用できるプリンタを教えてください。（帳票出力サーバが Solaris の場合）

A: 以下の種類のプリンタを使用できます。

- PostScript プリンタ
- VSP シリーズのプリンタ
  （FM 出力、FNP 出力をサポート）
- PS5000 シリーズのプリンタ
  （FNP 出力をサポート）

また、Interstage List Creator では、Interstage Print Manager と連携し、Interstage List Creator のアプリケーションから印刷時のエラー監視・通知、区切りページの出力、印刷ドキュメントの保留などに関する指定を行うことができます。（高信頼印刷機能）
なお、高信頼印刷時は、以下の種類のプリンタを使用できます。

- 高信頼プリンタ（推奨）
- 高信頼リモートプリンタ

高信頼印刷や高信頼プリンタの詳細については、Interstage Print Manager のオンラインマニュアルを参照してください。

プラットフォーム　: Solaris
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator で使用できるプリンタを教えてください。（帳票出力サーバが Linux の場合）

A: 以下の種類のプリンタを使用できます。

- Linux for Intel64 の場合
  - PostScript プリンタ
  - VSP/PS5000 シリーズのプリンタ
    （FNP 出力をサポート）
- Linux for x86 の場合
  - PostScript プリンタ
  - VSP シリーズのプリンタ
    （FNP 出力をサポート）
- Linux for Itanium の場合
  - PostScript プリンタ
  - VSP/PS5000 シリーズのプリンタ
    （FNP 出力をサポート）

プラットフォーム　: Linux

バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: オーバレイを重畳せずに出力することはできますか？

A: Interstage List Creator では、プレプリント用紙のようにあらかじめ枠や固定文字が印刷されている用紙に出力する場合に、オーバレイを重畳せずに出力することができます。
以下に、操作手順を説明します。

= 操作手順 =

1. ［帳票様式定義］画面を表示します。
2. ［ファイル］－［帳票のプロパティ］を選択します。
   ⇒［帳票のプロパティ］画面が表示されます。
3. ［オーバレイ］タブの「オーバレイを印刷する」チェックボックスのチェックをはずします。

なお、プレビュー時にはオーバレイが重畳されますが、帳票の出力時にはオーバレイは重畳されません。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Interstage Print Manager と連携して帳票出力する場合、Interstage Print Manager の印刷属性情報を指定できますか？

A: Interstage List Creator では、印刷属性情報として、以下の Interstage Print Manager の高信頼印刷機能の一部を Interstage List Creator の帳票出力時に指定することができます。

- 出力後の帳票の動作に関する指定
  出力開始時の動作モードとして、出力した帳票をサーバやクライアントで保留するかどうか、または保留解除日時などを指定できます。また、帳票の出力時の優先順位など指定できます。
- 区切りページの出力指定
  区切りページを出力することができます。

- エラー通知に関する指定
  通知メッセージ 、および返答メッセージの通知先を指定することができます。また、用紙交換メッセージに関する指定を行うことができます。
- イベント通知、出力完了待ち合わせモードなどの指定
  イベント通知機能を使用するかどうか、出力完了のコマンド復帰の待ち合わせなどに関する指定を行うことができます。

なお、印刷属性情報に関する指定は、出力装置に Interstage Print Manager で定義したプリンタを利用する場合にだけ有効となります。

プラットフォーム : Windows Solaris
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 段組みの帳票を出力する方法を教えてください。

A: 段組み出力の方法には、以下の方法があります。

- 帳票で定義する方法
- 帳票設計時にフリーフレーム形式で段組みの帳票を作成する方法
- プリンタに指定する方法

● 帳票で定義する方法

= 操作手順 =

1. ［帳票様式定義］画面の［帳票のプロパティ］画面で、［拡大/ 縮小印刷］タブの「段組み印刷」チェックボックスをチェックします。
2. 以下の段組みから選択します。
   - 2 段
   - 4 段横
   - 4 段縦

● 帳票設計時にフリーフレーム形式で段組みの帳票を作成する方法

この方法は、フリーフレーム形式の場合だけ使用できます。ボディに複数のフレームを定義し、定義したフレームにリンクを設定します。

= 操作手順 =

1. ［帳票様式定義］画面で、段組みの数だけフレームを配置します。フレームは、1 つの帳票に 100 個まで配置できます。
2. フレームリンクモードで、フレームにリンクを設定します。

● プリンタに指定する方法

出力方法が印刷の場合、使用するプリンタのプロパティ画面 から段組み出力を指定することもできます。
なお、プリンタの種類によっては、指定できない場合がありますのでご注意ください。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 用紙サイズ「A1」や「A2」の帳票を出力できますか？

A: できません。

Interstage List Creator で指定できる印刷範囲（レイアウト設計時の定義範囲）は以下のとおりです。

- インチの場合
  横幅 ： 0.01 ～ 22.5 インチ
  縦幅 ： パーティションの高さ（固定パーティションの場合は、高さ＋開始位置）の最大値 ～ 22.5 インチ
- ミリメートルの場合
  横幅 ： 0.1 ～ 571.5 ミリメートル
  縦幅 ： パーティションの高さ（固定パーティションの場合は、高さ＋開始位置）の最大値 ～ 571.5 ミリメートル
- ドットの場合
  横幅 ： 1 ～ 16200 ドット
  縦幅 ： パーティションの高さ（固定パーティションの場合は、高さ＋開始位置）の最大値 ～ 16200 ドット

このため、この範囲を超える用紙サイズ「A1」や「A2」に出力することはできません。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票出力時、用紙交換メッセージを通知することはできますか？

A: Interstage Print Managerと連携し、出力装置に Interstage Print Manager で定義したプリンタを利用する場合だけ、用紙交換メッセージを通知することができます。
用紙交換メッセージを通知するには、以下の方法があります。

- 装置の設定に従う
  出力装置の設定に従って用紙交換メッセージを通知できます。
- 帳票で指定した用紙名で通知する
  帳票様式情報で指定した用紙名で用紙交換メッセージを通知できます。
- 以下の用紙名で通知する
  指定した用紙名で用紙交換メッセージを通知できます。

帳票の用紙情報とプリンタにセットされている用紙が同じ／異なる場合にかかわらず、常に用紙交換メッセージを通知することもできます。

プラットフォーム　: Windows　Solaris
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 帳票出力時、印刷プリンタにリモートプリンタを指定できますか？

A: ローカル出力および OWF ファイル生成時だけ、リモートプリンタを指定できます。
Interstage List Creator で指定できる印刷プリンタについては、以下の表を参照してください。

	ローカルプリンタ	Interstage Print Manager の高信頼プリンタ	リモートプリンタ（*1）	Interstage Print Manager の高信頼リモートプリンタ（*1）
Windows 版	○	○	○	○
Solaris 版	○	○	○	○
Linux 版	○	×	○	×

*1：以下の場合は、帳票の出力先にリモートプリンタおよび Interstage Print Manager の高信頼リモートプリンタを指定できません。

- リモート帳票出力時
- コネクタ連携時
- データ到着監視時（Windows 版のみの機能）

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: プリンタの出力方法によって、出力結果の解像度は異なりますか？（帳票出力サーバが Solaris の場合）

A: プリンタの出力方法によって、出力結果の解像度は異なります。
プリンタのハード設定解像度にかかわらず、以下の解像度で出力されます。

- FM 出力時
  240dpi
- FNP 出力時
  用紙種別が単票の場合：600dpi
  用紙種別が連帳の場合：400dpi
- PostScript 出力時
  各プリンタ装置のデフォルトの解像度

プラットフォーム　: Solaris
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: プリンタの出力方法によって、出力結果の解像度は異なりますか？（帳票出力サーバが Linux の場合）

A: プリンタの出力方法によって、出力結果の解像度は異なります。
プリンタのハード設定解像度にかかわらず、以下の解像度で出力されます。

- FNP 出力時
  用紙種別が単票の場合：600dpi
  用紙種別が連帳の場合：400dpi
- PostScript 出力時
  各プリンタ装置のデフォルトの解像度

プラットフォーム　：Linux

バージョン　：V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: ユーザー定義用紙（単票）に印刷する方法を教えてください。

A: Windows でユーザー定義用紙（単票）に帳票を印刷するには、次の定義を行います。

= 操作手順 =

1. 以下の手順で、プリンタサーバのプロパティ画面で用紙を作成します。
   Windows Vista の場合を例に説明します。
   I. Ⅰ.スタートメニューからプリンタフォルダ、またはプリンタと FAX フォルダを表示します。
      ［スタート］－［コントロールパネル］を選択します。
      ⇒表示されたコントロールパネル画面から、プリンタフォルダを表示します。
   II. Ⅱ.プリンタのプロパティ画面を表示します。
      プリンタフォルダの画面から、［ファイル］－［サーバのプロパティ］を選択します。
      ⇒プリントサーバのプロパティ画面の［用紙］タブで、用紙を作成します。
2. 帳票様式定義画面の帳票のプロパティ画面で、［帳票定義体］タブの「用紙種別」に「単票」を、「用紙サイズ」に「任意」を指定し、「用紙名」に 1.で作成した用紙名を指定して帳票を設計します。

プラットフォーム　：Windows
バージョン　：V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Works と連携して電子保存する場合、1 ページあたりの行数に制限はありますか？

A: あります。
電子帳票の最大行数は、1 ページあたり 256 行です。256 行を超えた場合、帳票検索時にエラーとなります。
同一行の項目は、左下を基点にそろえて定義してください。左下を基点にそろえない場合、データの変換や検索時に別の行とみなされ、256 行を超えることがあります。
なお、左下を基点にそろえるには、次の機能を使用すると便利です。

- 項目の基点を左下にする
- グリッドに合わせて配置する
- 項目・オーバレイを整列する
- 項目・オーバレイを自動補正配置する

プラットフォーム　：Windows　Solaris　Linux
バージョン　：V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: ECM 連携機能使用時、出力した帳票や ECM 連携ファイルなどを移動、または削除する機能はありますか？

A: 出力した帳票や ECM 連携ファイルなどを移動／削除する機能はありません。
定期的にファイルの整理を行うことをお薦めします。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9

【技術サポート】

Q: ECM 連携機能使用時、帳票の出力先（PDF ファイルの納先、または Excel ファイルの格納先）フォルダに、出力するファイル名と同一名のファイルがすでに存在する場合、上書きされますか？

A: ファイルを上書きする権限があれば新しいファイルに置き換えられます。ファイルを上書きする権限がない場合は、エラーになります。
したがって、帳票の出力先フォルダに出力する帳票のファイル名、および ECM 連携ファイル名は、一意名となるように指定してください。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9

【技術サポート】

Q: ECM 連携機能を使用して帳票出力した場合、ECM 連携ファイルの出力先（格納先）を教えてください。

A: 帳票の出力先（PDF ファイルの格納先／Excel ファイルの格納先）フォルダと同一のフォルダに出力されます。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9

【技術サポート】

Q: 1 回の帳票出力（ユーザーアプリケーション）の実行で、同じ帳票を複数の出力先に出力できますか？

A: できます。
マルチコネクタ連携機能を利用し、以下のように 3 段階のサーバ構成で帳票が出力できます。
アプリケーションサーバ → 帳票編集サーバ → 共通サーバ

- アプリケーションサーバ（Linux（Intel64）版のみ）
  帳票出力（ユーザーアプリケーション）を実行するサーバです。
- 帳票編集サーバ（Windows 版のみ）
  アプリケーションサーバからの帳票の同時出力依頼が登録されるサーバです。
  なお、帳票編集サーバと同一サーバの Interstage List Works と連携し、帳票編集サーバで帳票を電子保存することもできます。
- 共通サーバ（Windows のみ）
  帳票を実際に印刷する帳票出力サーバの総称です。

プラットフォーム　: Windows Linux
バージョン　: V10 V9

【技術サポート】

Q: リモート帳票出力時、データを圧縮して転送できますか？

A: できます。
リモート帳票出力時、アプリケーションサーバの帳票やデータファイル、メディアデータファイルなどの転送データを圧縮して転送することができます。

prputprt コマンドを使用してリモート帳票出力時に、圧縮転送を指定する例を示します。
例） prputprt -c -s "帳票 1"…….

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: リモート帳票出力時、またはコネクタ連携時、帳票出力ごとにプリンタを切り替えて出力することはできますか？

A: できます。
帳票出力オプションを使用して帳票出力サーバ側のプリンタを指定します。
prputprt コマンドを使用してリモート帳票出力時に、帳票出力サーバ側のプリンタ（LP x x x）を指定する例を示します。

例） prputprt -s "帳票 1"… -z -n "LP x x x"….

※ リモート帳票出力コマンド（prputprt）、コネクタ連携コマンド（prputex）では、-z オプションにて帳票出力オプションを指定できます。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票を出力したアプリケーションとは別のアプリケーションで、帳票の出力結果を取得することができますか？

A: できます。
イベント通知機能を利用し、Interstage List Creator のコマンドを使用して帳票を出力したときの出力要求に対する状態遷移をユーザーアプリケーションで取得することができます。
帳票の出力要求に対する状態が変化したときに、ユーザーアプリケーションにイベントとして通知します。イベントが通知されるのは、Interstage Print Manager で定義したプリンタに帳票を出力した場合だけです。
なお、UNIX 系 OS 上では、Windows へのリモート帳票出力型で運用する場合だけ、イベント通知機能を使用できます。
コネクタ連携機能で帳票を出力した場合、イベント通知機能でイベントを取得することはできませんので、ご注意ください。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: リモート帳票出力コマンド実行時、帳票資源の参照先、および帳票出力先（ファイル格納先）に UNC 指定（¥¥コンピュータ名¥共有名¥ディレクトリ名）することができますか？

A: リモート帳票出力コマンド実行時、アプリケーションサーバでの帳票資源の参照先および帳票出力先だけ UNC 指定（¥¥コンピュータ名¥共有名¥ディレクトリ名）することができます。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: リモート帳票出力機能で使用する TCP/IP ポート番号を教えてください。

A: リモート帳票出力機能では以下のポートを使用します。

- Interstage List Creator の環境設定画面で指定したポート番号
- NetBIOS のポート（137、138、139）

- SMB プロトコルのポート（445）

Interstage List Creator がリモート帳票出力機能で使用するポート番号は、インストール直後は「9556」が設定されています。ポート番号を変更したい場合は、次の手順で行ってください。

= 操作手順 =

● Solaris/Linux の場合

1. コンピュータにログオンします。
   システム管理者権限で、コンピュータにログオンしてください。

2. 「/etc/services」ファイルをテキストエディタで開きます。

3. 「fjsvoast」の文字列を検索し、以下の行があるかを確認します。

   fjsvoast　9556/tcp　　#ListCreator

   ポート番号を変更する場合は、上記の「9556」の値を変更します。
   上記の行が存在しない場合は、ファイルに上記の行を追加し、ポート番号を設定してください。

4. 変更内容を保存（ファイルを更新）し、テキストエディタを終了します。

5. システムを再起動します。

● Windows の場合

1. コンピュータにログオンします。
   Administrators 権限を持つユーザーで、コンピュータにログオンしてください。

2. ［スタート］－［プログラム］－［List Creator］－［環境設定］－［動作環境設定］を選択します。
   ⇒環境設定画面が表示されます。

3. ［ネットワーク］タブを選択の、［ポート番号］を変更します。

4. 設定が完了したら、設定内容を保存します。環境設定画面の［OK］ボタンをクリックします。
   ⇒設定内容が保存されます。

5. システムの再起動を促すメッセージが出力される場合には、必ずシステムを再起動してください。

なお、NetBIOS のポート、および SMB プロトコルのポートは、アプリケーションサーバ（Windows）から帳票出力サーバ（Windows）への運用時だけ使用します。ポートの設定／変更はできません。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: コネクタ連携型の導入メリットや特長を教えてください。

A: コネクタ連携型は、帳票の生成処理を行うアプリケーションサーバと、帳票の出力処理を行う帳票出力サーバを別々のコンピュータで行い、アプリケーションサーバの負荷を分散する形態です。
コネクタ連携型では、帳票出力サーバで帳票を出力するだけでなく、生成した帳票（PDF ファイル、OWF ファイル、Excel ファイル、TIFF ファイル）をアプリケーションサーバ側に転送して保存したり、帳票出力サーバ側でそのまま保存したりできます。
コネクタ連携型の場合、アプリケーションサーバ側は低価格な Interstage List Creator Connector を導入いただけます。

これにより、リモート帳票出力型に比べ、低コストでの分散出力環境を構築することができます。
また、帳票出力サーバで生成した帳票（PDF ファイル、OWF ファイル、Excel ファイル、TIFF ファイル）を、アプリケーションサーバ（要求元）に戻すこともできますので、アプリケーションサーバの負荷を別サーバに分散でき、負荷のかからないアプリケーションサーバを構築することができます。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux

バージョン　　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: コネクタ連携時の同時に受信可能な接続数（最大同時接続許可数）を教えてください。

A: 最大同時接続許可数の初期値は 64 です。
これを超えた接続要求に対しては切断します。
なお、最大同時接続許可数は、環境設定ファイル（DaemonProperty ファイル）の transfer.maxReceiveConnection プロパティで設定／変更できます。
環境設定ファイル（DaemonProperty ファイル）は以下に格納されています。

- Windows の場合
  List Creator インストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥bin¥DaemonProperty ファイル
- Solaris/Linux の場合
  /etc/opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/bin/DaemonProperty ファイル

環境設定ファイル（DaemonProperty ファイル）において、最大同時接続許可数の上限値に制限はありませんが、同時に接続する数が増加した場合、出力時に必要な仮想メモリなどが増加するため、十分なマシンスペックが必要となります。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: コネクタ連携時、帳票出力サーバ側で出力される帳票（PDF ファイル／OWF ファイル／Excel ファイル）のアクセス権を教えてください。

A: 帳票出力サーバ側で出力される帳票（PDF ファイル／OWF ファイル／Excel ファイル）のアクセス権は以下のとおりです。

- Windows の場合
  PDF ファイル、OWF ファイル、または Excel ファイルが格納されるフォルダのアクセス権が引き継がれます。
- Solaris/Linux の場合
  owner:root、アクセス権は 644 となります。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: コネクタ連携時の接続タイムアウト時間を教えてください。

A: 接続タイムアウト時間の初期値は 60 秒です。
なお、接続タイムアウト時間は、環境設定ファイル（DaemonProperty ファイル）の transfer.bufferTimeout プロパティで設定／変更できます。環境設定ファイル（DaemonProperty ファイル）は以下に格納されています。

- Windows の場合
  List Creator インストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥bin¥DaemonProperty ファイル
- Solaris/Linux の場合
  /etc/opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/bin/DaemonProperty ファイル

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: コネクタ連携機能のサービスの起動および停止する場合の root ユーザーのログインシェルを教えてください。

A: Bourne シェルです。
コネクタ連携機能のサービスは、/etc/default/init ファイルに記述されている環境変数の値を使用して言語（ロケール）を決定し起動および停止しています。 /etc/default/init に環境変数 LC_ALL、LC_CTYPE、LANG が記述されている場合、コネクタ連携機能のサービスの起動および停止時の言語（ロケール）は以下の優先度で決定されます。
1. LC_ALL に設定された値
2. LC_CTYPE に設定された値
3. LANG に設定された値
4. 上記以外は言語環境が「C」になる

この時、su コマンドで root ユーザーに変更後、Bourne シェルの構文を使用して言語（ロケール）の設定を行っているため、root ユーザーのログインシェルは Bourne シェルである必要があります。

プラットフォーム : Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: シェルからコマンドを実行する場合の注意事項を教えてください。

A: シェルからコマンドを実行する場合は、Bourne シェルまたは C シェル上で実行してください。これ以外のシェル上で実行すると、コマンドオプションで指定する日本語が正しく解釈されず、正しく動作しない場合があります。

プラットフォーム : Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: コネクタ連携時、アプリケーションサーバ、および帳票出力サーバ以外の第 3 のコンピュータに、PDF ファイル形式や Excel ファイル形式の帳票を出力できますか？

A: できます。
帳票出力サーバが Windows の場合、帳票出力先（ファイル格納先）に UNC 指定（¥¥コンピュータ名¥共有名¥ディレクトリ名）することができます。
なお、コネクタ連携型で運用する場合、サービス「ListCREATOR RemotePrint」のログオンユーザーをローカルシステムアカウントから、Administrators 権限を持つユーザーに変更する必要があります。
以下に、Windows Server 2003 の場合を例に設定方法を説明します。

= 操作手順 =
1. ［スタート］－［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択します。
   ⇒サービス画面が表示されます。
2. 「ListCREATOR RemotePrint」を選択します。
3. ［操作］－［プロパティ］を選択します。
   ⇒「ListCREATOR RemotePrint」のプロパティ画面が表示されます。
4. ［ログオン］タブを選択します。
5. 「ログオン」で、「アカウント」を選択します。
6. 「アカウント」に、Administrators 権限を持つユーザを指定します。
7. 「パスワード」および「パスワードの確認入力」に、6.で指定したユーザのパスワードを入力します。
8. ［OK］ボタンをクリックします。
9. サービスの状態が「停止」の場合は、［操作］－［開始］を選択します。サービスの状態が「開始」の場合は、［操作］－［再起動］を選択します。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: コネクタ連携時、通信対象の帳票出力サーバのコンピュータ名に仮想 IP アドレスを指定できますか？

A: できます。
Interstage List Creator では、通信対象の帳票出力サーバのコンピュータ名に指定した IP アドレスが仮想 IP か物理 IP かを意識していません。
なお、仮想 IP アドレスを指定して帳票出力する場合は、負荷分散装置（IPCOM）の監視ポートを、Interstage List Creator で利用しているポートに設定する必要があります。

= 操作手順 =
IPCOM で負荷分散を行うには、IPCOM の設定を以下のようにしてください。
- ネットワーク構成：透過型配置
- セッション保証方式は、以下のどちらかを設定してください。
  - Cookie（Traffic Director）
  - Cookie（Servlet API 2.2）
- 監視レベル：レイヤ 4 レベル
- 監視ポート：3913

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: データ到着監視機能は何秒ごとにディレクトリの変化を検索しますか？

A: データ到着監視機能の監視間隔は 3 秒です。3 秒ごとに帳票出力サーバの特定のディレクトリ（監視ディレクトリ）の変化を検索します。
ただし、Interstage List Creator V9.0.0 以前をご使用の場合は、ある一定の時間間隔ではなく、帳票出力サーバの特定のディレクトリ（監視ディレクトリ）にデータファイルが到着するのを監視し、データファイルが到着したタイミングで出力処理を開始します。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: データ到着監視時、複数のデータファイルが到着していた場合、帳票出力を並列で処理する最大数を教えてください。

A: 帳票出力を並列で処理する最大数は 100 です。
ただし、初期値は 1 です。
この値は環境設定画面で変更することができます。

= 操作手順 =
1. コンピュータにログオンします。
   Administrators 権限を持つユーザーで、コンピュータにログオンしてください。
2. ［スタート］－［プログラム］－［List Creator］－［環境設定］－［動作環境設定］を選択します。
   ⇒［環境設定］画面が表示されます。
3. ［到着監視］タブの［最大並列処理数］に 1～100 の範囲で設定します。
4. 設定が完了したら、設定内容を保存します。［環境設定］画面の［OK］ボタンをクリックします。
   ⇒設定内容が保存されます。
5. システムの再起動を促すメッセージが出力される場合には、必ずシステムを再起動してください。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9

【技術サポート】

Q: データ到着監視時、帳票出力が異常終了した場合のデータファイルの扱いを教えてください。

A: データ到着監視機能では、帳票出力が異常終了した場合に、データファイルを削除するか、またはほかのディレクトリへ移動するかを指定することができます。

= 操作手順 =

1. コンピュータにログオンします。
   Administrators 権限を持つユーザーで、コンピュータにログオンしてください。
2. ［スタート］－［プログラム］－［List Creator］－［環境設定］－［動作環境設定］を選択します。
   ⇒［環境設定］画面が表示されます。
3. ［到着監視］タブの［帳票出力が異常終了したデータファイルの扱い］で、［削除する］、または［移動する］を選択します。
   ⇒［移動する］を選択した場合は、［移動先ディレクトリ］も指定します。
4. 設定が完了したら、設定内容を保存します。［環境設定］画面の［OK］ボタンをクリックします。
   ⇒設定内容が保存されます。
5. システムの再起動を促すメッセージが出力される場合には、必ずシステムを再起動してください。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: データ到着監視時、監視フォルダに複数のデータファイルが到着した場合、どのような出力順序で出力されますか？

A: データファイルが複数到着していた場合、ファイル名順に帳票出力処理を実行します。このとき、最大並列処理数の値で並列して帳票出力されます。
ただし、Interstage List Creator V9.0.0 以前をご使用の場合は、検知したデータファイルから 1 つずつ帳票を出力します。
なお、複数同時にファイルが送られた場合の出力に関しては、順序は保障されません。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: データ到着監視時、帳票が正常に出力されたか否かを判断する方法はありますか？

A: データ到着監視機能では、監査証跡ログに出力される情報から、帳票の出力が正常に終了したか否かを判断することができます。
監査証跡ログでは、1 行に以下の順序で、情報が出力されます。
「開始日時,終了日時,出力結果,ユーザー情報,出力方法,業務印刷番号,コメント,帳票名,改ざん防止情報 1,改ざん防止情報 2」

「出力結果」に、帳票出力時の結果が、以下の文字列で出力されます。

- Success
  正常に出力された場合に出力されます。
- Error
  出力時に異常が起きた場合に出力されます。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8

【技術サポート】

Q: データ到着監視時、推奨しているファイル転送ソフトはありますか？

A: 特にありません。どのファイル転送ソフトもご利用いただけます。
また、アプリケーションや FTP などのファイル転送コマンドによる転送ではなく、NFS や Windows のネットワークドライブなどの共有フォルダ経由で監視ディレクトリにデータファイルをコピーするような運用もできます。
ただし、NFS や Windows のネットワークドライブなどの共有フォルダ経由で監視ディレクトリにデータファイルをコピーするような運用の場合、以下の手順で監視ディレクトリにデータファイルをコピーしてください。以下の手順で運用しない場合、動作は保証されません。

= 操作手順 =

1. データファイルを環境設定の［到着監視］タブの「データファイルの拡張子」と異なる拡張子で作成します。
2. データファイルを「監視ディレクトリ」にコピーします。

3. 2.でコピーしたデータファイルの拡張子を環境設定の［到着監視］タブの「データファイルの拡張子」に変更します。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: データ到着監視時、使用できるプリンタを教えてください。

A: データ到着監視時は、以下の種類のプリンタを使用できます。

- ローカルプリンタ
- Interstage Print Manager で定義した高信頼プリンタ

リモートプリンタ、および、Interstage Print Manager で定義した高信頼リモートプリンタはご使用いただけませんので、ご注意ください。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator の環境設定画面で、［作業用ディレクトリ］と［監視ディレクトリ］に、同じディレクトリを指定してもよいですか？

A: 指定しないでください。
［作業用ディレクトリ］と［監視ディレクトリ］に同じディレクトリを指定すると、正常に動作しない場合があります。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: データ到着監視時の帳票を出力するユーザーを教えてください。

A: サービス「ListCREATOR Service」のログオンユーザーです。
帳票出力時のユーザーを指定することはできません。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: データ到着監視時、監視ディレクトリにネットワークドライブを指定することはできますか？

A: 監視ディレクトリに指定できるのは、ローカルコンピュータの固定ドライブ配下のディレクトリだけです。環境設定画面で［監視ディレクトリ］にローカルコンピュータの固定ドライブ配下のディレクトリ以外を指定した場合、［OK］ボタンをクリックするとエラーになります。
固定ドライブに該当しないのは以下のデバイスに相当します。

- リムーバブルメディア
- ネットワークドライブ
- CD-ROM ドライブ
- RAM ディスク
- ドライブの種類が特定できないドライブ

また、UNC 指定はできませんので、ご注意ください。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票の出力時に、いつ、だれが、どの帳票を、どのように出力したかなど、帳票出力に関する情報を知る方法はありますか？

A: あります。

Interstage List Creator では、帳票の出力時に、いつ、だれが、どの帳票を、どのように出力したかなどの帳票出力に関する情報を監査証跡ログに出力することができます。
監査証跡ログは、帳票出力サーバの監査証跡ログファイルに出力されます。
この機能によって、帳票出力時の不正操作の監視やトラブル発生時の追跡調査もできます。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8

【技術サポート】

Q: 監査証跡ログに出力される情報を教えてください。

A: 監査証跡ログに出力される情報は、以下のとおりです。

1 行に以下の順序で、情報が出力されます。
「開始日時,終了日時,出力結果,ユーザー情報,出力方法,業務印刷番号,コメント,帳票名,改ざん防止情報 1,改ざん防止情報 2」

なお、監査証跡ログに出力される情報の取得に失敗した場合は、データが出力されていない空の状態で監査証跡ログファイルが出力されますので、ご注意ください。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8

【技術サポート】

Q: Web ブラウザ上で帳票出力できますか？

A: できます。

Web 手元印刷機能を使用し、帳票を Web ブラウザ上でプレビューしたり、Web ブラウザを通してクライアント側のプリンタに印刷することができます。
Web 手元印刷機能は、Web サーバ上で管理されている帳票資源をクライアントにダウンロードし、クライアントの Web ブラウザ上で帳票のプレビューや印刷を行うための機能です。帳票資源をセンターで一括管理し、必要に応じ拠点で印刷するというような業務に利用できます。
Web 手元印刷機能には、以下の形態があります。

- PDF データ出力型
  Web 手元印刷型で PDF データを出力する場合の運用形態です。不特定多数の Web クライアントからの参照や手元プリンタへの印刷を行う運用に適しています。
- Web アプリケーション連携型（OWF ファイル出力型）
  帳票定義情報および入力データを使用して、帳票出力サーバ上で OWF ファイルを生成し、Web プラグインを利用して、帳票を Web ブラウザ上でプレビューしたり、Web クライアント側のプリンタに印刷したりする形態です。アプリケーションへの組み込み、プレプリント用紙への印刷、および大量印刷に適しています。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Web 手元印刷機能使用時、Web クライアント側で使用できる Web ブラウザを教えてください。

A: Web クライアント側で使用できる Web ブラウザは、Internet Explorer 6.0 以降です。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Web 手元印刷機能使用時、Web クライアント側でサポートしている出力方法を教えてください。

A: Web クライアント側では、帳票のプレビュー、PDF ファイルの参照、および印刷が行えます。

- PDF データ出力型
  - 印刷
  - PDF ファイルの参照
- Web アプリケーション連携型（OWF ファイル出力型）
  - 印刷
  - プレビュー

なお、Web クライアント側で電子保存や PDF ファイル出力、Excel ファイル出力など、印刷以外の出力はできません。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Web アプリケーション連携機能使用時、Web プラグインのインストール方法を教えてください。

A: Web プラグインのインストールは、次の手順で行います。

= 操作手順 =

1. Web プラグインのインストールコマンド（f3gxplg.exe）を実行します。
   Web プラグインのインストールコマンドは、Interstage List Creator の製品媒体（CD-ROM）内の plugin 配下に格納されています。
2. 画面に表示される指示にしたがってインストールを進めます。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Web アプリケーション連携機能使用時、Web プラグインのアンインストール方法を教えてください。

A: Web プラグインのアンインストールは、次の手順で行います。

= 操作手順 =

1. Web ブラウザがすべて終了していることを確認します。
2. ［コントロール パネル］の［アプリケーションの追加と削除］アイコンをダブルクリックします。
3. 「OWF Web プラグイン」を選択し、［追加と削除］ボタンをクリックします。
4. 画面に表示される指示にしたがってアンインストールを進めます。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Web アプリケーション連携機能使用時、ダウンロードした OWF ファイルは、Web ブラウザの一時ファイル（キャッシュ）に蓄積されますか？

A: 一般的なサイトや画像ファイルと同様に、OWF ファイルも一時ファイル（キャッシュ）に蓄積されます。一時ファイル（キャッシュ）を削除したい場合は、Web ブラウザの設定から削除してください。
なお、一時ファイル（キャッシュ）に、以前の OWF ファイルの情報が残っていることが原因で、帳票が正しく出力されない場合があります。
この場合、一時ファイル（キャッシュ）が常に最新の情報になるようにブラウザを設定するか、または一時ファイル（キャッシュ）を削除した上で帳票出力してください。
Web ブラウザが Internet Explorer 6.0 の場合を例に説明します。6.0 以外のバージョンの Internet Explorer を使用している場合は、マイクロソフト社サポート窓口（マイクロソフト　サポート　オンライン）などで手順をご確認ください。

- 常に最新の情報になるように設定する場合
  1. Internet Explorer を起動します。
  2. ［ツール］メニューから「インターネットオプション」を選択し、［全般］ – ［インターネット一時ファイル］セクションの［設定］ボタンをクリックします。
  3. 「保持しているページの新しいバージョンの確認」に「ページを表示するごとに確認する」を設定します。

- キャッシュの削除を行う場合
  1. Internet Explorer を起動します。
  2. ［ツール］メニューから「インターネットオプション」を選択します。
  3. ［全般］ – ［インターネット一時ファイル］セクションの［ファイルの削除］ボタンをクリックします。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Web アプリケーション連携機能使用時、Web クライアントから連続印刷した場合、印刷実行の順番で帳票出力されますか？

A: 印刷実行の順番で帳票出力されるとは限りません。スプールされた帳票から順に出力されます。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Web アプリケーション連携機能使用時、ユーザアプリケーションが OWF ファイルの総ページ数を取得する方法はありますか？

A: ありません。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Web アプリケーション連携機能使用時、帳票出力サーバ（Interstage List Creator）と Web クライアント（Interstage List Creator Web プラグイン）のバージョンを揃える必要はありますか？

A: Interstage List Creator では、帳票出力サーバ（Interstage List Creator）と Web クライアント（Interstage List Creator Web プラグイン）のバージョンを揃えることを推奨しています。
ただし、システムの移行期間中に限り、以下の機能範囲での動作を保証します。同一バージョンになるよう速やかに移行してください。

- 帳票出力サーバ（Interstage List Creator）のバージョンが、Web クライアント（Interstage List Creator Web プラグイン）のバージョンよりも新しい場合
  使用できる機能は、Web クライアント（Interstage List Creator Web プラグイン）のバージョンが保障する機能範囲になります。
- Web クライアント（Interstage List Creator Web プラグイン）のバージョンが、帳票出力サーバ（Interstage List Creator）のバージョンよりも新しい場合
  使用できる機能は、帳票出力サーバ（Interstage List Creator）のバージョンが保障する機能範囲になります。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Java インターフェースを使用したサンプルプログラムはありませんか？

A: あります。

Interstage List Creator では、Java インターフェースを使用した以下のサンプルプログラムを提供しています。

- スタンドアロン型のサンプルプログラム（出力方法：印刷）
- スタンドアロン型のサンプルプログラム（出力方法：PDF ファイル保存）
- スタンドアロン型のサンプルプログラム（出力方法：OWF ファイル生成）
- コネクタ連携型のサンプルプログラム

Java インターフェースを使用したサンプルプログラムは、以下のフォルダに格納されています。
また、サンプルプログラムの使用手順については、以下のフォルダ内の「javasample.txt」を参照してください。

- 【Windows 版】を使用する場合
  List Creator インストールディレクトリ¥inetpub¥prgsample¥java
- 【Linux 版/Solaris 版】を EUC 環境で使用する場合
  /opt/FJSVoast/inetpub/prgsample/java/euc
- 【Solaris 版】を Shift-JIS 環境で使用する場合
  /opt/FJSVoast/inetpub/prgsample/java/sjis

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票出力時、スプール完了後も、帳票の出力完了、またはスプールドキュメント削除／保留などの状態になるまでコマンドの終了を待ち合わせることはできますか？

A: できます。

Interstage List Creator では、帳票出力時に、「出力完了待ち合わせモード」を指定することができます。
「出力完了待ち合わせモード」を指定すると、スプール完了後も以下のいずれかの状態になるまでコマンドの終了を待ち合わせることができます。

- 帳票の出力完了
- スプールドキュメント削除
- スプールドキュメント保留
- エラー発生

なお、「出力完了待ち合わせモード」の指定は、出力装置に Interstage Print Manager で定義したプリンタを利用する場合にだけ有効となります。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator をインストールしているコンピュータの IP アドレス、コンピュータ名を変更した場合、何か対処する必要がありますか？（Windows の場合）

A: コンピュータ名／IP アドレスを変更する際の対処方法は次のとおりです。

- コンピュータ名と TCP ホスト名を合わせてください。
- Interstage List Creator でのコンピュータ名の指定を、新しいコンピュータ名および IP アドレスに変更してください。

また、使用している機能によって、以下の設定が必要です。

- コネクタ連携機能またはリモート帳票出力機能を使用している場合
  帳票出力サーバが変更となった場合、アプリケーションでの通信対象コンピュータ名の指定を変更してください。
- コネクタ連携機能を使用している場合
  アプリケーションサーバ、帳票出力サーバともに再度セットアップしてください。
- PDF ファイルメール配信機能を使用している場合
  PDF メール環境設定ファイルの MLF_SMTPServerAddress を再設定してください。設定変更後メール配信サービス（デーモン）の再起動をしてください。
- 帳票 Web サービス機能を使用している場合
  帳票 Web サービスが動作するサーバとは別のコンピュータにアプリケーションを配置する場合は、WSDL ドキュメント（LCWebSvc.wsdl）に記述されたサーバ名（IP アドレス、または FQDN）を再設定してください。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator をインストールしているコンピュータの IP アドレス、コンピュータ名を変更した場合、何か対処する必要がありますか？（Solaris、Linux の場合）

A: コンピュータ名／IP アドレスを変更する際の対処方法は次のとおりです。

- /etc/hosts に新しいホスト名と IP アドレスを追加してください。
- Interstage List Creator でのコンピュータ名の指定を、新しいホスト名および IP アドレスに変更してください。

また、使用している機能によって、以下の設定が必要です。

- コネクタ連携機能またはリモート帳票出力機能を使用している場合
  帳票出力サーバが変更となった場合、アプリケーションでの通信対象コンピュータ名の指定を変更してください。
- コネクタ連携機能を使用している場合
  アプリケーションサーバ、帳票出力サーバともに再度セットアップしてください。
- PDF ファイルメール配信機能を使用している場合
  PDF メール環境設定ファイルの MLF_SMTPServerAddress を再設定してください。設定変更後メール配信サービス（デーモン）の再起動をしてください。
- 帳票 Web サービス機能を使用している場合
  帳票 Web サービスが動作するサーバとは別のコンピュータにアプリケーションを配置する場合は、WSDL ドキュメント（LCWebSvc.wsdl）に記述されたサーバ名（IP アドレス、または FQDN）を再設定してください。

プラットフォーム　: Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 1 つのコンピュータに、帳票出力サーバ製品（Interstage List Creator Enterprise Edition、または Interstage List Creator Standard Edition）と、Web クライアント製品（Interstage List Creator Web プラグイン）をインストール（同梱）できますか？

A: できます。

帳票出力サーバ製品（Interstage List Creator Enterprise Edition、または Interstage List Creator Standard Edition）と、Web クライアント製品（Interstage List Creator Web プラグイン）に依存関係はありませんので、同梱した環境でも問題なく運用できます。
また、どちらを先にアンインストール・インストールしていただいても構いません。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: COBOL アプリケーション連携機能で使用できる帳票（帳票定義情報）を教えてください。

A: COBOL アプリケーション連携機能では、FORM または NetCOBOL で設計した帳票定義体、画面帳票定義体、およびオーバレイ定義体を使用することができます。

- 帳票定義体
  - 帳票名.pmd
  - 帳票名.psf
- 画面帳票定義体
  - 帳票名.smd
- オーバレイ定義体
  - 帳票名.ovd

なお、Interstage List Creator で設計した帳票は使用できませんので、ご注意ください。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9

【技術サポート】

Q: サイレントインストールできますか？

A: できます。
インストール方法については製品媒体に格納されているソフトウェア説明書（readme.txt）をご覧ください。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Windows 版　Interstage List Creator のインストール方法を教えてください。

A: インストール方法については、製品媒体に格納されているソフトウェア説明書（readme.txt）をご覧ください。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Solaris 版　Interstage List Creator のインストール方法を教えてください。

A: インストール方法については、製品に添付されているインストールガイドをご覧ください。

プラットフォーム　: Solaris
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Linux 版　Interstage List Creator のインストール方法を教えてください。

A: インストール方法については、製品に添付されているソフトウェア説明書をご覧ください。
なお、文字コードに合わせて以下 3 種類のソフトウェア説明書を用意しています。環境変数 LANG に指定されている文字コード系に合わせてご覧ください。

- readme.txt
- readme.euc
- readme.sjis

プラットフォーム　: Linux

バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 製品媒体からのインストールではなく、インストール済みのコンピュータからドライブごとコピーした環境で運用することはできますか？

A: インストール済みのコンピュータからドライブごとコピーした環境での運用はサポートしておりません。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: トレースログの格納ディレクトリを変更できますか？

A: トレースログの格納ディレクトリを変更することはできません。
なお、トレースログは、トラブル発生時に当社技術員が確認するためのログであり、トレースログの内容を確認することはできません。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 帳票出力時、作成される一時ファイル、または不要ファイル（エラー時に残るファイル）を教えてください。（Windows 版）

A: 帳票出力時に作成される一時ファイル、または不要ファイル（エラー時に残るファイル）は以下のとおりです。

- 作業用ファイル
  出力先：インストールディレクトリ¥Temp（*）
  ⇒自動削除（正常時、エラー時にかかわらず）

- トレースログ（固定）
  出力先：インストールディレクトリ¥Trace
  ⇒環境設定により採取する、しないを選ぶことができます。
  これは保守用のログファイルですので、トラブル発生時には必ず必要となるため、『採取する』を設定してください。

- 入力データ
  出力先：インストールディレクトリ¥Temp（*）
  ⇒環境設定により、採取する、しないを選ぶことができます。
  入力データに関するトラブルが発生した場合、退避した入力データから調査する際に活用されます。不要な場合は、『採取しない』を設定してください。インストール直後の入力データの退避動作設定は『採取しない』です。
  （*）デフォルトでの設定（Interstage List Creator の環境設定画面で変更可能）

- 監査証跡ログ
  出力先：環境設定ファイル（インストールディレクトリ¥conf¥lc_env.conf）の OutputLogDir キーで指定したディレクトリ
  ⇒環境設定ファイルの OutputLog キーにより、採取する、しないを指定することができます。帳票出力時の不正操作の監視やトラブル発生時の追跡調査に活用されます。不要な場合は、『採取しない』を設定してください。
  インストール直後の監査証跡ログ設定は『採取しない』、出力先は『インストールディレクトリ¥seclog』です。

- 一時ファイル
  ＜PDF メール配信を行う場合＞
  出力先：インストールディレクトリ¥mailqueue 配下
  ⇒正常時は、一時ファイルは自動削除されますが、エラー時には一時ファイルが残ります。メールの宛先が誤っている場合には、不要ファイルが残り、ファイルの削除が必要となります。
  それ以外のエラーの場合、エラー要因が解除された場合には、メール配信処理が再度自動発行されるため、一時ファイルは結果的に残りません。

  ＜コネクタ連携機能を使用する場合＞
  出力先：インストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥data¥ListCREATOR
  ⇒帳票出力サーバ側に作成されます。

  帳票、データ、またはファイルの転送中に通信エラーなどが発生した場合は、帳票出力サーバに転送途中のファイルが残ります。このファイルは、24 時間後に削除されます。
  （上記ディレクトリには一時的に転送された帳票などを格納しておくため、十分な空き容量を確保してください。）

プラットフォーム　: Windows
バージョン　　: V9　V8　V7　V6

【技術サポート】

Q: アプリケーションサーバ側で出力されるログファイルごとのサイズの詳細を教えてください。（Windows 版）

A: アプリケーションサーバ（Windows 版）側のログファイルサイズの詳細は以下のとおりです。

《トレースログ》

- インストールディレクトリ¥Trace
  - ファイル名：f3gbobsc.log
    環境設定画面でファイルサイズ（64 ～ 99999KB）を指定できます。
  - ファイル名の形式：f3gbobscAuto*.log
    環境設定画面で自動ログ退避を設定した場合、退避ファイル数分作成されます。
    ファイルサイズ（64 ～ 99999KB）は環境設定画面で指定されたサイズになります。
    退避ファイルは実際にログが退避されるまでは「f3gbobscDummy*.log」という名前です。
  - f3gbmiss.log
    サイズは 1024KB 固定です。

このため、必要なディスクサイズは以下となります。
　環境設定画面で指定したファイルサイズ×（退避ファイル数＋ 1） ＋ 1024KB

《コネクタ連携時のログ》

コネクタ連携機能を使用する場合、以下のログファイルも作成されます。

- インストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥data¥work 配下
  - ファイル名の形式：trace.log, trace.log.X
    1 ファイル当たり最大 10MB で、バックアップとして 7 ファイルが保持されるため、必要なディスクサイズは最大 90MB 程度となります。
  - ファイル名：DaemonError.log
    正常運用時はログ出力されません。（エラー時だけログされます。）
    ファイルサイズの MAX 値はなく、サイクリックログではありません。
- インストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥data¥ardus 配下
  - ファイル名の形式：ardusrecord.log, ardusrecord.log.X
    1 ファイル当たり最大 10MB で、バックアップとして 7 ファイルが保持されるため、必要なディスクサイズは最大 80MB 程度となります。
- インストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥log 配下
  - ファイル名の形式：dlvYYYYMMDD.log, dmnYYYYMMDD.log, errYYYYMMDD.log, jobYYYYMMDD.log
    1 日あたりに実行されるジョブ数、および運用形態によって変わります。
    基本的な運用形態（帳票資源およびデータを転送し、PDF／OWF／Excel ファイルをアプリケーションサーバに戻す運用）の場合、1 回のジョブで約 1～1.5 KB 程度のログが出力されます。
    また、本ログファイルは 14 日間保持され、それより古いものは削除されます。
    よって、次の式で必要なおおよそのディスクサイズが算出できます。

      1.5 KB × 一日のジョブ数 × 14

ディスクが圧迫され、上記ログファイルを一旦削除するような場合には、以下の手順にしたがってログファイルを削除してください。
ここでは、アプリケーションサーバが Windows Server 2003 の場合の操作手順について説明します。

＜削除手順＞

1. Administrators 権限を持つユーザで、コンピュータにログオンしてください。
2. 実行中のアプリケーションがすべて停止しているか確認してください。
3. コネクタ連携機能のサービスを停止させます。
   I. ［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、サービス「ListCREATOR Connector」を停止します。
   II. ［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、サービス「ListCREATOR RemotePrint」を停止します。
4. ログファイルを削除する
5. コネクタ連携機能サービスを起動させる

I. ［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、サービス「ListCREATOR RemotePrint」を開始します。
II. ［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、サービス「ListCREATOR Connector」を開始します。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 帳票出力時の入力データを退避する機能を使用した場合、退避した入力データを二次活用できますか？

A: 二次活用できません。
退避した入力データは、入力データに関するトラブルが発生した場合に、退避した入力データから、トラブルを迅速に解決するための調査用の資料です。
このため、退避した入力データを二次活用することはできません。

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9

【技術サポート】

Q: Windows 版 Interstage List Creator のサービス、および Windows 版 Interstage List Creator が動作する上で必要な OS のサービスを教えてください。

A: Windows 版 Interstage List Creator のサービス、および Windows 版 Interstage List Creator が動作する上で必要な OS のサービスは以下のとおりです。

＜Interstage List Creator のサービス＞
- サービス名：ListCREATOR Service
  起動プログラム名：List Creator インストール先¥f3gbsrv.exe
  ⇒Java インターフェース、リモート帳票出力機能、仕分け機能、イベント通知機能、到着監視機能使用時に必要なサービス
  ※システム起動時に List Creator が使用する共用メモリを獲得しますので、システム起動時には 1 度は起動する必要があります。
  監視対象とする必要は特にありませんが、システム起動時に最初から起動しないというような状態にはしないでください。
- サービス名：ListCREATOR Log Service
  起動プログラム名：List Creator インストール先¥f3gbsvlg.exe
  ⇒ListCREATOR のログサービス
  ※トラブル発生時の調査用ログのサービスですので、絶対に停止させないでください。
- サービス名：ListCREATOR RemotePrint
  起動プログラム名：List Creator インストール先¥remoteprint¥daemon¥bin¥f3gbrjdw.exe
  ⇒コネクタ連携時に必要なサービス
- サービス名：ListCREATOR Connector
  起動プログラム名：List Creator インストール先¥f3gbconc.exe
  ⇒コネクタ連携時に必要なサービス（アプリケーションサーバ側のみ）
- サービス名：ListCREATOR SendMaild Service
  起動プログラム名：List Creator インストール先¥swmaild.exe
  ⇒PDF メール配信時に必要なサービス

＜List Creator が動作する上で必要な OS のサービス（印刷時）＞
- サービス名：Spooler、または、Print Spooler

なお、使用しない機能のサービスは停止していただいても問題ありません。また、Interstage List Creator はサービス間に依存関係はありません。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: Interstage List Creator は、Java 暗号化拡張機能（JCE：Java Cryptography Extension）を使用していますか？

A: Interstage List Creator は JCE を使用しておりません。したがって、JCE の証明書の期限切れなどによる影響はありません。

プラットフォーム　：Windows　Solaris　Linux
バージョン　：V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: アプリケーションサーバ側で出力されるログファイルごとのサイズの詳細を教えてください。（Solaris 版／Linux 版）

A: アプリケーションサーバ（Solaris 版/Linux 版）側のログファイルサイズの詳細は以下のとおりです。

《トレースログ》

- /var/opt/FJSVoast/log 配下
  - ファイル名：trslog
    環境設定コマンド（prsetlog コマンド）でファイルサイズ（64 ～ 99999KB）を指定できます。
  - ファイル名：f3gbmiss.log
    ファイルサイズは 1024KB 固定です。

このため、必要なディスクサイズは以下となります。
環境設定コマンドで指定したファイルサイズ + 1024KB

《コネクタ連携時のログ》
コネクタ連携機能を使用する場合、以下のログファイルも作成されます。

- /var/opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/data/work 配下
  - ファイル名の形式：trace.log, trace.log.X
    1 ファイル当たり最大 10MB で、バックアップとして 7 ファイルが保持されるため、必要なディスクサイズは最大 90MB 程度となります。
  - ファイル名：DaemonError.log
    正常運用時はログ出力されません。（エラー時だけログされます。）
    ファイルサイズの MAX 値はなく、サイクリックログではありません。

- /var/opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/data/ardus 配下
  - ファイル名の形式：ardusrecord.log, ardusrecord.log.X
    1 ファイル当たり最大 10MB で、バックアップとして 7 ファイルが保持されるため、必要なディスクサイズは最大 80MB 程度となります。

- /var/opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/log 配下
  - ファイル名の形式：dlvYYYYMMDD.log, dmnYYYYMMDD.log, errYYYYMMDD.log, jobYYYYMMDD.log
    1 日あたりに実行されるジョブ数、および運用形態によって変わります。
    基本的な運用形態（帳票資源およびデータを転送し、PDF／OWF／Excel ファイルをアプリケーションサーバに戻す運用）の場合、1 回のジョブで約 1～1.5 KB 程度のログが出力されます。
    また、本ログファイルは 14 日間保持され、それより古いものは削除されます。
    よって、次の式で必要なおおよそのディスクサイズが算出できます。
    1.5 KB × 一日のジョブ数 × 14

ディスクが圧迫され、上記ログファイルを一旦一度削除するような場合には、以下の手順に従ってログファイルを削除してください。

＜削除手順＞
1. 事前に実行中のアプリケーションがすべて停止しているか確認してください。
2. root 権限のあるユーザーになります。
3. コネクタ連携機能のサービスを停止させます。

/opt/FJSVoast/etc/rc.d/FJSVoastrmpr stop
4. ログファイルを削除してください。
5. コネクタ連携機能サービスを起動させてください。
/opt/FJSVoast/etc/rc.d/FJSVoastrmpr start

プラットフォーム　: Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 帳票出力サーバ側で出力されるログファイルごとのサイズの詳細を教えてください。（Windows 版）

A: 帳票出力サーバ（Windows 版）側のログファイルサイズの詳細は以下のとおりです。

《トレースログ》

- インストールディレクトリ¥Trace
  - ファイル名：f3gbobsc.log
    環境設定画面でファイルサイズ（64 ～ 99999KB）を指定できます。
  - ファイル名の形式：f3gbobscAuto*.log
    環境設定画面で自動ログ退避を設定した場合、退避ファイル数分作成されます。
    ファイルサイズ（64 ～ 99999KB）は環境設定画面で指定されたサイズになります。
    退避ファイルは実際にログが退避されるまでは「f3gbobscDummy*.log」という名前です。
  - f3gbmeft.log
    環境設定画面でファイルサイズ（64 ～ 99999KB）を指定できます。
  - f3gbmeftAuto*.log
    環境設定画面で自動ログ退避を設定した場合、退避ファイル数分作成されます。
    ファイルサイズ（64 ～ 99999KB）は環境設定画面で指定されたサイズになります。
    退避ファイルは実際にログが退避されるまでは「f3gbmeftDummy*.log」という名前です。

    また、格納ディレクトリには、以下のログファイルも作成されます。
  - f3gbmiss.log
    サイズは 1024KB 固定です。

このため、必要なディスクサイズは以下となります。
　環境設定画面で指定したファイルサイズ×（退避ファイル数＋ 1）× 2 ＋ 1024KB

《コネクタ連携時のログ》

コネクタ連携機能を使用する場合、以下のログファイルも作成されます。

- インストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥data¥work 配下
  - ファイル名の形式：trace.log, trace.log.X
    1 ファイル当たり最大 10MB で、バックアップとして 7 ファイルが保持されるため、必要なディスクサイズは最大 90MB 程度となります。
  - ファイル名：DaemonError.log
    正常運用時はログ出力されません。（エラー時だけログされます。）
    ファイルサイズの MAX 値はなく、サイクリックログではありません。
- インストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥data¥ardus 配下
  - ファイル名の形式：ardusrecord.log, ardusrecord.log.X
    1 ファイル当たり最大 10MB で、バックアップとして 7 ファイルが保持されるため、必要なディスクサイズは最大 80MB 程度となります。
- インストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥log 配下
  - ファイル名の形式：dlvYYYYMMDD.log, dmnYYYYMMDD.log, errYYYYMMDD.log, jobYYYYMMDD.log
    1 日あたりに実行されるジョブ数、および運用形態によって変わります。
    基本的な運用形態（帳票資源およびデータを転送し、PDF／OWF／Excel ファイルをアプリケーションサーバに戻す運用）の場合、1 回のジョブで約 1～1.5 KB 程度のログが出力されます。
    また、本ログファイルは 14 日間保持され、それより古いものは削除されます。

    よって、次の式で必要なおおよそのディスクサイズが算出できます。
    　1.5 KB × 一日のジョブ数 × 14

ディスクが圧迫され、上記ログファイルを一度削除するような場合には、以下の手順に従ってログファイルを削除してください。
ここでは、アプリケーションサーバが Windows Server 2003 の場合の操作手順について説明します。

＜削除手順＞

1. Administrators 権限を持つユーザーで、コンピュータにログオンしてください。
2. 実行中のアプリケーションがすべて停止しているか確認してください。
3. コネクタ連携機能のサービスを停止させます。
   I. ［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、サービス「ListCREATOR Connector」を停止します。
   II. ［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、サービス「ListCREATOR RemotePrint」を停止します。
4. ログファイルを削除します。
5. コネクタ連携機能サービスを起動させます。
   I. ［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、サービス「ListCREATOR RemotePrint」を開始します。
   II. ［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、サービス「ListCREATOR Connector」を開始します。

《監査証跡ログ》

監査証跡ログ機能を使用する場合、以下のファイルも作成されます。

- インストールディレクトリ¥seclog
  - ファイル名の形式：lc_outputYYYYMMDD.log
    環境設定ファイルでファイルサイズ（1 ～ 2048MB）を指定できます。
    また、環境設定ファイルでは以下の設定も行えます。
    - 監査証跡ログファイルの格納ディレクトリ
    - 監査証跡ログファイルを保管する日数

ディスクが圧迫され、上記ログファイルを一度削除するような場合には、以下のコマンドを使用してください。

- lclogdelexpire コマンド

プラットフォーム　：Windows
バージョン　　：V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 帳票出力サーバ側で出力されるログファイルごとのサイズの詳細を教えてください。（Solaris 版／Linux 版）

A: 帳票出力サーバ（Solaris 版/Linux 版）側のログファイルサイズの詳細は以下のとおりです。

《トレースログ》

- /var/opt/FJSVoast/log 配下
  - ファイル名：trslog
    環境設定コマンド（prsetlog コマンド）でファイルサイズ（64 ～ 99999KB）を指定できます。
  - ファイル名：f3gbmeft.log
    環境設定コマンド（prsetlog コマンド）でファイルサイズ（64 ～ 99999KB）を指定できます。
  - ファイル名：f3gbmiss.log
    ファイルサイズは 1024KB 固定です。

このため、必要なディスクサイズは以下となります。
（環境設定コマンドで指定したファイルサイズ × 2） + 1024KB

《コネクタ連携時のログ》

コネクタ連携機能を使用する場合、以下のログファイルも作成されます。

- /var/opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/data/work 配下
  - ファイル名の形式：trace.log, trace.log.X
    1 ファイル当たり最大 10MB で、バックアップとして 7 ファイルが保持されるため、必要なディスクサイズは最大 90MB 程度となります。
  - ファイル名：DaemonError.log

正常運用時はログ出力されません。（エラー時だけログされます。）
ファイルサイズの MAX 値はなく、サイクリックログではありません。

- /var/opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/data/ardus 配下
  - ファイル名の形式：ardusrecord.log, ardusrecord.log.X
    1 ファイル当たり最大 10MB で、バックアップとして 7 ファイルが保持されるため、必要なディスクサイズは最大 80MB 程度となります。
- /var/opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/log 配下
  - ファイル名の形式：dlvYYYYMMDD.log, dmnYYYYMMDD.log, errYYYYMMDD.log, jobYYYYMMDD.log
    1 日あたりに実行されるジョブ数、および運用形態によって変わります。
    基本的な運用形態（帳票資源およびデータを転送し、PDF／OWF／Excel ファイルをアプリケーションサーバに戻す運用）の場合、1 回のジョブで約 1～1.5 KB 程度のログが出力されます。
    また、本ログファイルは 14 日間保持され、それより古いものは削除されます。

    よって、次の式で必要なおおよそのディスクサイズが算出できます。
    1.5 KB × 一日のジョブ数 × 14

ディスクが圧迫され、上記ログファイルを一度削除するような場合には、以下の手順に従ってログファイルを削除してください。

＜削除手順＞

1. 事前に実行中のアプリケーションがすべて停止しているか確認してください。
2. root 権限のあるユーザーになります。
3. コネクタ連携機能のサービスを停止させます。
   # /opt/FJSVoast/etc/rc.d/FJSVoastrmpr stop
4. ログファイルを削除します。
5. コネクタ連携機能サービスを起動させます。
   # /opt/FJSVoast/etc/rc.d/FJSVoastrmpr start

《監査証跡ログ》

監査証跡ログ機能を使用する場合、以下のファイルも作成されます。

- /var/opt/FJSVoast/seclog
  - ファイル名の形式：lc_outputYYYYMMDD.log
    環境設定ファイルでファイルサイズ（1 ～ 2048MB）を指定できます。

    また、環境設定ファイルでは以下の設定も行えます。
    - ・監査証跡ログファイルの格納ディレクトリ
    - 監査証跡ログファイルを保管する日数

ディスクが圧迫され、上記ログファイルを一度削除するような場合には、以下のコマンドを使用してください。

- lclogdelexpire コマンド

プラットフォーム　：Solaris　Linux
バージョン　　：V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: サンプル帳票はありますか？

A: Interstage List Creator を使用して帳票を出力する以下のサンプル帳票を用意しています。

- **Windows**
  - データファイルを使用する場合［可変長／固定長／CSV 形式／XML 形式］
    ※詳しくは、製品インストールディレクトリ配下のサンプル説明書（SampleFm.txt、SampleXm.txt）をご覧ください。
  - フリーフレーム形式を使用する場合
    ※詳しくは、製品インストールディレクトリ配下のサンプル説明書（PRsample.pdf）をご覧ください。
- **Solaris**
  - データファイルを使用する場合［可変長／固定長／CSV 形式］
    ※詳しくは、/opt/FJSVoast/samples 配下のサンプル説明書（Sample_euc.txt、Sample_utf8.txt、Sample_sjis.txt、Sample_eng.txt）をご覧ください。
  - データファイルを使用する場合［XML 形式］
    ※詳しくは、/opt/FJSVoast/samples.xml 配下のサンプル説明書（SampleXm_euc.txt、SampleXm_utf8.txt、

SampleXm_sjis.txt）をご覧ください。

- **Linux**
  - データファイルを使用する場合［可変長／固定長／CSV 形式］
    ※ 詳しくは、/opt/FJSVoast/samples 配下のサンプル説明書（Sample_euc.txt、Sample_utf8.txt、Sample_eng.txt）をご覧ください。
  - データファイルを使用する場合［XML 形式］
    ※詳しくは、/opt/FJSVoast/samples.xml 配下のサンプル説明書（SampleXm_euc.txt、SampleXm_utf8.txt）をご覧ください。

プラットフォーム　: Windows Solaris Linux
バージョン　: V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 画面（GUI）から帳票出力できますか？

A: できます。
Interstage List Creator では、prprint コマンドの一部のオプション（出力属性）を、画面を使って指定できるツール「帳票出力ユーティリティ」を用意しています。
画面で指定した出力属性情報に従い、prprint コマンドのコマンドラインを自動生成し、そのまま帳票を出力できます。
画面（GUI）ベースの操作で帳票出力を実行できるため、簡単に帳票出力できます。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9

【技術サポート】

Q: 帳票出力ユーティリティのサポート範囲を教えてください。

A: 帳票出力ユーティリティは、【Windows 版】の以下の製品種別の場合に使用できます。

- List Creator Enterprise Edition
- List Creator Standard Edition
- List Creator Workstation

また、帳票出力ユーティリティは、以下のサポート範囲となります。

- 運用形態：スタンドアロン型のみ
- 出力方法：印刷のみ

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V9

【技術サポート】

Q: 帳票出力ユーティリティ画面の指定内容を保存できますか？

A: できます。
帳票出力ユーティリティ画面の指定内容をもとに生成された prprint コマンドのコマンドラインを「設定ファイル」に保存することができます。
「設定ファイル」は、以下のように、帳票出力の指定時に利用できます。

- 雛型（初期値）の設定ファイルとして利用する
  帳票出力時に設定ファイルの内容を読み込み、必要箇所だけを変更して帳票出力できます。
- 画面で指定できない属性情報をファイルに直接指定する
  設定ファイルに prprint コマンドのオプションを直接指定することができます。
  直接ファイルに追記したオプションは、帳票出力時や設定ファイルの保存時にそのまま引き継がれます。
  したがって、画面上に表示されていない属性情報であっても、ファイルに指定した場合は有効になります。

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10 V9

【技術サポート】

Q: 監査証跡ログを確認するために必要な権限を教えてください。

A: 監査証跡ログを確認するには、以下の権限が必要です。

- 帳票出力サーバが Windows の場合
  Administrators 権限
- 帳票出力サーバが Solaris/Linux の場合
  システム管理者権限

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8

【技術サポート】

Q: 監査証跡ログファイルの文字コードを教えてください。

A: 監査証跡ログファイルの文字コードは、以下で作成されます。

- 帳票出力サーバが Windows の場合
  Shift-JIS
- 帳票出力サーバが Solaris/Linux の場合
  システムの文字コード系

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8

【技術サポート】

Q: 帳票様式定義で定義した項目と入力データの関連付けや、関数などの演算はどこで指定できますか？

A: ［データ定義］画面で指定できます。

データ定義では、帳票様式定義で定義した項目と入力データの関連付けや、関数などの演算を指定します。
演算としては、主に以下のものが指定できます。

- BREAK 制御
- 組込みメディア項目のメディアデータの種類
- 文字列操作
- 条件判定
- 関数（四則演算や総和など）
- ページ番号や総ページ数の設定

操作手順は以下のとおりです。

＝ 操作手順 ＝

1. ［帳票様式定義］画面を表示します。
2. ［ファイル］－［データ定義］を選択します。
   ⇒［データ定義］画面が表示されます。

プラットフォーム : Windows
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: 帳票に出力時の属性（プロパティ）や動作などを定義できますか？

A: 出力時の属性（プロパティ）や動作などを定義した情報を帳票業務情報として帳票に定義できます。

帳票業務情報には、帳票の出力方法（印刷、PDF ファイル保存、Excel ファイル出力など）や、出力方法ごとに出力時の動作などの情報が定義できます。
例えば、次のような情報です。

- プリンタに 3 部ずつ印刷する
- 大阪支社に FAX 送信する
- 帳票を PDF ファイルに変換して保存する

操作手順は以下のとおりです。

= 操作手順 =

1. ［帳票定義一覧］画面を表示します。
2. ［ファイル］－［プロパティ］を選択します。
   ⇒［帳票業務情報のプロパティ］画面が表示されます。

プラットフォーム : Windows Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: Interstage Navigator Server 連携機能で使用する TCP/IP ポート番号を教えてください。

A: Interstage Navigator Server 連携機能で使用するポート番号は、インストール直後は「30001」が設定されています。ポート番号を変更したい場合は、次の手順で行ってください。

= 操作手順 =

1. コンピュータにログオンします。
   システム管理者権限で、コンピュータにログオンしてください。
2. 「/etc/services」ファイルをテキストエディタで開きます。
3. 「fjsvoast」の文字列を検索し、以下の行があるかを確認します。
   rn 30001/tcp # Navigator Server 1
   ポート番号を変更する場合は、上記の「30001」の値を変更します。
   上記の行が存在しない場合は、ファイルに上記の行を追加し、ポート番号を設定してください。
4. 変更内容を保存（ファイルを更新）し、テキストエディタを終了します。
5. システムを再起動します。

プラットフォーム : Solaris Linux
バージョン : V10 V9 V8 V7

【技術サポート】

Q: コネクタ連携機能で使用する TCP/IP ポート番号を教えてください。

A: コネクタ連携機能では以下のポートを使用します。

- RMI 通信用（アプリケーションサーバ）
- データ送信用（アプリケーションサーバ、帳票出力サーバ）

Interstage List Creator がコネクタ連携機能で使用するポート番号は、インストール直後は以下が設定されています。ポート番号を変更したい場合は、次の手順で行ってください。

- RMI 通信用：3914
- データ送信用：3913

● Solaris/Linux の場合

《RMI 通信用ポート番号の変更》

アプリケーションサーバで以下の操作を行ってください。

= 操作手順 =

1. コンピュータにログオンします。
   システム管理者権限で、コンピュータにログオンしてください。
2. コネクタ連携機能のサービスを停止してください。
   # /opt/FJSVoast/etc/rc.d/FJSVoastrmpr stop
3. 以下の環境設定ファイルをテキストエディタで開きます。
   変更するポート番号は同じ値を設定してください。
   - /etc/opt/FJSVoast/remoteprint/requester/bin/RequesterProperty

jp.co.pfu.ardus.model.jom.requester.rmiPort プロパティの値を変更します。
- /etc/opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/bin/DaemonProperty
  jp.co.pfu.ardus.model.jom.daemon.responder.rmiPort プロパティの値を変更します。

4. 変更内容を保存（ファイルを更新）し、テキストエディタを終了します。
5. コネクタ連携機能のサービスを起動してください。
   # /opt/FJSVoast/etc/rc.d/FJSVoastrmpr start

《データ送信用ポート番号の変更》
アプリケーションサーバ、帳票出力サーバで以下の操作を行ってください。
= 操作手順 =
1. コンピュータにログオンします。
   システム管理者権限で、コンピュータにログオンしてください。
2. コネクタ連携機能のサービスを停止してください。
   # /opt/FJSVoast/etc/rc.d/FJSVoastrmpr stop
3. 以下の環境設定ファイルをテキストエディタで開きます。
   変更するポート番号は同じ値を設定してください。
   - アプリケーションサーバ
     - /etc/opt/FJSVoast/remoteprint/requester/data/DefaultTransferProperty
       jp.co.pfu.atool.delivery.requester.transferPort プロパティの値を変更します。
   - 帳票出力サーバ
     - /etc/opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/bin/DaemonProperty
       receivePort プロパティの値を変更します。
4. 変更内容を保存（ファイルを更新）し、テキストエディタを終了します。
5. コネクタ連携機能のサービスを起動してください。
   # /opt/FJSVoast/etc/rc.d/FJSVoastrmpr start

● Windows の場合

《RMI 通信用ポート番号の変更》
アプリケーションサーバで以下の操作を行ってください。
ここでは、アプリケーションサーバが Windows Server 2003 の場合の操作手順について説明します。
= 操作手順 =
1. コンピュータにログオンします。
   Administrators 権限を持つユーザーで、コンピュータにログオンしてください。
2. ［スタート］－［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、以下のサービスを停止します。
   - ListCREATOR Connector
   - ListCREATOR RemotePrint
3. 以下の環境設定ファイルをテキストエディタで開きます。
   変更するポート番号は同じ値を設定してください。
   - インストールディレクトリ¥remoteprint¥requester¥bin¥RequesterProperty
     jp.co.pfu.ardus.model.jom.requester.rmiPort プロパティの値を変更します。
   - インストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥bin¥DaemonProperty
     jp.co.pfu.ardus.model.jom.daemon.responder.rmiPort プロパティの値を変更します。
4. 変更内容を保存（ファイルを更新）し、テキストエディタを終了します。
5. ［スタート］－［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、以下のサービスを起動します。
   - ListCREATOR RemotePrint
   - ListCREATOR Connector

《データ送信用ポート番号の変更》
アプリケーションサーバ、帳票出力サーバで以下の操作を行ってください。
ここでは、アプリケーションサーバが Windows Server 2003 の場合の操作手順について説明します。
= 操作手順 =
1. コンピュータにログオンします。
   Administrators 権限を持つユーザで、コンピュータにログオンしてください。
2. ［スタート］－［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、以下のサービスを停止します。
   - ListCREATOR Connector
   - ListCREATOR RemotePrint
3. 以下の環境設定ファイルをテキストエディタで開きます。
   変更するポート番号は同じ値を設定してください。
   - アプリケーションサーバ

・ インストールディレクトリ¥remoteprint¥requester¥data¥DefaultTransferProperty
jp.co.pfu.atool.delivery.requester.transferPort プロパティの値を変更します。
- 帳票出力サーバ
・ インストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥bin¥DaemonProperty
receivePort プロパティの値を変更します。

4. 変更内容を保存（ファイルを更新）し、テキストエディタを終了します。
5. ［スタート］－［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、以下のサービスを起動します。
   - ListCREATOR RemotePrint
   - ListCREATOR Connector

プラットフォーム　: Windows　Solaris　Linux
バージョン　: V10　V9　V8　V7

【技術サポート】

Q: 帳票出力ユーティリティのサポート範囲を教えてください。

A: 帳票出力ユーティリティは、【Windows 版】の以下の製品種別の場合に使用できます。

- List Creator Enterprise Edition
- List Creator Standard Edition

また、帳票出力ユーティリティは、以下のサポート範囲となります。

- 運用形態：スタンドアロン型のみ
- 出力方法：印刷のみ

プラットフォーム　: Windows
バージョン　: V10

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

商標について

記載されている会社名、システム名、製品名、サービス名などの固有名詞は一般に各社の登録商標または商標です。
また、本文および図表中に記載されている会社名、システム名、製品名、サービス名などには必ずしも「TM」、「(R)」を付記しておりません。

改版履歴

2026.02.20　第 1 版

© 2026 Fujitsu Limited